草木不レ大。春之德風。風不レ信其華不レ盛。華不レ盛。則果實不レ生。夏之德暑。暑不レ信。其土不レ肥。土不レ肥。則長遂不レ精。秋之德雨。雨不レ信。其穀不レ堅。穀不レ堅。則五種不レ成。冬之德寒。寒不レ信。其地不レ剛。地不レ剛。則凍閉不レ開。天地之大。四時之化。而猶不レ能二以レ不レ信成一レ物。又況乎二人事一。君臣不レ信。則百姓誹謗。社稷不レ寧。處レ官不レ信。則少不レ長長不レ貴。賤相輕。貴賤不レ信。則民易レ犯レ法。不レ可レ使レ令。交友不レ信。則離散鬱怨。不レ能二相親一。百工不レ信。則器械苦偽。丹漆染色不レ貞。夫可二與爲一レ終。可二與爲一レ始。可二與舉一レ遠。可二與重一レ襲。於身。乃親む能はず。百工信ならずんば、則ち器械苦偽、丹漆染色貞しからず。それ與に始を爲すべく、與に終を爲すべく、與に舉遠すべく、與に卑窮すべきものは、それたゞ信か。信にしてまた信ならば、身に重襲して、乃ち天に通ず。これを以て人を治むれば、則ち膏雨甘露降り、寒暑四時當る。齊の桓公、魯を伐つ。魯人敢へて輕しく戰はず。魯國を去ること五十里にしてこれを封ず。魯、闕内侯に比し、以て聽されんことを請ふ。桓公これを許す。曹劌、魯の莊公に謂つて曰く、「君は寧ろ死してまた死するか。それ寧ろ生きてまた生くるか」と。莊公曰く、「何の謂ぞや」と。曹劌曰く、「臣の言を聽かば、國必ず廣大に、身必ず安樂ならん。これ生きてまた生くるなり。臣の言を聽かずんば、國必ず滅亡し、身必ず危辱ならん。これ死してまた死するなり」と。莊公曰く、「請ふ、從はん」と。是に於て明日將に盟はんとす。莊君と曹劌とは、みな劍を懷にして壇上に至る。莊公左に桓公を搏へ、右に劍を抽きて、以て自ら承けて曰く、「魯國、境を去ること數百里、今境を去ること五十里、また生くるなし。鈞しくそれ死するなり、君前に戮せん」と。管仲・鮑叔進む。曹劌、劍を按じて兩陛の間に當りて曰く、「かつ二君將に圖を改めんとす。進むもの或る毋かれ」と。莊公曰く、「汝に對ずれば則ち可なり。不んば則ち請ふ死せん」と。管仲曰く、「地を以て君を衞る、君を以て地を衞るにあらず。君それ之を許せ」と。乃ち遂に汶南に封じ、これと盟ふ。歸りて予ふる勿からんと欲す。管仲曰く、「不可なり。人特に君を劫して盟はず。君の知らざるは、智と謂ふべからず。難に臨んで聽く勿き能はざるは、勇と謂ふべからず。これを許して予へざるは、信と謂ふべからず。不智・不勇・不信、この三つのものあり、以て功名を立つべからず。これに予へて地を亡ふと雖も、亦信を得ん。四百里の地を以て、天下に信ぜらる。君なほ得るがごときなり。莊公は仇なり。曹劌は賊なり。仇賊に信ぜらる。また況んや仇賊にあらざるものに於てをや」と。それこれを九合して合し、これを壹匡して聽はしめし

通二於天一。以レ此治レ人。則膏雨甘露降矣。寒暑四時當矣。齊桓公伐レ魯。魯人不二敢輕戰一。去二魯國二五十里一而封レ之。魯請下比二關内侯一以聽上。桓公許レ之。曹劌謂二魯莊公一曰。君寧死而又死乎。其寧生而又生乎。莊公曰。何謂也。曹劌曰。聽二臣之言一。國必盡大。身必安樂。是生而又生也。不レ聽二臣之言一。國必滅亡。身必危辱。是死而又死也。莊公曰。請從。於レ是明日將レ盟。莊公與二曹劌一皆懷レ劒至二於壇上一。莊公左搏二桓公一。右抽レ劒以自承曰。魯國去レ境數百里。今去レ境五十里。亦無レ生矣。鈞其死也。戮二於君前一。管仲鮑叔進。曹劌按レ劒當二兩陛之間一曰。且二君將レ改レ圖。毋レ或二進者一。莊公曰。封二於汝一。則可。不則請死。管仲曰。以レ地衛レ君。非二以レ君衛一レ地。君其許レ之。乃遂封二於汝南一。與之盟。歸而欲レ勿レ予。管仲曰。不可。人特劫レ君而不レ盟。君不レ知。不レ可レ謂レ智。臨レ難而不レ能レ勿レ聽。不レ可レ謂レ勇。許レ之而不レ予。不レ可レ謂レ信。不智不勇不信。有二此三者一。不レ可三以立二功名一。予レ之雖レ亡レ地亦得レ信。以二四百里之地一。見レ信二於天下一。君猶レ得レ也。莊公仇也。曹劌賊也。信二於仇賊一。又況於二非一レ仇賊一者上乎。夫九二合之一而合。壹二匡之一而聽。從レ此生矣。管仲可レ謂二能因一レ物矣。以レ勞爲レ榮。以レ窮爲レ通。雖レ失二乎前一。可レ謂二後得一レ之矣。物固不レ可レ全也。

は此より生ぜり。管仲は能く物に因ると謂ふべし。孚を以て菜と爲し、窮を以て通と爲す、前に失へりと雖も、後にこれを得たりと謂ふべし。物は固に全かるべからざるなり。

● 諸侯のこの文は、逸文なり　● 滿は、盛也　● 人の有とは、他人の所有の意　● 周もなく王たらんと也　● 逕は、盛也　● 堅は好也。成は、聚也　● 開かずは、氣の通ぜざるをいふ　● 孚は、於也　● 易は、輕也、あなどる也　● 貞は正也　● 當は、臨といふに同じ　● 衆は、劒を按きて、その喙を指すをいふ　● 鈞は、等也　● 戮は、殺也　● 公羊傳に、莊公、壇を升り、曹子、劒を手にしてこれに從ふ。汶陽の田を復せんことを請ふ。管子曰く、君これを許せと。桓公曰く諾と。曹子、盟はんことを請ふ。桓公下りてこれと盟ふとあるこれなり

舉難

八曰。以レ全舉レ人固難。物之情也。人傷レ廢以二不慈之名一。舜以二卑レ父之號一。禹以二貪レ位之意一。湯武以二放弒之謀一。五伯以二侵奪之事一。由レ此觀レ之。物豈可レ全哉。故君子責レ人則以レ人。自責則以レ己。

八に曰く、全を以て人を舉ぐるの固に難きは、物の情なり。人傷くる、廢を以て不慈の名を以てし、舜をば父を卑むの號を以てし、禹をば位を貪るの意を以てし、湯武をば放弒の謀を以てし、五伯をば侵奪の事を以てせり。此に由りてこれを觀れば、物豈に全かるべけんや。故に君子は、人を責むるには則ち人を以てし、自ら責むるには則ち義を以てせり。人を責むるに人を以てすれば、則ち足り易く、足り易ければ、則ち人を得。自ら責むるに義を以てすれば、則ち非を爲し難し。非を爲し難ければ、則ち飾しきを行ふ。故に天地を任として餘あり。不肖者は則ち然らず。人を責むるには則ち人を以てし、自ら責むるには則ち義を以てし、

則以レ義。責レ人以レ人則易レ足。易レ足則得レ人。自責以レ義則難レ爲レ非。難レ爲レ非則行レ飾。故任二天地一而有レ餘。不肖者則不レ然。責レ人則以レ義。自責則以レ人。責レ人以レ義。責難レ贍。難レ贍則失レ親。自責以レ人則易レ爲。易レ爲則行レ苟。故天下之大而不レ容也。身取レ危。國取レ亡焉。此桀紂幽厲之行也。

す。人を責むるに義を以てすれば、責められて贍難し。贍難ければ、則ち親を失ふ。自ら責むるに人を以てすれば、則ち爲し易く、爲し易ければ、則ち苟を行ふ。故に天下の大にして容れられざるなり。身は危きを取り、國は亡ぶるを取る。これ桀紂幽厲の行なり。尺の木も必ず節目あり、寸の玉も必ず瑕瑾あり。先王は、物の全かるべからざるを知るなり。故に務を擇んで、一を取るを貴ぶなり。季孫氏、公家を劫す。孔子、術を論さんと欲す、則ち外ぜられたり。是に於て養を受けて說に便ぜしかば、魯國以て訾れり。孔子曰く、「龍は清に食ひて濁に游び、魚は濁に食ひて濁に游ぶ。今丘は、上は龍に及ばず、下は魚に若かず。丘はそれ蠐か」と。それ功を立てんと欲するものは、豈に繩に中るを得んや。溺るゝを救ふものは濡れ、逃ぐるを追ふものは趨る。魏の文侯の弟を季成と曰ひ、友を翟璜と曰ふ。文侯これを相とせんと欲して、未だ決する能はず。以て李克に問ふ。李克對へて曰く、「君、相を置てんと欲

尺之木必有二節目一。寸之玉必有二瑕瑾一。先王知二物之不一レ可レ全也。故擇レ務而貴取レ一也。季孫氏劫二公家一。孔子欲レ論レ術。則見レ外。於レ是受レ養而便レ說。魯國以訾。孔子曰。龍食二乎清一而游二乎清一。蝤食二乎濁一而游二乎濁一。今丘上不レ及レ龍。下不レ若レ魚。丘其蠐邪。夫欲レ立

せば、則ち樂騰と王孫苟端と、孰れか賢なるかを問へ」と。文侯曰く、「善し」と。王孫苟端を以て不肖と爲す、翟璜これを進む。樂騰を以て賢と爲す、季成これを進む。故に季成を相とせり。およそ主に聽かれて人を言ふは、愼まざるべからず。季成は弟なり。翟璜は友なり。而も猶ほ知る能はず。何に由りてか、樂騰と王孫苟端とを知らんや。疏賤のものをば知り、親習のものをば知らず、理おのづから然る無し、おのづから然るも斷ずる相過ぐ。李克の文侯に對ふるや、また過ぎたり。みな過ぐと雖も、これを譬ふれば、金の木に與けるが若し。金は柔なりと雖も、猶ほ木より堅きがごとし。孟嘗君、白圭に問ひて曰く、「魏の文侯の名は桓公に過ぐ。而も功の五伯に及ばざるは、何ぞや」と。白圭對へて曰く、「文侯は子夏を師とし、田子方を友とし、段干木を敬せり。これ名の桓公に過ぐる所以なり。相を卜せんとして曰く、『成と璜と孰れか可なる』と。これ功の五伯に及ばざる所以なり。相なるものは、百官の長なり。擇ぶものは、その博からんこ

功者。豈得レ中レ賞哉。救レ溺者趨。追レ逃者趨。魏文侯弟曰二翟璜一。文侯欲レ相レ之而未レ能レ決。以問二季充一。季充対曰。君欲レ置レ相。則問下樂懽與二王孫苟嬰一執賢上。文侯曰。善。以二王孫苟嬰一爲二不肖一。翟璜進レ之。以二樂懽一爲レ賢。季成進レ之。故相二季成一。凡聽二於主一。言レ人不レ可レ不レ愼。季成弟

也。翟璜友也。而猶不レ能レ知。何由知三樂懽與二王孫苟嬰一哉。疏賤者知。親習者不レ知。理無二自然一。自然而斷相過。季充之對二文侯一也亦過。雖二皆過一。譬レ之若二金之與一レ水。金雖レ柔。猶レ堅二於水一。孟嘗君問二於白圭一曰。魏文侯名過二桓公一。而功不レ及二五伯一。何也。白圭對曰。文侯御二子夏一。友二田

齊を去ること遠からず。君、人をしてこれを問はしむるに若かず。而して固に賢者ならば、これを用ふる、未だ晩からざるなり」と。桓公曰く、「然らず。これを問へば、その小惡あるを患へん。人の小惡を以て、人の大美を亡ふは、これ人主の、天下の士を失ふ所以なるのみ」と。およそ聽くは必ず以てするあるなり。今聽いて復た問はざるは、その以てする所に合へばなり。かつ人は固に全うし難し。權りてその長を用ふるものは、擧ぐるに當ればなり。桓公これを得たり。

(一) 人を以てしとは、缺點ある素人といふ等にて、人に講むをいふ (二) 師は、正也 (三) その人を臨繼げれば則ち怒る。怒られば則ち離叛す。故に親むところを失よといへるなり。離仲子曰く、離は、當に離となすべしと。離は、足也 (四) 苟は、苟且なり、曖昧に從はざるをいふ (五) 一は、一分也 (六) 季孫氏は武子にて、季文子の子なり。魯の公家の政柄を劫奪して、自らこれを專にせしをいふ (七) 孔子が季氏の養を受くれば、則ち躍外せられず、以て道術を論ずるに便にせりと也。曾は、嘗也、孔子をそしれるをいふ (八) 蜮は、鼈の別種にて、みづち (九) 本文に、季充とあるは、季克の誤なり。形の似たるにより て誤れるなり (一〇) 翟は、立也 (一一) ものづから然るとするも聞もの意か。通は、長也、論語にある、通ぎたるは、周人なり。文侯の功の、何を以て五伯に及ばざるかを問へるなり (一二) トは、擇也、えらぶ也。成は季成、

とを欲するなり。今擇ばんとして二人を去らず。與にその讎を用ふるも、また遠し。かつ師友なるものは、公可なり。戚愛なるものは、私安なり。私を以て公に勝つは、衰國の政なり。然して名號の顯榮するものは、三士これを羽翼すればなり」と。寧戚、齊の桓公に干めんと欲す。窮困以て自ら進むなし。是に於て商旅を爲し、將に車に任して以て齊に至らんとす。暮に郭門の外に宿す。桓公郊に客を迎へ、夜門を開き、任車を辟け、火を爝くこと甚だ盛にして、從者甚だ衆し。寧戚牛を飯ひて車下に居り、桓公を望みて悲み、牛角を擊ちて疾く歌ふ。桓公これを聞き、その僕の手を撫して曰く、「異なるかな。之の歌ふものは、常人にあらざるなり」と。後車に命じてこれを載す。桓公反り至る。從者以て請ふ。桓公之に衣冠を賜ひ、將にこれを見んとす。寧戚見ゆ。桓公に說くに境內を治むるを以てす。桓公に說くに天下を爲むるを以てす。桓公大に說び、將にこれを任ひんとす。羣臣これを爭ひて曰く、「客は衞人なり。衞の

子方。敬二段干木一。此名之所二以過一恒公一也。卜レ相曰。成與レ璜孰可。此功之所二以不レ及二五伯一也。相也者。百官之長也。擇者欲二其博一也。今擇而不レ去二二人一。與用二其讎一亦遠矣。且師友也者。公可也。戚愛也者。私安也。以レ私勝レ公。衰國之政也。然而名號顯榮者。三士羽二翼之一也。寧戚欲レ干二齊桓公一。窮困無二以自進一。於レ是爲二商旅一。將二任レ車以至レ齊。暮宿二於郭門之外一。桓公郊迎レ客。夜開レ門。辟二任車一。爝火甚盛。從者甚衆。寧戚飯レ牛居二車下一。望二桓公一而悲。擊二牛角一。疾歌。桓公聞レ之。撫二其僕之手一曰。異哉之歌者。非二常人一也。命二後車一載レ之。桓公反レ至。從者以請。桓公賜二之衣冠一。將レ見レ之。寧戚見。說二桓公一。以レ治二境內一。明日復見。說二桓公一。以レ爲二天下一。桓公大說。將レ任レ之。羣臣爭レ之曰。客卿人也。卿之去レ齊。不レ遠。君不レ若レ使二人問一レ之。而固賢者也。用レ之未レ晚也。桓公曰。不レ然。問レ之。患三其有二小惡一。以二人之小惡一。亡二人之大美一。此人主之所三以失二天下之士一也已。凡聽必有レ以矣。今聽而不二復問一。合二其所一レ以也。且人固難レ全。擢而用二其長一者。當レ擧

頃は、穎頃也　五伯は、五霸也　また遲しは、かゝる官職に及ばざること遲しと也　三士は、子夏・田子方・段干木也。羽翼すは、これを佐くる意　干は、仕をもとむる意　任は、載なり、荷を載せて也　歌ふは、詩也　任は、用也

一曰。凡人之性。爪牙不レ足二以自守衞一。肌膚不レ足三以扞二寒暑一。筋骨不レ足二以從レ利辟レ害。勇敢不レ足二以却レ猛禁レ悍。然且猶裁二萬物一。制二禽獸一。服二狡蟲一。寒暑燥溼弗レ能レ害。不三唯先有二其備一。

卷第二十

特君覽第八

特君覽

一に曰く、およそ人の性は、爪牙は以て自ら守衞するに足らず。肌膚は以て寒暑を扞ぐに足らず。筋骨は以て利に從ひ害を辟くるに足らず。勇敢は以て猛を却け悍を禁むるに足らず。然れどもかつ猶は萬物を裁し、禽獸を制し、狡蟲を服す。寒暑燥溼も害する能はず。たゞ先づその備あるのみならずして、羣を以て聚るか。羣の聚るべきは、相與にこれを利すればなり。利の羣に出づるや、君道立てば、則ち利、羣に出でて、人の備完かるべし。むかし太古嘗て君なし。その民聚生聚處し、母を知りて父を知らず。親戚兄弟、夫妻男女の別なく、上下長幼の道なく、進退揖讓の禮なく、衣服履帶、宮室畜積の便なく、

器械舟車、城郭險阻の備なし」。(八)これ君なきの患なり。故に君臣の義は、明にせざるべからざるなり。上世より以來、天下に亡國多し。而も君道の廢れざるものは、天下の利なればなり。故にその君に非らざるものを廢して、その君道を行ふものを立つ。君道とは何如。利して、物利章るゝなり。非濱の東、夷穢の鄉、大解(九)陵魚、その鹿野搖山揚島、大人の居、多く君無し。揚漢の南、百越の際、斂斷諸(一〇)夫風餘靡の地、縛婁陽禺鑿兜(一一)の國、多く君なし。氐羌呼唐離水の西、焚人野人、(一二)篇笮の川、舟人送龍、突人の鄉、多く君なし。鴈門の北、鷹隼の鷙する所、須窺(一三)の國、饕餮窮奇の地、叔逆の所、儋耳の居、多く君なし。これ四方の君なきものなり。その民は麋鹿禽獸、少者長を使ひ、長者壯を長れ、力あるものは賢、(一四)暴傲のものは尊、日夜相殘ひ、休息するに時なく、以てその類を盡す。聖人は深くこの患を見るなり。故に天下の長慮を爲すは、天子を置つるに如くは莫きなり。一國の長慮を爲すは、君を置くに如くは莫きなり。君を置くは、以て君に

郭險阻之備。此無レ君之患。故君臣之義。不レ可レ不レ明也。自二上世一以來。天下亡國多矣。而君道不レ廢者。天下之利也。故廢二其非一レ君。而立下其行二君道一者上。君道何如。利而物利章。非濱之東。夷穢之鄉。大解陵魚。其鹿野搖山揚島。大人之居。多無レ君。揚漢之南。百越之際。斂斷諸

阿るにあらざるなり。天子を置くは、以て天子に阿るにあらざるなり。官長を置くは、以て官長に阿るにあらざるなり。(一五)天下を利し、國君は國を利し、官長は官を利す。これ國の遯に興り遯に廢る(一六)る所以なり。亂難の時に作る所以なり。故に忠臣廉士は、これを內にしては、則ちその君の過を諫むるなり。これを外にしては、則ち人臣の義に死するなり。豫讓、趙襄子を殺さんと欲し、鬚を滅ち眉を去り、自ら刑して以てその容を變じ、乞人と爲りて、往きてその妻の所に乞ふ。その妻曰く、「狀貌の吾が夫に似たるものなし。その音の何ぞ吾が夫に類るの甚しきや」と。また炭を呑みて以てその音を變へたり。その友これに謂つて曰く、「子の道とするところ、甚だ難くして功なし。子を志ありと謂ふは、則ち然り。子を智なりと謂ふは、則ち然らず。子の材を以てして、事を襄子に索めば、襄子は必ず子を近づけん。子近づくを得て欲するところを行ふ。これ甚だ易くして、功必ず成らん」と。豫讓笑ひてこ

夫風餘譯之地。縛婁陽禺驩兜之國。多無ㇾ君。氏羌呼唐離水之西。焚人野人。舊竿之川。舟人竝龍突人之鄉。多無ㇾ君。鷹門之北。鷹隼所ㇾ育。須窺之國。雲雾窮奇之地。叔逆之所。儋耳之居。多無ㇾ君。此四方之無ㇾ君者也。其民麋鹿禽獸。少者使ㇾ長。長者長ㇾ壯。有ㇾ力者賢。暴れに應へて曰く、「これ先知のために後知に報ゆるなり。故君の爲に新君を賊ふなり。大に君臣の義を亂すもの、かくのごときはなし。吾がこれを爲す所爲を失へり。およそ吾がこれを爲すものは、君臣の義を明にする所以なり。易に從ふにあらざるなり」と。柱厲叔、莒の敖公に事ふ。自ら以て知られずと爲して、去りて海上に居る。夏日は則ち菱芡を食ひ、冬日は則ち橡栗を食ふ。莒の敖公難あり。柱厲叔その友に辭して、往きてこれに死なんとす。その友曰く、「子は自ら以て知られずと爲す。故に去れり。今また往きてこれに死なんとす。これ知らると知られざると異別なきなり」と。柱厲叔曰く、「然らず。自ら以て知られずと爲す、故に去れり。今死す、而も往きて死せずんば、これ果して我を知るなり。われ將にこれに死し、以て後世人主の、その臣を知らざるものを醜めんとするなり」と。人に君たる者の行を激して、人主の節を厲ます所以なり。激節を行ひ、忠臣を厲ますは、察を得るに幸す。忠臣察なれば、則ち君道固し。

（一）夫は、發語の辭。（二）風餘は、東方の國名。（三）譯は、通也。（四）縛婁陽禺驩兜は、皆國名。（五）多無ㇾ君は、君なきを以て患となす也。（六）氏羌は、西戎の名。（七）呼唐離水は、河の支流。（八）焚人野人は、皆國名。（九）舊竿は、竹の大なるもの也。（一〇）竝龍突人は、これが爲をなすを知るが故也。（一一）鷹門は、山の名。（一二）須窺は、國名。（一三）雲雾窮奇は、皆國名。（一四）儋耳は、國名。（一五）麋鹿は、大鹿。（一六）禽獸は、鳥獸の幼の頃にて、未だ君臣の別あらざるに、君なきを以て患となす也。（一七）君は、陵賃處刑を施し、以てこれを正すが故に、天下の利となる也。（一八）非濮は、北濮の誤にあらざるかと。朝鮮樂浪の誤にて、箕子の封ぜられしところ、東海に濱す。東方を夷と曰ふ。一國は、東方の夷の君長あるなきをいふ。（一九）揚海は、揚州の滄水の際の意。百越とは越記百粵あるが故也。敖戲云々は、みな南越の夷にて、君なきものなり。（二〇）西方の戎の君なきものを、まづ氐羌といひ、後に突人といふは、近きより遠きに及べる也。（二一）これらは、みな北方の狄の君なきもの也。（二二）これちは、みな蠻夷を知らず、長幼の別なきこと、鷹鵰禽獸の如しと也。賢とは、衆なるものをいふ。類は、種也。（二三）離は、附也、はかりごと。（二四）天下を利すとは、天下を以ておのが利となすをいへるなり。古への聖王、天下を有して後世に與へんば、則ち天下を以ておのが利となすなり。故に興廢ありて、亂離時にあふると也。（二五）義をば、身よりも重んずと也。（二六）おのが主智伯のために、趙襄子を殺さんと欲せしなり。（二七）道は、由る所の意。（二八）所爲は所存、存念の如き意、所以と做して見るも亦通ず。（二九）柱厲叔は、自ら、敖公の知るところとならざるが爲に、これをすてて去れり。今また往きてその難に死なんとせし也。（三〇）往きて敖公の難に死なんとせし也。（三一）柱厲叔は、敖公に知られざるが爲に、これをすてて去れり。今また往きてその難に死するは、これ知らるると知られざるとの差別立たずと也。（三二）今その難に死せざ。これ敖公、果してわが不良の臣たるを知るなりと也。（三三）醜は、慙也。卽ち、たゞ明君は能く忠臣を知るのみ。敖公は、明君にあらず。故にその難に死し、以て後世良臣を知らざる君をして、人を知らざるを慙ぢしめんと也。（三四）激は、發也。厲は、高也。卽ち、人君の行を

儆者警。日夜相續。無ㇾ時ニ休息ㇾ。以盡ニ其類ㇾ。聖人深見ニ此患ㇾ也。故爲ニ天下長慮ㇾ。莫ㇾ如ㇾ置ニ天子ㇾ也。爲ニ一國長慮ㇾ。莫ㇾ如ㇾ置ㇾ君也。置ㇾ君非ニ以阿ㇾ君也。置ニ天子ㇾ非ニ以阿ニ天子ㇾ也。置ニ官長ㇾ非ニ以阿ニ官長ㇾ也。德衰世亂。然後天子利ニ天下ㇾ。國君利ㇾ國。官長利ㇾ官。此國所ニ以遏興遞廢ㇾ也。亂雖之

所二以時作一也。
故忠臣廉士。
內レ之則諫二其
君之過一也。外レ之則死二人臣之義一也。讒諛欲レ殺二趙襄子一。滅レ鬚去レ眉。自利以變二其容一。爲二乞人一而
往乞二於其妻之所一。其妻曰。狀貌無下似二吾夫一者上。其音何類二吾夫之一甚也。又呑レ炭以變二其音一。其
友謂レ之曰。子之所レ道。甚難而無レ功。謂二子智一則不レ然。以二子之材一而索二事襄
子一。襄子必近レ子。子得レ近而行レ所レ欲。此甚易而功必成。讒諛笑而廱レ之曰。是先知報二後知一也。
爲二故君一賊二新君一矣。大亂二君臣之義一者無レ此。失三吾所二爲爲一之矣。凡吾所二爲爲一此者。所三以明二君
臣之義一也。非レ徑レ易也。柱厲叔事二莒敖公一。自以爲レ不レ知。而去居二於海上一。夏日則食二菱炭一。冬日
則貪二燎罋一。莒敖公有レ難。柱厲叔辭二其友一而往死レ之。其友曰。子自以爲レ不レ知。故去。今死。而弗二往死一。是果知レ我也。
之。是知與レ不レ知。無二異別一也。柱厲叔曰。不レ然。自以爲レ不レ知。故去。今死。而弗二往死一。是果知レ我也。
吾將下死レ之。以醜中後世人主之不上レ知二其臣一者上也。所下以激二君レ人者之行一。而厲中人主之節上也。行二激
節一厲二忠臣一。幸二於得レ察。忠臣察則君道固矣。

長利

二曰。天下之士也者。盧二天下之長利一。而
二に曰く、天下の士なるものは、天下の長利を慮りて、固くこれに處するに身を以てするものなり。利の今に倍すと雖も、而も後に便ならずんば爲さざるなり。安くして長久なりと雖も、以てその子孫を私するをば、行はざるなり。

固處レ之以レ身
若也。利雖レ倍二於今一。而不レ便二於後一。弗レ爲也。安雖二長久一。而以私二其子孫一。
弗レ行也。自レ此觀レ之。陳無宇之可レ醜亦重矣。其與二伯成子高一。周公旦。戎夷一也。形雖レ
同。取舍之殊。豈不レ遠哉。堯治二天下一。伯成子高立爲二諸侯一。堯授レ舜。舜
授レ禹。伯成子高辭二諸侯一而耕。禹往見レ之。

此に自りて之を觀れば、陳無宇の醜とすべきは、また重し。その伯成子高、周公旦、戎夷に與けるや、形は同じと雖も、取舍の殊なる、豈に遠からずや。堯、天下を治む。伯成子高立つて諸侯と爲る。堯は舜に授け、舜は禹に授けたり。伯成子高、諸侯を辭して耕す。禹往きてこれを見れば、則ち耕して野に在り。禹趨りて下風に就きて問ひて曰く、「堯の天下を理めしとき、吾子は立ちて諸侯たり。今われに至りてこれを辭せし故は、何ぞや」と。伯成子高曰く、「堯の時に當りては、未だ賞せずして民勸み、未だ罰せずして民畏れ、民は怨を知らず、說を知らず、愉愉としてそれ赤子の如し。今賞罰甚だ數〻にして、民は利を爭ひ、かつ服せず。德は此より衰へ、利は此より作り、後世の亂此より始らん。夫子盍ぞ行らざるか。吾が農事を慮すなかれ」と。(六)協んで耨し、遂に顧みず。それ諸侯たれば、名は顯榮、實は佚樂にして、繼嗣みなその澤を得。伯成子高、問ふを待

則耕在レ野。而萬
種並二下風一而
問曰。堯理二天
下一。吾子立爲二
諸侯一。今至二於
我一而辭レ之故。
何也。伯成子
高曰。當二堯之
時一。未レ賞而民
勸。未レ罰而民
畏。民不レ知レ貴。
不レ知レ說。愉愉
其如二赤子一。今
賞罰甚數而
民爭レ利。且不レ
服。德自レ此衰。
刑自レ此作。後
世之亂自レ此
始。夫子盍レ行
乎。無慮二吾農

たずしてこれを知り、然して諸侯たるを辭せしものは、以て後世の亂を禁めしなり。辛寬、魯の繆公に見えて曰く、「臣にして今にして後、吾が先君周公の、太公望が封の知に若かざるを知るなり。むかし太公望は、營丘の渚に封ぜられたり。海は阻て山は高くして、險固の地なり。是故に、地は日に廣く、子孫彌〻隆なり。吾が先君周公は、魯に封ぜられたり。山林谿谷の險なく、諸侯四面以て達せり。是故に、地は日に削られ、子孫彌〻殺ふ」と。辛寬出づ。南宮括入りて見ゆ。公曰く、「今者寬や周公を非れり。その辭是の若し」と。南宮括對へて曰く、「寬は少者、識らざるなり。君ひとり成王の成周を定めしの說を聞かざるか。その辭に曰く、『たゞ余一人居を成周に營み、たゞ余一人善く得て見易きあるなり。善く得て誅し易からざるあるなり』と。故に曰く、『善なるものはこれを得、不善なるものはこれを失ふ』と。古への道なり。それ賢者は、豈にその子孫の、山林の險を阻て、以て長く無道を爲すを欲せんや。小人なるかな、寬や。今燕爵をし

事一。協而襲。遂
不レ顧。夫爲二諸
侯一名顯榮。實
佚樂。繼嗣皆
得二其澤一。伯成
子高。不レ待レ問
而知レ之。然而
辭レ爲二諸侯一者。
以禁二後世之
亂一也。辛寬見二
魯繆公一曰。臣
而今而後。知二
吾先君周公
之不レ若二太公
望封之知一也。
昔者太公望
封二於營丘之
渚一。海阻山高。
險固之地也。
是故地日廣。

て、鴻鵠鳳皇の爲に慮らしめば、則ち必ず得ず。その求むるところは、瓦の間隙、屋の霤蔚なればなり。與に一擧すれば、則ち千里の志あり。德盛ならず、義大ならざれば、則ちその郊に至らず。愚庫の民のその賢者の爲に慮るも、まさに猶ほ此のごときなり。固に妄に誹訾す、豈に悲しからずや」と。戎夷、齊を遽りて魯に如く。天大に寒し、而して門に後れたり。弟子一人と郭外に宿す。寒きこと愈〻甚し。その弟子に謂つて曰く、「子、われに衣を與へば、われ活くるなり。われ、子に衣を與へば、子活くるなり。われは國士なり。天下の爲に死を惜む。子は不肖の人なり。愛むに足らざるなり。子はわれに子の衣を與へよ」と。弟子曰く、「それ不肖の人なり。また惡ぞ能く國士の衣を與へんや」と。戎夷太息して歎きて曰く、「嗟乎道それ濟はず」と。衣を解きて弟子に與へ、夜半にして死し、弟子遂に活きたり。戎夷それ能く必ず一世を定むと謂ふは、則ち未だこれを識らず。かの人を利せんと欲するの心の如きは、以て加ふべからず。分に達

し、仁愛の心は識なり。故に能く必死を以てその義を見せり。

子孫彌隆。吾先君周公封二於魯一。無二山林谿谷之險一。諸侯四面以逸。是故地日削。子孫彌殺。辛寬出。南宮括入見。公曰。今者寬也非二周公一。其辭若レ是也。南宮括對曰。寬少者弗レ識也。君固不レ聞下成王之定二成周一之說上乎。其辭曰。惟余一人管二居于成周一。惟余一人有三善易二得而見一也。有レ不三善易二得而誅一也。故曰。善者得レ之。不善者失レ之。古之道也。夫賢者豈欲下其子孫之阻二山林之險一。以長爲中無道上哉。小人哉寬也。今使燕爵爲二鴻鵠鳳皇一慮。則必不レ得矣。其所レ求者。瓦之間隙。屋之翳蔚也。與一衆則有二千里之志一。德不レ盛。義不レ大。則不レ重二其郊一。邑庫之民。其爲二實者一慮。亦猶レ此也。固妄誹譽。豈不レ愚哉。戎夷蠻レ齊如レ晉。天大寒而後レ門。與二弟子一一人一宿二於郭外一。寒愈甚。謂二其弟子一曰。子與二我衣一。我活也。我與二子衣一。子活也。我國士也。爲二天下一惜レ死。子不肖人也。不レ足レ愛也。子與二我子之衣一。弟子曰。夫不肖人也。又惡能與二國士之衣一哉。戎夷太息歎曰。嗟乎道其不レ濟夫。解レ衣與二弟子一。夜半而死。弟子遂活。謂二戎夷其能必定二一世一。則未二之識一。若夫欲レ利レ人之心。不レ可二以加一矣。達二乎分一。仁愛之心識也。故能以三曰。達士者。達二乎死生之分一。達二乎死生之分一。則利害存亡。能存亡。弗二能惑一矣。故晏子與二崔杼一盟而不レ變二其義一。延陵

知分

三に曰く、達士は、死生の分に達す。死生の分に達すれば、則ち利害存亡、能く惑はさず。故に晏子は、崔杼と盟ひてその義を變ぜず。延陵の季子は、呉人の以て王たらんことを願ひしも肯ぜず。孫叔敖は、三たび令尹を去りて憂へず。みな達するところあるなり。達するところあれば、則ち物能く惑はさず。荊に次非といふものあり。寶劍を干遂に得、還反らんとして江を

季子。吳人願二以爲一レ王而不レ肯。孫叔敖三爲二令尹一而不レ喜。三去二令尹一而不レ憂。皆有レ所レ逮也。有レ所レ逮。則物弗二能惑一。荊有二次非者一。得二寶劒于干遂一。還反。涉レ江。至二於中流一。有三兩蛟夾繞二其船一。次非謂二舟人一曰。子嘗見二兩蛟挾レ船。能兩活者一乎。船人曰。未二之見一也。次非攝レ衣。拔二寶劒一曰。此江中之腐肉朽骨也。棄レ劒以全レ己。余奚愛焉。於レ是赴レ江刺レ蛟。殺レ之。而復上レ船。舟中之人皆得レ活。荊王聞レ之。仕之執レ圭。孔子聞レ之曰。夫善哉。不下以二腐肉朽骨一而棄中劒者上。其次非之謂乎。禹南省方レ濟二乎江一。黃龍負レ舟。舟中之人。五色無レ主。禹仰觀レ天而歎曰。吾受二命于皇天一。以渉レ江。中流而授レ我。我授レ之而渡。忘レ我也。我忘レ之而渡。忘レ江也。忘レ江則忘レ天下也。若レ此者。其於二天下一也。審矣。其無二所レ重。其無二所レ輕一。物固有レ所レ必。有レ所レ不レ必。有レ所レ不レ必。有レ所レ必。此之謂也。

特君覺第八

屈匱あり、充實達邃あり。これみな天の物理を容るゝなり。然らざるを得ざるの數なり。古の聖人は、以て私を感じ神を傷せず。翛然として以て待つのみ。

晏子と崔杼と盟ふ。その辭に曰く、「崔氏に與せずして、崔氏に與せば、その不祥を受けん」と。晏子、俛して血を飲み、仰ぎて天を呼んで曰く、「公孫氏に與せずして、崔氏に與せば、この不祥を受けん」と。崔杼說ばず。直兵背に造り、句兵頸を鉤し、晏子に謂つて曰く、「子、子の言を變へば、則ち齊國をば吾と子とこれを共にせん。子、子の言を變へずんば、則ち今これのみ」と。晏子曰く、「崔子、子はひとり夫の詩を爲めざるか。詩に曰く、『莫莫たる葛藟、條枚に延へり。凱弟の君子、福を求むる、回はず』と。嬰は且つ回へるを以て福を求むべけんや。子、これを惟へ」と。崔杼曰く、「これ賢者、殺すべからざるなり」と。兵を罷めて去れり。晏子、綏を援きて乘る。其僕將に馳せんとす。晏子、其僕の手を撫して曰く、「これを安んぜよ。節を失ふ毋かれ。疾くするも必ずしも生きず、徐なるも必ずしも死

於天。錫レ力以養レ人。生性也。死命也。余何憂二於龍一焉。龍俛レ耳低レ尾而逝。則禹逮二乎死生之分一。利害之經一也。凡人物者陰陽之化也。陰陽者。造二乎天一而成者也。天固有二衰嗛盛虛一。與レ時消息。人亦有二困窮屈匱一。有二先實逮遂一。此皆天之容二物理一也。而不レ得レ不レ然之數也。古聖

せず。鹿は山に生じて命は廚に懸れり。今嬰の命、懸るところあり」と。晏子は命を知ると謂ふべし。命なるものは、然る所以を知らずして然るものなり。人の智巧を事として以て舉錯するものは、與るを得ず。故に命なるものは、これに就くとも未だ得ず、これを去るとも未だ失はず。國士は、その此の若きを知るなり。故に義を以てこれが決を爲し、而して安んじてこれに處る。白圭、鄒の公子夏后啓に問ひて曰く、「繩を踐むの節、四上の志、三晉の事、これ天下の豪英なり。以て晉に處りて、迭に晉の事を聞けり。未だ嘗て繩を踐むの節、四上の志を聞かず。願はくは得てこれを聞かん」と。夏后啓曰く、「鄙人なり。焉ぞ以て問ふに足らん」と。白圭曰く、「願はくは公子の讓る毋からんことを」と。夏后啓曰く、「以て爲すべしと爲す、故にこれを爲して天下禁むる能はず。以て爲すべからずと爲す、故にこれを釋つ。これを釋てて天下使ふ能はず」と。白圭曰く、「利は使ふ能はざるか。威は禁むる能はざるか」と。夏后啓曰く、「生きて

人不二以感一私傷レ神。戮然而以待耳。晏子與二崔杼一盟。其辭曰。不レ與二崔氏一而與二公孫氏一者。受二其不祥一。晏子俛而呼レ飲レ血。仰而呼レ天曰。不レ與二公孫氏一而與二崔氏一者。受二此不祥一。崔杼不レ說。直兵造レ胷。句兵鉤レ頸。謂二晏子一曰。子變二子言一。則齊國吾與レ子共レ之。子不レ變二子言一。則今是已。晏子

以てこれを使ふに足らずんば、則ち利鬲ぞ以てこれを使ふに足らん。死して以てこれを禁むるに足らずんば、則ち害鬲ぞ以てこれを禁むるに足らん」と。白圭以て應ふるなし。夏后啓辭して出れり。およそ賢不肖を使ふは異なり。不肖を使ふには賞罰を以てし、賢を使ふには義を以てす。故に賢主のその下を使ふや、必ず義にし、賞罰を審にし、然して後賢不肖盡く用を爲す。

一 遠道の士は義に死し、苟も生くるを求めず、不義にして生くるをなさずと也 二 利害存亡云々とは、利の爲に存せず、害の爲に亡びざるが故に、能くこれを禁むるの意也 三 季子は、吳の諸樊の子札なり。王たるを肯ぜず。去りて延陵にゆき、吳國に入らず。故に延陵の季子といへるなり 四 叔敖は、楚賢伯嚭の子。今尹は、楚の卿なり 五 高位のつまづき易くして、たのむに足らざるの意に通ぜるをいふ 六 千乘は、吳の邑也 七 るしとして與ふるもの。閒讀に、侯は儀圭を執るとあり。楚が次非の勇武を賞して諸侯とせし也 八 憂は、懼也 九 遯は、去也 一〇 經は、道也 一一 私は、邪念也。神を傷せずとは、神性をやぶらずと也 一二 俞は、安也 一三 公孫氏は、齊の群公子の子なるが故に、公孫氏といへるなり。晉杼と同じからざるものなるが故に、不辭を受くと也 一四 晏子が、盟に反せばかくなるんといへるをいふよ 一五 直は、矛也。句は、戟也 一六 詩は、詩經大雅皇矣の篇也。其其は、蓋皇のはびこれ

曰。崔子。子獨不ㇾ爲二夫詩一乎。詩曰。莫莫葛藟。延二于條枝一。凱弟君子。求ㇾ福不ㇾ回。嬰且可二以ㇾ回而求一ㇾ福乎。子惟ㇾ之矣。崔杼曰。此賢者不ㇾ可ㇾ殺也。龍ㇾ兵而去。晏子援ㇾ綏而乘。其僕將ㇾ驅。晏子撽二其僕之手一曰。安ㇾ之。毋ㇾ失ㇾ節。疾不二必生一。徐不二必死一。鹿生二於山一。而命懸二於廚一。今嬰之命。有ㇾ所ㇾ懸矣。晏子可ㇾ謂ㇾ知ㇾ命矣。命也者。不ㇾ知三所二以然一而然者上也。人事二智巧一以舉錯者。不ㇾ得ㇾ與焉。故命也者。以ㇾ義爲二之決一。而安處ㇾ之。白圭問二於鄴公子夏一曰。吾二人之學ㇾ術也。同ㇾ師而異ㇾ方。今子之治ㇾ魏。名ㇾ成而實ㇾ虧。子之治ㇾ中山一。名ㇾ成而實ㇾ有。其故何也。公子夏曰。以爲ㇾ可ㇾ爲。故爲ㇾ之。爲ㇾ之天下弗ㇾ能ㇾ禁矣。以爲ㇾ不ㇾ可ㇾ爲。故釋ㇾ之。釋ㇾ之天下弗ㇾ能ㇾ使矣。白圭曰。利弗ㇾ能ㇾ使乎。威弗ㇾ能ㇾ禁乎。夏后啓曰。生不ㇾ足二以使一ㇾ之。則利曷足二以使一ㇾ之矣。死不ㇾ足二以禁一ㇾ之。則害曷足二以禁一ㇾ之矣。白圭無二以應一。夏后啓辭而出。凡使二賢不肖一異。使二不肖一以二賞罰一。使ㇾ賢以ㇾ義。故賢主之使二其下一也。必義。非二賞罰一。然後賢不肖盡爲ㇾ用矣。

四曰。類同相召。氣同則合。聲比則應。故鼓ㇾ宮而宮應。鼓ㇾ角而角動。以ㇾ龍致ㇾ雨。以ㇾ形逐ㇾ影。禍福之所二自來一。衆人以爲ㇾ命焉。不ㇾ知二其所一ㇾ由。故國亂非二獨亂一。有ㇾ必召ㇾ之。獨亂未二必亡一

召類

四に曰く、類同じければ相召き、氣同じければ則ち合ひ、聲比すれば則ち應ず。故に宮を鼓して宮應じ、角を鼓して角動く。龍を以て雨を致き、形を以て影を逐ふ。禍福の自りて來るところ、衆人は以て命と爲し、その由るところを知らず。故に國の亂るゝは、未だ必ずしも亡びざるなり。寇を召くは則ち以て存するなし。およそ兵の用や、利に用ひられ、義に用ひらる。亂を攻むれば則ち攻むるもの榮なり。榮にしてかつ利あらば、中主も猶ほかつこれを爲す。有た況んや賢主に於てをや。

故に割地寶器戈劍卑辭屈服は、以て攻を止むるに足らず。たゞ治を足れりと爲す。治まれば、則ち利の爲にするものは攻めず、名の爲にするものは伐たず。およそ人の攻伐するや、利の爲にあらずんば、則ち固より名の爲なり。名實得ずんば、國彊大なりと雖も、則ち攻を爲すなし。兵は、自りて來るところのもの久し。堯は、丹水の浦に戰ひ、以て南蠻を服し、舜は、苗民を却け、更にその俗を易へ、禹は、曹魏屈驁有扈を攻め、以てその教を行へり。三王以上、固よりみな兵を用ひしなり。亂れれば則ち用ひ、治まれば則ち止む。治りてこれを攻むるは、不祥これより大なるは莫し。亂れて討たざるは、民を害する、これより長なるはなし。これ治亂の化なり。文武の由りて起るところなり。文は愛の徵なり。武は惡の表なり。愛惡義に循ひ、文武常あるは、聖人の元なり。これを譬ふれば、寒暑の序の若し。時至りて事これを生ず。聖人は能く時を爲さず。而も能く事を以て時に適ふ。事の時に適ふものは、その功大なり。士尹池、荊の爲に宋に

名實不レ得。國雖二彊大一、則無レ爲レ攻矣。兵所二自來一者久矣。堯戰二於丹水之浦一、以服二南蠻一。舜却二苗民一、更易二其俗一。禹攻二曹魏驁有扈一、以行二其教一。三王以上。固皆用レ兵也。亂則用。治則止。治而攻レ之。不祥莫レ大レ焉。亂而弗レ討。害レ民莫レ長レ焉。此治亂之化也。文武之所二由起一也。文者愛

使す。司城子罕これを聽す。南家の牆、前に壓でて直からず。西家の涼、その宮を徑りて止まらず。士尹池その故を問ふ。司馬子罕曰く、「南家は工人なり。匾を爲るものなり。われ將にこれを徙さんとす」と。その父曰く、「われ匾を爲るを恃みとし、以て食すること三世なり。今これを徙す。これ宋國の匾を求むるもの、わが處を知らざるなり。われ將に食はざらんとす。願はくは、相國のわが食はざるを憂へんことを。この故の爲に、われ徙らざるなり。西家は高く、わが宮は庫し。涼のわが宮を經るや利なり。故に禁めざるなり」と。士尹池、荊に歸る。荊王適く兵を興して宋を攻む。士宋池、荊王に諫めて曰く、「宋は攻むべからざるなり。その主は賢、その相は仁なり。賢者は能く民を得、仁者は能く人を用ふ。鄭を攻めたり。孔子これを聞きて曰く、「それこれを廟堂の上に脩めて、衝を千里の外に折くとは、それ司城子罕の謂か」と。宋は三大萬乘の間に在り。子罕

之徴也。武者惡之表也。愛惡循レ義。文武有レ常。聖人之元也。譬レ之若二衆星之序一。時至而事生レ之。聖人不二能爲一レ時。而能以レ事遇レ時。事遇二於時一者其功大。士尹池爲レ荊使二於宋一。司城子罕饗レ之。南家之牆。擘二於前一。而不レ直。四家之竈。徑二其宮一而不レ止。士尹池問二其故一。司馬子罕曰。

の時、相侵すところなく、邊境四に盡し、平公・元公・景公を相けて、以てその身を終へしは、それたゞ仁にしてかつ節なるためか。故に仁節の功たるや大なり。故に明堂は、茅茨蒿柱土階三等にして、以て節儉を見せり。趙簡子將に衞を襲はんとし、史默をして往きてこれを睹しむ。期するに一月を以てせしに、六月にして後に反れり。趙簡子曰く、「何ぞそれ久しきや」と。史默曰く、「利を謀りて害を得、猶ほ察せざるがごときなり。今邊伯玉は相と爲り、史鰌は佐たり。孔子は客と爲り、子貢は君前に令せしめられ、甚だ聽はる。易に曰く、『その墓を渙す、元に吉し』と。渙は賢なり。墓は衆なり。元は吉の始なり。その墓を渙す、元に吉しとは、その佐に賢多きなり」と。趙簡子、兵を按じて動かず。およそ謀は疑なり。疑へば則ち義に從ひて事を斷ず。義に從ひて事を斷ずれば、則ち謀虧かず。謀虧かざれば、則ち名實これに從ふ。賢主の舉ぐるや、豈に必ずしも旗旛れ、將鼓れて、乃ち勝敗を知らんや。その理を察して、得失榮辱定

南家工人也。爲レ競者也。吾將レ徙レ之。其父曰。吾恃レ徙レ競以食三世矣。今徙レ之。是宋國之求レ競者。不レ知二吾處一也。吾將レ不レ食。願相國之憂二吾不一レ食也。爲二是故一吾弗レ徙也。四家高二吾宮一庫。潦之經二吾宮一也利。故弗レ禁也。士尹池歸レ荊。荊王適興レ兵而攻レ宋。士尹池諫二於荊王一曰。宋不レ

る。故に三代の貴ぶところ、賢に若くはなきなり。

一 召は、致也、まねく也。合は、會也、あふ也。願は、和也 二 大宮の昔を有するものを毀すれば、小宮調じ、大角を擊てば、小角動くと也 三 謂は水物なり、故に雨を招くと也。また影は形に出で、形が日中を行けば、則ち影これに隨ふ。故に形を以て影を逐ふといへるなり 四 有は、又に同じ、また 五 傳に云く、利は、義の和なりと 六 利ありは、その利を得といふ意 七 榮なりは、榮名を得と也 八 有は、又に同じ 九 人の求むるを止むるに足ると也 一〇 利の器に勸くものは、衆りてものの亂を伐たずと也 一一 名實なきの國は、雖大なりと雖も、則ち往きてこれを攻むることをなすなしと也 一二 苗也 一三 化は、變也 一四 元は、賢也 一五 事のたゞ〳〵その時を得れば、則ち成ちざるなし。故に功大なりと也 一六 司城は、司空の官にて、卿官也。宋の武公の名は司空なるが故に、改めて司城とせし也。臨は、鑒也、さかゞみ。臨すは、むかへて妄を强り、酒を飮ましめし也 一七 墜は、出といふに同じ。曲りて子罕の宮前に出でし也 一八 西家は、地高く、流の東流して、子罕の宮を經てとゞまらずと也 一九 士尹池が、讒を直くせず、淚を止めざるの故を問ひし也 二〇 將に食はざらんとすとは、以てみづから衣食する能ずと也 二一 主は、君也。相は、子罕也 二二 民を得とは、民の歡心を得と也。人を用ふとは、人がこれの用をなすと也 二三 衝車は、敵の軍に衝突し、能くこれを陷破する所以のものなり。有道の國をば攻めんと欲するものをば、その衝車を千里の外に折きかへし、數へて廢ちしめずと也 二四 關に遊あり、北に晉あり、東に宋あり。故に三大萬乘の間といへるなり 二五 相侵すところなくとは、四境の敵國に侵略せられずして、知つて四方にひろぶれりと也。昭は、彼

可レ攻也。其主賢。其相仁。賢者能得レ民。仁者能用レ人。荊國攻レ之。其無レ功而爲二天下笑一乎。故釋レ宋而攻レ鄭。孔子聞レ之曰。夫脩二之於廟堂之上一。而折二衝乎千里之外一者。其司城子罕之謂乎。宋在二三大萬乘之間一。子罕之時。無レ所二相侵一。邊境四益。相二平公元公景公一。以終二其身一。其唯仁且節與。故仁節之爲レ功大矣。故明堂之茅茨蒿柱土階三等。以見二節儉一。趙簡子特レ襲レ衞。使二吏默往睹レ之。期以二一月一。六月而後反。趙簡子曰。何其久也。吏默曰。謀レ利而得レ害。猶レ弗レ察也。今蘧伯玉爲レ相。吏默佐焉。孔子爲レ客。子貢使レ令二於君前一。甚聰。易曰。渙二其羣一。元吉者。渙者賢也。羣者衆也。元者吉之始也。渙二其羣一。元吉者。其佐多レ賢也。趙簡子接レ兵而不レ動。凡謀者疑也。疑則從レ義斷レ事。則從レ理。而得失榮辱定矣。故三代之所レ貴。無レ若レ賢也。

達鬱

五曰。凡人三百六十節。九竅五藏六府肌膚。欲二其比一也。血脈欲二其通一也。筋骨欲二其固一也。心志欲二其和一也。精氣欲二其行一也。若レ此。則病無レ所レ居。而惡無二由生一矣。病之留。惡之生也。精氣鬱也。故水鬱則爲レ汚。樹鬱則爲レ蠹。草鬱則爲レ薉。國亦有レ鬱。生德不レ通。民欲レ達。此國之

五に曰く、およそ人は三百六十節、九竅五藏六府肌膚はその比を欲するなり。血脈はその通を欲するなり。精氣はその行を欲するなり。筋骨はその固を欲するなり。心志はその和を欲するなり。此の若くば、則ち病の居るところなくして惡の由りて生ずるなし。病の留り、惡の生ずるや、精氣鬱すればなり。故に水鬱すれば則ち汚をなし、樹鬱すれば則ち蠹を爲し、草鬱すれば則ち薉を爲す。國もまた鬱する有れば、生德通ぜず。民達せざらんと欲す。これ國の鬱なり。國の鬱すること久しきに處れば、則ち百惡竝び起りて、萬災叢り至る。上下の相忍ぶや、これに由りて出づ。故に聖王の、豪士と忠臣とを貴ぶは、その敢へて直言して、鬱塞を決するが爲なり。周の厲王民を虐ぐ。國人みな謗る。召公以て告げて曰く、「民は命に堪へず」と。王、衞巫をして謗る者を監せしめ、得れば則ちこれを殺す。國敢へて言ふ莫く、道路目を以てせり。王喜んで以て召公に告げて曰く、「われ能く謗を弭めたり」と。召公曰く、「これこれを障ぎしなり。これ

鬱也。國鬱悶レ久則百惡竝起。而萬災震至矣。上下之相怨也。由レ此出矣。故聖王之貴三豪士與二忠臣一也。爲三其敢直言而決二鬱塞一也。周厲王虐レ民。國人皆誇。召公以告曰。民不レ堪レ命矣。王使三衛巫監二誇者一。得則殺レ之。國莫二敢言一。道路以レ目。王喜以告二召公一曰。吾能弭レ謗矣。召公曰。是障レ之也。防二民之口一。甚二於防レ川。川壅而潰。敗レ人必多。夫民猶レ是也。是故治レ川者決レ之使レ導。治レ民者宣レ之使レ言。是故天子聽レ政。使二公卿列士正諫。好レ學博レ聞。獻レ詩。矇箴誦。瞽傳レ語。近臣盡レ規。親戚補レ察。而後王斟酌焉。是以下無二遺善一。上無二過舉一。今王塞二民口一甚於二防レ川。

を弭めしにあらざるなり。民の口を防ぐは、川を防ぐよりも甚し。川壅りて潰ゆれば、人を敗ること必ず多し。それ民は猶ほ是のごときなり。是の故に川を治むるものは、これを決して導かしめ、民を治むるものは、これを宣べて言はしむ。是の故に天子は政を聽き、公卿列士をして正諫し、學を好み聞を博くし詩を獻じ、矇箴師をして誦し、庶人をして語を傳へ、近臣をして規を盡し、親戚をして察を補はしめ、而して後王斟酌す。是の以に、下に遺善なく上に過擧なし。今王は下の口を塞ぎて上の過を遂せり。恐らくは社稷の憂を爲さんことを」と。王聽かざるなり。三年、國人は王を彘に流せり。これ鬱の敗なり。鬱とは陽ならざるなり。周鼎に鼠を著け、馬をして反らざるものは、亡國の俗なり。管仲、桓公を觸す。日暮れたり。桓公これを樂みて燭を徵む。管仲曰く、「臣はその晝を卜せり。未だその夜を卜せず。君以て出づべし」と。公說ばずして曰く、「仲父は年老いたり。寡人と仲父と樂み

を爲すは、將た幾何ぞ。請ふ、これを夜にせん」と。管仲曰く、「君過てり。それ味に厚きものは、德に薄く、樂に沈むものは、憂に反る。壯にして忘れば則ち時を失ひ、老いて解れば則ち名なし。臣乃ち今將に君の爲にこれを勉さんとす。若何ぞそれ酒に沈まんや」と。管仲は能く行を立つと謂ふべし。およそ行の墮るゝや樂に於てす。今樂んで益〻勌し。行の壞るゝや貴に於てす。今主留まらんと欲して許さず。志を伸べ理を行ふ。樂を貴んで變を爲さず、以てその主に事ふ。これ桓公の霸たる所以なり。刻精子高、齊の潛王に聽行せらる。善衣東布衣、白縞冠、類推の履、特に會朝す。雨るに堂下を徒歩し、その侍者に謂つて曰く、「われ何若」と。侍者曰く、「公は跛にして且つ麤なり」と。刻精子高因りて步して井を窺ふ。粲然たる惡丈夫の狀なり。喟然として歎じて曰く、「侍者や、萬乘の主、人のこれに聽行せらるゝや。それ何ぞ阿るや。又況んや聽行する所に於てをわれを齊王に聽行せらるゝと爲す。それ何ぞ阿るもまた甚しからん、而して鏡するところ無くんば、

下之口。而遂三上之過。恐爲二社稷憂一。王弗レ聽也。三年。國人流二王于彘一。此鬱之敗也。鬱者不レ陽也。周鼎著レ鼠。令二馬履レ之。爲二其不レ陽也。不レ陽者。亡國之俗也。管仲觸二桓公一。日暮矣。桓公樂レ之。面徵レ燭。管仲曰。臣卜二其晝一。未レ卜二其夜一。君可二以罷一矣。公不レ說曰。仲父年老矣。寡人樂二仲父之爲一レ樂。將幾之。請夜レ之。管仲曰。君過矣。夫厚二於味一者薄於德。沈二於樂一者反二於憂一。壯而意則失レ時。老而解則無レ名。臣乃今特二爲レ君勉レ之。若何其沈二於酒一也。管仲可レ謂二能立レ行矣。凡行之墮也於レ樂。今樂而益節。行之壞也於レ貴。今主欲レ留而不レ許。伸レ志行レ理。貴レ樂弗レ爲レ變。以

その殘亡すること日無からん。孰れか當に可として鏡すべき。それたゞ士か。人はみな鏡の己を明にするを說ぶを知つて、士の己を明にするを惡めり。鏡の己を明にするや、功細にして、士の己を明にするや、功大なり。その細を得てその大を失ふ、類を知らざるのみ」と。趙簡子曰く、「厥やわれを愛し、鐸やわれを愛せず。厥のわれを諛むるや、喜んでわれを人中に質し、必ずわれをして醜ぢしむ」と。尹鐸對へて曰く、「厥や君の醜を愛むなり。而して君の過を愛むなり。臣嘗て人を相するを師に聞けり。『敦顏にして土色なるものは、醜を忍ぶ』と。君を人中に質さざるは、君の變ぜざるを恐ればなり」と。これ簡子の賢なるなり。人主賢なれば、則ち人臣の言に刻なり。簡子は鐸を賢とせざるや、卒に趙の地に居らず。有た況んや簡子の側に在らんや。

(一)節は、骨節也。比は、緻密なるをいふ　(二)精氣は、以て血脈をやり、三百六十節をまもるものなるが故に、その行を欲すといへる也　(三)鬱は、滯りて通ぜざるをいふ　(四)水淺ければ流れず、これを悖といふ。悖は、木中に在りて、木を枯す蟲。黃は土塊也。つちくれ　(五)生德は、主德の誤ならんと　(六)召公は、周の大夫召公奭也　(七)目を以てすとは、目を以て意を通じ、これを言にあらはさずと也　(八)郭は、止也　(九)障は、防也　(一〇)晉辰師は、盲人の功を奏するもの。盲人は、官なきもの、王に見ゆるを得ざるが故に、語を卿へ人に因りて以て通ずる也。規は、諫也。辭師すは、その善を取りて行ふをいふ　(一一)遺善なくは、善はみな王の所に還するが故也。還轉は、あやまれる行也　(一二)奚は、地名、荊東の水疾これなり。流は、放也　(一三)償は、報施する也　(一四)本文に、擒之とあるは、無何ならんとの說にこれに從へり　(一五)夜を以て日に繼がんと也　(一六)解は、惰也。名なしとは、誉りを善くするの名なしと也　(一七)勉は、勵也。即ち、君をはげまして夜樂に耽らざらしむと也　(一八)殆は、漏也　(一九)敦は、厚也　(二〇)貴は、則ち臨也　(二一)管仲が、相公のために婦せず、相公を夜樂に留めざるは、よく相公をして罷たらしめし所以なりと也　(二二)列精子高は六國の時の賢人也。その德行を聽行し、齊王に敬せられし也。滑王は、宣王の子　(二三)頭繪の圖は、やぶれたるくつ　(二四)註歩は、衣を攝げて歩する也　(二五)姣も麗も共に好貌にて、うるはしき也　(二六)阿は、へつらひもねる也。即ち、侍者が、われを以て齊王の聽きて敬するところとなし、われを美麗なりといひ、過を言はず、これ阿りて美にして且つ麗なりといふ也。況々萬乘の主たる齊王に對しては、人の之に阿りて其不良なるをも良なりといよ事、我が從者の我に對するよりも更に甚しきものあらんと也　(二七)識は、照也。即ち、侍者の言を信じ、自ちかんがみるところなくば、その理亡せんこと、近きにあらんと也　(二八)ひとり士は、腰をよみ正を行ひて、俗に

事二其主一。此桓公之所二以霸一也。列精子高。礱二行乎齊潛王一。善衣東布衣。白縞冠。縣推之履。特會朝。雨祛二步堂下一。謂二其侍者一曰。我何若。侍者曰。公姣且麗。列精子高曰。惡丈夫之狀也。噭然歌曰。侍者爲三吾聽二行者一。我何若。侍者曰。公姣且麗。列精子高曰。惡丈夫之狀也。噭然歌曰。侍者爲三吾聽二行於齊王一也。夫何阿哉。又況於レ所二聽行一乎。萬乘之主。人之阿レ之亦甚矣。而無レ所レ鏡。其殘亡無日矣。執當二可而鏡一。其唯士乎。人皆知レ說二鏡之明一己也。而不レ知レ說二士之明一己也。而不レ知レ說二鏡之明一己也。功大。得二其細一。失二其大一。不レ知レ類耳。趙簡子曰。厥也愛レ我。鐸也不レ愛レ我。厥之諫レ我也。必於二無レ人之所一。鐸之諫レ我也。喜質二我於人中一。必使二我醜一。尹鐸對曰。厥也愛二君之醜一也。而不レ愛二君之過一也。鐸也愛二君之過一也。而不レ愛二君之醜一也。臣嘗聞二相レ人於師一。敦顏而士色者。忍レ醜。不レ質二君於人中一。忍二君之不レ變也。此簡子之賢也。人主賢。則人臣冒死。簡子不レ賢レ鐸也。卒不レ居二趙地一。有況乎在二簡子之側一哉。

阿ちゞ。而して能くこれを悩ちずと也 ㊁ 鏡は、明に人の醜をあらはしても、これをくだき破るが如きことをせゞ。これ鏡の己れを明にするをよろこぶなり。然るに、士の己れを明にするものあり、ものれの短所を述べ、これを改めてその病を除かんとするあらば、これを鏡とせずして、却つてこれを殺さんと欲す。これ士がものれを明にするを悩むなりと也 ㊂ 細は、小也。功大なりは、君をたゞしうし、治を致して、社稷を安定するが故なり ㊃ 厥は、事也、事の大小の區別也 ㊄ 厥は、趙簡子の家臣なり。鐸は、尹鐸にて、また家臣也 ㊅ 質は、正也。醜は、恥也 ㊆ 過は、失也 ㊇ 敎は、厚也。土色は、黄色也。土は、四時五行の主にして、多く萬物を載受す。故に、よく恥をおほふと也。趙簡子の色をいへるなり ㊈ 變は、改也 ㊉ 則は、法也 ㊊ 側は、左右といふに同じ

行論

六に曰く、人主の行は、布衣と異なり。勢便ならず時利あらずんば、歸に事へて以て存を求め、民の命を執る。民の命を執るは、重任なり。以て志を快うするを得ざるを故と爲す。故に布衣この指を國に行へば、鄉曲に容れられず。堯は天下を以て舜に讓る。鉉、諸侯たり。堯に怒りて曰く、「天の道を得るものを帝と爲し、地の道を得るものを三公と爲す。今われ地の道を得たり。而もわれを以て三公と爲さず」と。堯を以て論を失ふと爲し、三公を得んと欲し、怒ると猛獸より甚しく、以て亂を爲さんと欲し、獸の角を比し、能く以て城を爲り、その尾を擧げ、能く以て旌を爲れり。これを召せども來らず、野に彷徉し、以て帝を患へしめたり。舜こゝに於てこれを羽山に殛し、これに副するに吳刀を以てせり。禹は敢へて怨みずして、反つてこれに事へ、官は司空と爲り、以て水潦を

六曰。人主之行。與二布衣一異。勢不レ便時不レ利。事レ歸以求レ存。執二民之命一。重任也。不レ得二以快レ志爲レ故。故布衣行二此指一於國一。不レ容二鄉曲一。堯以二天下一讓レ舜。鉉爲二諸侯一。怒於堯一曰。得二天之道一者爲レ帝。得二地之道一者爲二三公一。

今我得二地之道一而不三以レ我爲二三公一以レ堯爲レ失レ論。欲レ得二三公一怒甚二猛獸一欲二以爲一亂。比二獸之角一能以爲レ旌。能以爲レ旌。召レ之不レ來。仿二佯於野一以患レ帝。帝之舜於羽山一副レ之以二臭刀一萬不二敢怨一而反事レ之。官爲二司空一以通二水潦一顏色黎黑。步不二相過一竅氣不レ通。以中二帝

通じ、顔色黎黒、歩して相過らず、竅氣通ぜず、以て帝の心に中れり。むかし紂は無道を爲し、梅伯を殺してこれを醢にし、鬼侯を殺してこれを脯にし、以て諸侯を剛に禮せり。文王涕を流してこれを咨く、紂はその畔かんことを恐れ、文王を殺して周を滅さんと欲す。文王曰く、「父無道なりと雖も、子敢へて父に事へざらんや。君不惠なりと雖も、臣敢へて君に事へざらんや。孰れか王にしてこれを殺すべき」と。紂乃ちこれを赦せり。天下これを聞き、文王を以て上を畏れ下を哀むとなせり。詩に曰く、「惟れ此の文王、小心翼翼、昭かに上帝に事へ、聿べて多福を懷にす」と。齊、宋を攻む。燕王、張魁をして燕兵を將る、以て從はしむ。齊王これを殺す。燕王これを聞き、泣數行にして下る。有司を召してこれに告げて曰く、「余、事を興して、齊わが使を殺せり。請ふ、兵を舉けて以て齊を攻めしめん」と。使、命を受く。凡縣進見してこれを爭ひて曰く、「賢王なるが故に臣たらんことを願へり。今王は賢主にあらざるなり。願はくは辭りて臣たらざら

心。昔者紂爲二無道一殺二梅伯一而醢レ之。殺二鬼侯一而脯レ之。以證二諸侯於廟一。文王流レ涕而咨レ之。紂恐二其畔一。欲下殺二文王一而滅中周。文王曰。父雖二無道一。子敢不レ事レ父乎。君雖二不惠一。臣敢不レ事レ君乎。孰王而可レ畔也。紂乃赦レ之。天下聞レ之。以二文王一爲二長レ上而哀レ下也。詩曰。惟此文王。小心翼翼。

ん」と。昭王曰く、「これ何ぞや」と。對へて曰く、「松下亂る。先君は以て羣臣を棄つるに安んぜざりしなり。王のこれを苦み痛みて齊に事ふるものは、力足らざればなり。今魁死して、王、齊を攻めんとす。これ魁を視る先君より賢れるなり」と。王曰く、「諾」と。「請ふ、王、兵を止めよ」と。王曰く、「然らば則ち若何」と。凡縣對へて曰く、「請ふ、王縞素して舍を郊に辟け、使を齊客に遣はして謝して曰へ、『これ盡く寡人の罪なり。大王は賢主なり。豈に盡く諸侯の使を殺すものならんや。然り而して燕の使者のひとり死せるは、これ弊邑の人を擇ぶ謹まざればなり。願はくは變更するを得て罪を請はん』と。」使者行りて齊に至る。齊王方に大に飲む。左右の官實、御者甚だ衆し。因りて使者をして進んで報ぜしむ。使者報じて、燕王の甚だ恐懼して罪を請ふを言ふや、畢くまたこれを復し、以て左右の官實に矜り、因りて乃ち小使を發して以て反し、燕王をして復た舍せしめたり。これ濁上の敗れし所以。齊國の虛を以てするや、七十城、田單

昭事二上帝一。聿懷二多福一。齊攻レ宋。燕王使下張魁將二燕兵一以從上焉。齊王殺レ之。燕王聞レ之。泣數行而下。召二有司一而告レ之曰。余與レ事而齊殺二我使一。請令二舉レ兵以攻レ齊也。使受レ命矣。凡緜進見爭レ之曰。賢王故願レ爲レ臣。今王非二賢主一也。願辭不レ爲レ臣。昭王曰。是何也。對曰。松下亂。先君以

微つせば、固より幾ど反らず。滑王は大齊を以て驕りて殘ひ、田單は卽墨城を以てして功を立てたり。詩に曰く、「將にこれを毀たんと欲せば、必ず重くこれを累ね、將にこれを踣さんと欲せば、必ず高くこれを擧ぐ」とは、それこれの謂か。累りて毀たれず、擧りて踣れさるは、それたゞ有道者か。楚の莊王、文無畏をして齊に使せしむ。宋に過る。まづ道を假らず。還反る。華元、宋の昭公に言つて曰く、「往く、道を假らず、來る、道を假らず、これ宋を以て野鄙と爲せばなり」と。楚の田に會するや、故に君の僕を孟諸に鞭つ。これを誅せんと請ふ。乃ち文無畏を揚梁の隄に殺せり。莊王方に袂を削つ、これを聞きて曰く、「嘻」と。袂を投じて起ち、履は諸庭に及び、劒は諸門に及び。車は蒲疏の市に及ぶ。遂に郊に舍し、師を興して宋を圍む。九月、宋人子を易へてこれを食ひ、骨を析きてこれを爨ぐ。宋公肉袒して犧を執り、委服して病を告げて曰く、「大國、もしこれを圖るを宥さば、たゞ命これ聽かん」と。莊王曰く、「情なるかな、宋公の

不レ安レ寨二辱臣一也。王苦二痛之一而事レ齊者。力不レ足也。今魁死而王攻レ齊。是視レ魁而賢二於先君一。王曰。諾。請王止レ兵。王曰。然則若何。凡緜對曰。請王藉素辟二舍於郊一。遣二使於齊客一而謝焉曰。此盡寡人之罪也。大王賢主也。豈盡殺二諸侯之使一者哉。然而燕之使者獨死。此弊邑之

言や」と。乃ち爲に四十里を却きて、盧門の闔に舍せり。成を爲して歸る所以なり。およそ事の本は人主に在り。人主の患は、事に先んじて人に簡るに在り。人に簡れば則ち事窮る。今人臣死して當らず、親ら士民を帥ゐて以てその故を討つ、人に簡らずと謂ふべし。宋公の服して、病を以て告げて師を還せるは、窮せずと謂ふべし。それ諸侯を漢陽に舍して飮至せるもの、それ義を以て進退せるか。彊は以て成すに足らずとはこれなり。

㊀ 布衣は、西夫也、いやしきもの ㊁ 故は、事也 ㊂ 指は、志といふに同じ。卽ち、布衣の人、この志を國に行ひて、自ら鄕曲に容れらるゝ、能はずと也 ㊃ 踣は、還といふに同じ。城を爲りは、城池の固をなしをいふ。旌を爲れりは、以て旌旗の表をつくりし也 ㊄ 羽山は、東のはての山也。副は、一說に副にて、さく意なりと ㊅ 揚伯・鬼侯は、共に紂の諸侯也。醢は、肉醬也。脯は、肉腊也。卽ち、梅伯が、鬼侯の女の美なるを說き、紂をしてこれを取らしめんとせしに、たゞ〳〵姐己の譖を聽き、以て好かちずとなし、梅伯を醢にし、鬼侯を脯にし、これを以て諸侯を廟中に徇せしをいふ ㊆ 咨は、嗟嘆の辭、なげく也 ㊇ 詩は、詩經大雅大明の章。小心翼翼は、恭ひ愼む也。昭は、明也。帝は、述也。顯は、愚也。卽ち、文王が、小心翼翼然として、敬ひ愼み、明に上に事ふるに於て、敬へて撓貳するところなし。衆福を得る所以なりと也 ㊈ 辭は、去也 ㊉ 商王は、紂王子啥の子

掃レ人不レ謹也。顧得二變更一請レ罪。使者行至レ齊。齊王方大飲。左右皆衆。因令二使者進報一。使者報言二燕王之甚恐懼一而請レ罪也。畢又復レ之。以矜二左右一。官實。因乃發二小使一以反。令二燕王復舍一。此齊上之所二以敗一齊國以レ虛也。七十城徼二田單一固爰不レ反。湣王以二大齊一驕而

(一) 松下は、地名なり。齊が燕を伐ち、子噲が松下の戰に於て捕へられしなり (二) 先君は、子噲をいふ。(三) 群臣を集つるとは、子噲の齊にとらへられしをいふ (四) 王のこれを苦み痛みて齊につかへし所以のものは、燕レしものの力の以て齊を伐つに足らざればなりと也 (五) 凡燕の諸に從ひし也 (六) 行は、還なり (七) 官實は、官長也 (八) その使者をして、進んで燕使の至れるを報ぜしめし也 (九) 左右の官實云々とは、燕王の罪に伏せしを、左右の官實にはこり聞かしめしをいふ。小使は、微賤のものをいふ (一〇) これ齊の燕軍のために、湣水のほとりに於て敗れし所以なりと也。虛は、弱也、よわき也。田單云々とは、燕の昭王が樂毅をして、齊を伐たしめ、その七十餘城を得たり。その未だ終らざるに、騎劫をして、樂毅に代らしめたり。齊の田單はこゝに於て、即墨の市民を率ゐ、騎劫の軍を擊つて、盡くこれを破り、その城を復せしをいふ (一一) 驕りて禮ひとは、湣王が驕暴なりしかば、諸國これを試し、その筋をぬきて、これを東嗣に離けしをいふ。功を立てたりとは、田單が即墨の市民を以て、大に燕軍を破りしをいふ (一二) この詩は、逸詩也。これを案ぬれば重し、乃ち毀れ易きなり。蹈は倒也。これを毀ぐること高ければ、乃ち破れ易し、以て湣王の驕亂甚しく、乃ち破れ易く、燕軍の攻むるまた破り易く、終に田單をして、その名を成さしめしにたとへしなり (一三) 有道のものは、能く滿ちて溢れず、高くして危からざるさまに、身を持すと也 (一四) 莊王は、楚の穆王商臣の子、莊王也。往來するに、道を宋に假ちざりしをいへる也 (一五) 昭公は、宋の成公王臣の子、杵臼也。往來するに、道を假ちざるは、宋を以て鄙邑となさんと欲すと也 (一六) さきに楚と若に孟諸に會せしとき、無畏が宋公の僕を撻ちしをいふ (一七) 揚梁は、宋の地名 (一八) 飼は、飯也、たつ也。嗜は、好れるさま也。鈇を投じは、その創ちしところの鈇を投ぜし也 (一九) 宋を圍みしは、卷の宋公の十四年に在り (二〇) 懼は、畏也。神に供ふる牛羊豚也。病は、困也 (二一) 盟門は、宋の城門の圍扉也 (二二) 成は、平也、和也 (二三) 湯陽は、湯水の北の地。水北を陽といふ。

殘。田單以二即墨城一而立レ功。

詩曰。將レ欲レ毀レ之。必重累レ之。將レ欲レ踣レ之。必高舉レ之。其此之謂乎。累矣而不レ毀。舉矣而不レ踣。其唯有道者乎。楚莊王使二文無畏一於二齊一。過二於宋一。不二先假レ道。還反。舉元冒一於宋昭公一。曰。往不レ假レ道。來不レ假レ道。是以レ宋爲二野鄙一也。楚之會レ田也。故鞭二君之僕於孟諸一。誚レ誅レ之。乃殺二文無畏於揚梁之隧一。莊王方飼レ馬。聞レ之曰。嘻。投レ鈇而起。厭及二諸庭一。劒及二諸門一。車及二之蒲疏之市一。遂舍二於郊一。興レ師圍レ宋。九月。宋人易レ子而食レ之。析レ骨而爨レ之。宋公肉袒執レ犧。委レ服告レ病曰。大國若以二此之一不レ已。則臣之命是聽。莊王曰。情矣。宋公之言也。乃爲却二四十里一而舍二於虛門之圍一。所二以爲一成而歸一也。凡事之本在二人主一。人主之患。在二先レ事而師二士民一。以貳二其故一。可レ謂不レ簡レ人矣。宋公服以縗而飲至者。其以レ襲進退邪。彊不レ足二以成一此也。

義を以て云々とは、救きてこれを討つは、義を以て過かなり。服從してこれをすつるは、義を以て還くなりと也

驕恣

七日。亡國之主。必自驕。必自智。必輕レ物。自驕則簡二士。自智則專レ獨。

七に曰く、亡國の主は、必ず自ら驕り、必ず自ら智なりとし、必ず物を輕んず。自ら驕れば則ち士に簡り、自ら智なりとすれば則ち獨を專にし、物を輕んずれば則ち備なし。備なければ禍を召き、獨を專にすれば、位危く、士に

輕レ物則無レ備。無レ備召レ禍。專レ蜀位危。簡レ士壅塞。欲レ無二壅塞一。必禮レ士。欲二位無一レ危。必得レ衆。欲レ無レ召レ禍。必完備。三者人君之大經也。晉厲公修淫。好聽二讒人一。欲下盡去二其大臣一而立中其左右上。胥童謂二厲公一曰。必先殺二三郤一。族大多レ怨。去二大族一不レ偏。公曰諾。乃使下長魚矯殺二郤錡郤

至于朝一而陳中其尸上於是厲公遊二于匠麗氏一。鑿レ垣而出。中行偃劫レ公而幽レ之。諸侯莫二之救一。百姓莫二之哀一。三月而殺レ之。人主之患。患在下知二能害一レ己。而不中知下害レ人之不レ當而反自及上也。是何也。智短也。智短則不レ知レ化。不レ知レ化者舉自危。魏武侯謀レ事而當。擯レ臂疾二言於庭一曰。大夫之慮。

楚の莊王、事を謀りて當り、大功あり、朝を退きて憂色あり。左右曰く、「王、大功あり。朝を退きて憂色あり。敢へてその說を問ふ」と。王曰く、「仲尼言あり。不穀これを說ぶ。曰く、諸侯の德、能く自ら師を取るを爲す者は王たり。能く自ら友を取る者は存し、その擇ぶところにして、己に如く莫き者は亡ぶと。今不穀の不肖を以てして、羣臣の謀、また吾れに及ぶ莫きなり、われそれ亡びんか』と。曰く、これ霸王の憂ふるところなり。而して君ひとりこれを伐る、それ可ならんや」と。武侯曰く、「善し」と。人主の患は自ら少とするに在らずして、自ら多とするに在り。自ら多とすれば、則ち受くるを辭す。受くるを辭すれば則ち原竭く。李悝は能くその君を諫むと謂つべし。壹たび稱へて、武侯をして益〻君人の道を知らしめたり。齊の宣王、大室を爲る。大なること蓋し百畝、堂上二百戶、齊の大を以て、これを具ふること三年にして、未だ成す能はず。羣臣敢へて王を諫むる莫し。春居、宣王に問ひて曰く、「荊王、先王の禮樂

を釋てて樂輕きを爲せり。敢へて問ふ、荊國に主ありと爲すか」と。王曰く、「主なしと爲す」と。「賢臣千を以て數ふ、而も敢へて謀むる莫し。敢へて問ふ、荊國に臣ありと爲すか」と。王曰く、「臣なしと爲す」と。「今王、大室を爲る、その大蓋し百畝、堂上三百戸、齊國の大を以て、これに具ふること三年にして成す能はず。羣臣敢へて諫むる莫し。敢へて問ふ、王に臣ありと爲すか」と。王曰く、「臣なしと爲す」と。春居曰く、「臣請ふ辟らん」と。趨りて出る。王曰く、「春子」と。春子反る。「何ぞ寡人を諫むるの晩きや。寡人請ふ、今これを止めん」と。遽に掌書を召して曰く、「これを書せよ。『寡人不肖にして、好んで大室を爲る。春子、寡人を止む』と。」簒諫は熟せざるべからず。敢へて諫むるなきは、欲せざるにあらざるが若きなり。春居のこれを欲する所以は、人と同じ。それこれを入るゝ所以は、人と異なり。宣王、春居徵つせば、幾ど天下の笑と爲らん。是に由りてこれを論ずれば、國を失ふの主は、多く宣王の如し。

又莫二吾及一也。我其亡乎。曰。此霸王之所レ憂也。而君獨俟レ之。其可乎。武侯曰。善。人主之患也。不レ在二於自少一而在二於自多一。自多則辭レ受。辭レ受則原塞。李悝可レ謂二能諫一矣。嘗解其君一矣。嘗解而令二武侯益知二君人之道一。齊宣王爲二大室一。大益二百畝一。堂上三百戸。以二齊之大一。具レ之三年而未レ

然れども患は春居無きに在り。故に忠臣の諫むるものも、また從つてこれを入るゝに愼まざるべからず。これ得失の本なり。趙簡子、鞮瞶を河に沈めて曰く、「われ嘗て聲色を好む。而して鞮瞶これを致せり。われ嘗て宮室臺榭を好む。而して鞮瞶これを爲れり。われ嘗て良馬善御を好む。而して鞮瞶これを來せり。今われ士を好むこと六年、而も鞮瞶未だ嘗て一人を進めず。これわが過を長じて善を絀くるなり」と。故に簡子の若きものは、能く厚く理を以てその臣を督責す。理を以てその臣を督責すれば、則ち人主與に善を爲すべくして、與に非を爲すべからず。與に直を爲すべくして、與に枉を爲すべからず。これ三代の盛教なり。

樂書は、樂武子也。中行偃、右偃は、字は伯游なり。諫ずとは、四へて出でざらしめし也 ㊀ これみな厲公の惡をいへる也 ㊁ 當らずは、賢を擧し、不肖を近づけしをいひ、自ら及ぶは、匠麗氏に殺せしをいへる也 ㊂ 武侯は、文侯の子也 ㊃ 屈に疾言しとは、智をはこりて自ら大にせるをいふ ㊄ 再三言すは、その言の多きをいへる也 ㊅ 荀子堯問篇には、孝智を晏超につくれり ㊆ 仲尼は、殷の紂王の左相なり ㊇ 不毅は、不善の意にて、諸侯の讐稱 ㊈ 揖は、取也 ㊉ 今不肖なる不毅の讐を以てしながら、羣臣のよくその上に出てゝこれを匡し、以て道を濟すものなし。かくては、それわれ亡びんかと也 ㊊ 嗣王もたゞこれをこれ憂ふと也 ㊋ 受くるを辭すとは、當に忠言を受くべくして受けざるをいふ ㊌ 讒臣の言を受けずして、自らこれを聞れば、則ち匡臣の言つきて、空しくなると也 ㊍ 宣王は、穆の威王の子 ㊎ 本文に益とあるは、益の誤ならん、下文亦同じ ㊏ 靳くては貴主なしと爲すべしと也 ㊐ 臣は、貴臣をさす ㊑ 出は、去也 ㊒ 本は、原也 ㊓ 得るところのものは、みな過にして、過めざるところのものは、乃ち善なるが故なり

觀表

八に曰く、およそ人心を論じ、事傳を觀る、熟せざるべからず、深からざるべからず。天を高しと爲す。而も日月星辰、雲氣雨露、未だ嘗て休まざるなり。地を大なりと爲す。而も水泉草木、毛羽裸鱗、未だ嘗て息まざるなり。およそ天地の間、六合の内に居るものは、その務は相安利するを爲すなり。それ相害危するを爲すものは、勝けて數ふべからず。人事みな然り。事は心に隨ひ、心は欲に隨ふ。欲の度なきものは、その心度なし。心の度なきものは、則ちその爲すところ、知るべからず。人の心は、隱匿見えがたく、淵深測り難し。故に聖人は事に於て焉を志す。聖人の人に過ぐる所以は、先知を以てなり。先知なれば、必ず

八曰。凡論二人心一。觀二事傳一。不レ可レ不レ深。不レ可レ不レ熟。不レ可レ不レ察。天爲レ高矣。而日月星辰。雲氣雨露。未二嘗休一也。地爲レ大矣。而水泉草木。毛羽裸鱗。未二嘗休一息也。凡居二於天地之間一。六合之内一者。其務嘗好二良馬善御一矣。而鷙徼未三嘗遇二一人一也。是長二吾過一而繩レ善也。故若二簡子一者。能厚以レ理督二責於其臣一矣。以レ理督二責於其臣一。則人主可二與爲一レ直。而不レ可二與爲一レ枉。此三代之盛教。

爲二相安利一也。夫爲二相害危一者。不レ可二勝數一。人事皆然。事隨レ心。心隨レ欲。欲無レ度者。其心無レ角。心無レ度者。則其所レ爲不レ可レ知矣。人之心。譎匿難レ見。淵深難レ測。故聖人於レ事。志レ焉。聖人之所二以過一レ人。以二先知一。先知必審二徵表一。徵表而欲二先知一。堯舜與二衆人一同レ等。徵表難易。表難レ審。聖徵表を審にす。徵表なくして先知を欲すれば、堯舜は衆人と等を同じうす。徵易しと雖も、表難しと雖も、聖人は則ち以て觀すべからず。衆人は則ち道こゝに至れる無し。道の至れる無ければ、則ち以て神と爲し、以て幸と爲す。神にあらず、幸にあらず、その數然らざるを得ざるなり。邱成子・吳起は、これに近し。邱成子、魯の爲に晉に聘せられ、衛を過る。右宰穀臣止めてこれを觴す。樂を陳ねて樂ます。酒酣にして、これに送るに璧を以てせり。覆反し、過りて辭せず。その僕曰く、「暴者に右宰穀臣の吾子を觴す、吾子や甚だ歡べり。今侯ぞ濕過して辭せざる」と。邱成子曰く、「それ止めてわれを觴せしは、われと歡せるなり。樂を陳ねて樂まざりしはわれに憂を告げしなり。酒酣にしてわれに送るに璧を以てせしは、これをわれに寄せしなり。若し是に由りて之を觀れば、衛それ亂あらんか」と。衛を偝くこと三十里にして、晦喜の難作り、右宰穀臣のこれに死せるを聞き、車を還して臨み、三舉して歸り、至りて人をしてその妻子を迎へしめ、宅を隔ててこれを異にし、祿を分ちてこれを食ひ、その子長じて、その璧を反せり。孔子これを聞きて曰く、「それ智は以て謀を徵にすべく、仁は以て財を託すべしとは、それ邱成子の謂か。邱成子の右宰穀臣を觀るや、深なり、妙なり。その事を觀ずしてその志を觀たり。能く人を觀ると謂ふべし」と。

吳起、西河の外を治む。王錍これを魏の武侯に譖る。武侯、人をしてこれを召さしむ。吳起、岸門に至り、車を止めて休み、西河を望みて、泣數行にして下る。その僕これに謂つて曰く、「竊に公の志を觀るに、天下を舍つるを視ること屣を舍つるが若し。今西河を去りて泣くは何ぞや」と。吳起、泣を雪ひてこれに應へて曰く、「子は識らざるなり。君誠にわれを知りて、われをして能を畢さしめば、秦は必ず亡ぶべくして、西河は以て王たるべし。今君、讒人の議を聽きて、われを知らず。西河の秦と爲るや、久しからざらん。魏國これより削からん」と。吳起果に魏を去りて荊に入る。而して西河は畢く秦に入り、魏は日を以て削られ、

人則不レ可二以觀一レ矣。衆人則無二道至一焉。無二道至一則以爲レ幸。神以爲レ幸。非レ神非レ幸。其數不レ得レ不レ然。邱成子吳起近レ之矣。邱成子爲レ晉聘二於晉一。過レ衛。右宰穀臣。止而觴レ之。陳レ樂而不レ樂。酒酣而送レ之以レ璧。顧反。過而弗レ辭。其僕曰。暴者右宰穀臣之觴二吾子一。吾子也甚歡。今侯濕過

而弗ㇾ辭。邱成子曰。夫止而觴ㇾ我。與ㇾ我歡也。陳ㇾ樂而不ㇾ樂。告ニ我憂一也。酒酣而送ㇾ我以ㇾ璧。寄ニ之我一也。若由ㇾ是觀ㇾ之。衞其有ㇾ亂乎。倍ㇾ衞三十里。聞ニ甯喜之難作一。右宰穀臣死ㇾ之。還ㇾ車而歸。至使ニ人迎ニ其妻子一。隔ㇾ宅而異ㇾ之。分ㇾ祿而食ㇾ之。其子長而反ニ其璧一。孔子聞ㇾ之曰。

秦は日に益〻大なり。これ吳起の先見して泣きし所以なり。古の善く馬を相するもの、寒風是は口歯を相し、麻朝は頬を相し、子女厲は目を相し、衝忌は鬐を相し、許鄙は臑を相し、投伐褐は胷脅を相し、陳悲は股脚を相し、秦牙は前を相し、贊君は後を相す。およそこの十人は、みな天下の良工なり。趙の王良・秦の伯樂・九方堙の尤れてその妙を盡すが若し。その相する所以のもの同じからず。馬の一徴を見るや、而して筋の高卑、足の滑易、材の堅脆、能の長短を知る。ひとり馬を相するのみ然るにあらざるなり。人もまた徴あり。事と國とみな徴あり。これを意とするにあらざるなり。蓋し自ら云ふあるなり。緣圖幡薄（二三）

（一）休は、止也　（二）毛は、虎類の屬。羽は、鳥鳥鴻鵠鵝鴈の屬。鱗は、鮒鯉鯨午羊の屬。（三）觴は、飲也　（四）邱成子は、衞の大夫にして、邱敬子、國の子邱成孫也。昔にゆかんとして、道に衞を經し也　（五）右宰穀臣は、衞の大夫寧喜子蘭の子悼子也。熙子が、孫林父と共に、獻公を逐ひてこれを出せり。熙子疾みて夢るに臨み、悼子に謂つて曰く、われ歸を君に得ず。若、諸侯の難に戰れり。君入らば則ちこれを掩へ、能くこれを掩へば則ち吾が子なりと。悼子許諾せり。後の襄公の二十六年に、衞侯衎を殺して獻公を國に納れたり。故に寧喜の難作るをといし也。臨みは、臨みて哭せしをいふ。三歸は、かくの如くすること三たびなるをいふ　（六）吳起は、衞の人、魏の文侯に仕へ、西河を治めたるなり　（七）屬は、繫屬也、やぶれぐつ　（八）璧は、玦也　（九）巢は、塗也。王たるべしとは、以て王政を立つべしと也　（一〇）久しからざらんは、西河の魏にそむきて秦に入るをいふ　（一一）前は、剔也　（一二）寒風是を、一本には寒風氏又は韓風につくる。脫は、後蹏也。尻の穴　（一三）徴は、驗也　（一四）緣圖幡薄は、その意詳ならず

夫智可ニ以徴一ㇾ謀。仁可ニ以託一ㇾ財者。其邱成子之謂乎。邱成子之觀ニ右宰穀臣一也。深矣妙矣。不ㇾ觀ニ其事一而觀ニ其志一。可ㇾ謂ニ能觀一ㇾ人矣。吳起治ニ西河之外一。王錯譖ニ之於魏武侯一。武侯使ニ人召一ㇾ之。吳起至ニ於岸門一。止ㇾ車而休。望ニ西河一泣數行而下。其僕謂ㇾ之曰。籍觀ニ公之志一。親ㇾ舍三天下一若ㇾ舍ㇾ屬。今去ニ西河一而泣。何也。吳起曰。非ㇾ泣而應ㇾ之曰。子弗ㇾ識也。君誠知ㇾ我而使ニ我畢一ㇾ能。秦必可ㇾ亡。而四河可ニ以王一。今君聽ニ讒人之譖一。而不ㇾ知ㇾ我。四河之舍ㇾ秦也不ㇾ久矣。魏國從ㇾ此削矣。吳起果去ㇾ魏入ㇾ荊。而四河舉入ㇾ秦。魏日以削。秦日益大。此吳起之所ㇾ以先見而泣一也。古之善相ㇾ馬者。寒風是相ニ口齒一。麻朝相ㇾ頰。

子女屬相レ目。瞽忌相レ詆。許鄙相レ脫。投伐鶡相二脅。陳悲相二肢。脚。桑牙相レ前。貸君相レ後。凡此十人者。皆天下之良工也。若三趙之王良。秦之伯樂。九方堙尤盡二其妙一矣。其所二以相一者不レ同。見二萬之一徴一也。而知二節之高卑。足之滑易。材之堅脆。能之長短。非二獨相レ馬然一也。人亦有レ徴。事與レ國皆有レ徴。聖人上知二千歲一。下知二千歲一。非レ意レ之也。蓋有二自一云一也。緣圖橋海

卷第二十一

開春論第一

開春論

一に曰く、開春に始めて雷すれば、則ち蟄蟲動る。時雨降れば、則ち草木育す。飲食居處適すれば、則ち九竅百節千脈みな通利す。王者その德を厚うし、衆善を積みて、[四]鳳皇聖人みな來至す。共伯和その行を修め、賢仁を好みて、海內みな以て來り、稽しと爲せり。[六]周慮の難に、天子矇絕して、天下みな來り謂へり。此を以て物の相應ずるを言へるなり。故に行はるゝなり、成るなりと曰へるなり。善く說くものもまた然り。言、理を盡して、得失利害定る。[八]覺に一人の爲に言はんや。魏の惠王死し、葬るに日あり。天大に雪を雨らし、牛の目に至る。羣臣の太子を誄むるもの多し。曰く、「雪の甚しきこと此の如くにし

以來爲稚矣。周厲之難。天子蟄絕。而天下皆來謂矣。以此言二物之相應一也。故曰二行也。咸也。善說者亦然。言聽理而得失利害定矣。豈爲二人二言哉。魏惠王死。葬有レ日矣。天雨レ雪。至二於牛目一。羣臣多下諫二於太子一者上曰。雪甚如レ此而行レ葬。民必甚疾レ之。官費又恐レ不レ給。請弛レ

て葬を行はば、民必ず甚だこれを疾まん。官の費また給らざるを恐る。請ふ、期を弛め日を更へんことを」と。太子曰く、「人の子たるもの、民の勞と官の費用との故を以て、先王の葬を行はざるは不義なり。子復た言ふ勿れ」と。羣臣みな敢へて諫むるなくして、以て犀首に告ぐ。犀首曰く、「われ未だ以てこれに言ふあらず、これそれたゞ惠公か、請ふ、惠公に告げん」と。惠公曰く、「諾」と。驚して太子に見えて曰く、「葬るに日あるか」と。太子曰く、「然り」と。惠公曰く、「むかし王季歷、渦山の尾に葬る。鼮水その墓を齧んで、焢の前和を見せり。文王曰く、「諳、先君必ず一たび羣臣百姓を見んと欲するか。天、故に鼮水をしてこれを見さしむるならん」と。是に於て出してこれが爲に朝を張り、百姓みなこれに見ゆ。三日にして後に更に葬らしめたり。これ文王の義なり。今葬るに日あり。而も雪甚しくして牛の目に及び、以て行ひ難し。太子、日に及ぶ爲の故に亟に葬らんと欲する嫌なきを得んや。願はくは太子、日を易へよ。先王必ず

期更レ日。太子曰。爲二人子一者。以下民勞與二官費用一之故上而不レ行二先王之葬一。不義也。子勿二復言一。羣臣皆莫二敢諫一。而以告二犀首一。犀首曰。吾未レ有二以言一之。是其唯惠公乎。請告二惠公一。惠公曰。諾。驚而見二太子一曰。葬有レ日矣。太子曰。然。惠公曰。昔王季歷葬二於渦山之尾一。鯢水齧二其墓一。見二

少しく留まり社稷を撫し、黔首を安んぜんと欲するなり。故に雪を雨らすこと甚しからしむ。因りて期を弛めて、更に日を爲さんこと。これ文王の義なり。此の若くにして爲さざるは、意ふに文王に法るを羞づるか」と。太子曰く、「甚だ善し。敬んで期を弛め、更に葬る日を擇ばん」と。惠子は徒に說を行ふのみにあらざるなり。また魏の太子をして、未だその先君を葬らざらしめて、因りて文王の義を說くあり。文王の義を說きて以て天下に示すは、豈に小功ならんや。韓氏、新城を城く。十五日にして成るを期す。段喬、司空と爲る。一縣有り後るゝ二日、段喬その吏を執へてこれを囚す。囚者の子、走りて封人子高に告げて曰く、「たゞ先生能く臣が父の死を活かん。願はくはこれを先生に委せん」と。封人子高曰く、「美なるかな、城や。一大功なり。子必ず厚賞あらん。古より今に及び、功此の若くそれ大なるや、而して能く罪戮あるなきものは、未だ嘗て有ら

ざるなり」と。封人子高出る。段喬、人をして夜その吏の束縛を解かしめてこれを出せり。故に曰く、「封人子高のこれが言を爲すや、おのれの爲せるを匿して爲せるなり。段喬の聽きてこれを行へるや、おのれの行へるを匿して行へるなり。これを說きて、行へること此の若くそれ精なり。封人子高は、善く說くと謂ふべし。叔鬻の弟羊舌虎、樂盈と善し。樂盈、晉に罪あり。晉、羊舌虎を誅し叔鬻これが奴と爲りて臆せらる。祈奚曰く、「われ聞く、『小人位を得ば、爭はざるは不祥なり。君子憂に在らば、救はざるは不祥なり』と。」乃ち往きて范宣子を見て說くや、曰く、「聞く、『善く國を爲むるものは、賞過たずして刑慢りにせず。賞過てば則ち淫人に及ばんことを懼れ、刑慢りにすれば則ち君子に及ばんことを懼る。その不幸にして過たんよりは、寧ろ過つて淫人を賞するも、過つて君子を刑する毋かれ』と。故に堯の刑するや、鯀を羽に極して禹を用ひたり。周の刑するや、管・蔡を戮して周公を相とせり。刑を慢りにせざるなり」と。宣子乃ち吏に命じて叔鬻を出せり。人の患を救ふものは、危害を行ひ、煩辱を避けず。なほ免る〻能はずや。今祈奚は、先王の德を論じて、叔鬻免る〻を得たり。學は豈に以て已むべんんや。類多きこと此の若し。

（一九）（二〇）（二一）（二二）（二三）（二四）（二五）

一 動は、誤也　二 生長す、そだつ也　三 通利して、壅閉せざれば、疾病なしと也　四 龍を鼈といひ、雌を鼉といふ。三代の時には、山澤に至れりといふ。聖人云々とは、聖人のみな嘉至せるを言へるにて、堯が舜・禹・皐・夔・契を得、舜が禹を得、湯が伊尹を得、武丁が傅說を得し類をいふ　五 共國は伯爵にて、夏の時の諸侯なり。賢人を好みしを以て、人とれに歸し、みな來附してあそしとなせりと也。猗は、歸也　六 周の厲王が後に流され、周に天子なきこと十一年なりしをいふ。周へりとは、天子を歸んとをいへるをいふ　七 善く說くものとは、大に天下の事を言ひ、その分理を御るをいふ　八 これを愛して助けず、これを憎んで拯げず、よく天下の爲にはかるをいふ　九 紂の惡王は、孟子にいへる桀の惡王にて、臆は、龔の部也　一〇 牛の目に至りとは、腎の積ること、甚だ深きをいふ　一一 結は、足也　一二 甲首は、戰の人公孫衍なり。五國の相印を佩び、能く合從連衡をなし、說して屈首となしし也　一三 たゞ惠公は能くこれを諫めんと也。惠公は、惠王の相なる惠施　一四 和は、棺の題額也　一五 見は、出に同じ　一六 韓氏は、もと弘農宜陽に都し、その後類川の陽翟に都す。新城は、今の河南の新城これなり　一七 子高は、野老なり。封人は、田大夫の職にして、封疆卽ち國ざかひにあるが故に、封人といへるなり　一八 樂盈は、晉の大夫樂書の孫、樂說の子樂王鮒なり　一九 叔鬻は、字奚にかし。脫か。ならば、脫略肉の意なり　二〇 祈奚は、出北宮文子なり。臆は、字奚にかし。脫か。ならば、脫略肉の意なり　二一 祈奚

二曰。段喬執二其吏一而囚レ之。囚者之子。走告二封人子高一曰。唯先生能活二臣父之死一。願委二之先生一。封人子高曰。諾。乃見二段喬一。自扶而上レ城。封人子高左右望曰。美哉城乎。一大功矣。子必有二厚賞一矣。自レ古及レ今。功若レ此其大也。而能無レ有二罪戮一者。未レ嘗有一也。封人子高出。段喬使二人夜解一其吏之束縛一也。而出レ之。故曰。封人子高爲二之言一也。而匿二己之爲一而爲也。段喬聽而行レ之也。匿二己之行一而行也。說レ之行若レ此其精也。封人子高可レ謂二善說一矣。叔鰌之弟羊舌虎。善二樂盈一。樂盈有レ罪於晉一。晉誅二羊舌虎一。叔鰌爲二之奴一而廐。新築。曰。吾聞小人得レ位。不レ爭不レ詳。君子在レ憂。不レ救不レ詳。乃往見二范宣子一而說也。曰。聞善爲レ國者。賞不レ過而刑不レ慢。賞過則懼レ及二君子一。與二其不幸而過一。寧過而賞二淫人一。毋三過而刑二君子一。故堯之刑也。殛二鯀於羽山一。而用レ禹。周之刑也。戮二管蔡一而相二周公一。不レ慢レ刑也。宣子乃命レ吏出二叔鰌一。救二人之患一者。行二危苦一。不レ避二煩辱一。猶不レ能レ免。今所レ爲論二先王之德一。而叔鰌得レ免焉。學

は、高縣伯の子、新黄羊也。小人位を得し時は、君を諫めてこれを退かしむべきに、學びてしかせざるは、不詳なりと也　(二)憂は、罷也。當に君を諫めてこれを免れしむべきに、これを救はざるは、不詳なりと也　(三)范宣子は、范文子の子丙也。即ち、叔孫子のために、叔鰌を說ける也　(四)免は、誅也。免は、鉞の子也　(五)管叔は、周公の弟、蔡叔はその兄なり

察賢

二曰。今有二良醫一。今此に良醫あり、十人を治めて九人を起たす、求むる所以の爲なる

醫於此一。治二十人一而起二九人一。所二以求一之萬也。故賢者之致二功名一也。比二乎良醫一。而君人者。不レ知二疾求一。豈不レ過哉。今夫塞者。勇力時日卜筮禱祠。無レ事焉。善者必勝。立二功名一。亦然。要在レ得レ賢。魏文侯師二卜子夏一。友二田子方一。禮二段干木一。國治身逸。天下之賢主。豈必レ形レ苦レ慮哉。執二

なり。故に賢者の功名を致すや、良醫に比す。而も君人は、疾く求むるを知らず。豈に過たずや。今それ塞は、勇力時日卜筮禱祠、事とするなし。善なるものは必ず勝つ。功名を立つるもまた然り、要は賢を得るに在り。魏の文侯、卜子夏を師とし、田子方を友とし、段干木を禮す。國治り身逸せり。天下の賢主、豈に必ずしも形を苦め慮を愁へしめんや。その要を執るのみ。雪霜雨露時なれば則ち萬物育し、人民修り、疾病妖厲去る。故に曰く、「堯の治は、衣裳を委つるが若く、言少きを以て事とするなり」と。宓子賤、單父を治む。琴を彈鳴し、身、堂を下らずして單父治まれり。巫馬期は、星を以て出で、星を以て入り、日夜居らず、身を以てこれを親し、單父また治まれり。巫馬期その故を宓子に問ふ。宓子曰く、「われの謂は人に任じ、子の謂は力に任ず。力に任ずるものは故に勞し、人に任ずるものは故に逸す」と。宓子は則ち君子なり。四肢を逸し、耳目を全うし、心氣を平にして、百官以て治むること義なり。その數に任ずるのみ。

其要一而已矣。雪霜雨露時。則萬物育矣。人民修矣。疾病妖厲去矣。故曰。堯之容。若レ委レ衣裘一。以二百少一事也。宓子賤治二單父一。彈二鳴琴一。身不レ下レ堂而單父治。巫馬期以レ星出。以レ星入。日夜不レ居。以レ身親レ之。而單父亦治。巫馬期問二其故一於宓子一。宓子曰。我之謂任レ人。子之謂任レ力。任レ力者故勞。任レ人者故逸。宓子則君子矣。逸二四肢一。全二耳目一。平二心氣一。而百官以治。機矣。任二其數一而已矣。巫馬期則不レ然。繁レ生事レ。緒レ勞二手足一。煩二教誨一。雖レ治猶未レ至也。

三曰。今夫鳙

期賢

三に曰く、今それ燿蟬は、務その火を明にするに在り。その樹を振すのみにて、火明ならずんば、その樹を振すと雖も何ぞ益せん。明火は燭り火に在るのみならず、闇に在り。今の時に當り、世の闇きこと甚だし。人主の能くその徳を明にするもの有らば、天下の士のそのこれに歸するや、蟬の明火に走るが若きなり。およそ國は徒に安からず、名は徒に顯れず。必ず賢士を得るなり。趙簡子晝居し、喟然として太息して曰く、「異なるかな。われ衞を伐たんと欲すること十年なり、而も衞伐たず」と。侍者曰く、「趙の大を以てして衞の細を伐つ、君もし欲せずんば則ち可なり、君もしこれを欲せば、請ふ、これを伐たしめん」と。簡子曰く、「而の言の如くならざるなり。衞、士十人わが所に於る有り。われ乃ち且にこれを伐たんとす。十人のもの、その言不義なり、而してわれこれを伐たば、これわれ不義を爲すなり」と。故に簡子の時、衞は十人のものを以て、趙の兵を挫め、簡子の身を殆せしめたり。衞は人を用ふるを知ると謂ふべし。十士を遊ばしめて國家安きを得たり。簡子は好く諫に從ふと謂ふべし。十士に聽き

燿者。務在二乎明一。其火一振二其樹一而已。火不レ明。雖レ振二其樹一何益。明火不レ燭在二乎火一。在二於闇一。當二今之時一。世闇甚矣。人主有レ能明二其德一者。天下之士。其歸レ之也。若二蟬之走一レ明火一也。凡國不二徒安一。名不二徒顯一。必得二賢士一。趙簡子晝居。喟然太息曰。異哉吾欲レ伐レ衞十年矣。而衞不レ伐。侍

者曰。以二趙之大一而伐二衞之細一。君若不レ欲。則可也。君若欲レ之。請令レ伐レ之。簡子曰不レ如二而言一也。衞有三士十人於二吾所一。吾乃且レ伐レ之。十人者其言不義也。而我伐レ之。是我爲二不義一也。故簡子之時。衞以二十人者一。挾二趙之兵一。殺二簡子之身一。衞可レ謂レ知レ用レ人矣。遫二十士一而國家得レ安。簡

て小を侵し弱を奪ふの名なし。魏の文侯、段干木の閭を過りてこれに軾す。その僕曰く、「君胡爲れぞ軾するや」と。曰く、「これ段干木の閭にあらずや。段干木は蓋し賢者なり。われ安ぞ敢へて軾せざらん。かつわれ聞く、『段干木は、未だ嘗て肯へておのれを以て、寡人を易へず』と。われ安ぞ敢へてこれに驕らん。段干木は徳に光き、寡人は地に光く。段干木は義に富み、寡人は財に富む」と。その僕曰く、「然らば則ち君何ぞこれを相とせざる。是に於て君これを相とせん」と。これに館せよ」と。是に於て國人みな喜び、相與にこれを誦して曰く、「わが君正を好み、段干木をこれ敬し、わが君忠を好み、段干木をこれ隆うす」と。居ること幾何もなくして、秦、兵を興し魏を攻めんと欲す。司馬唐、秦君を諫めて曰く、「段干木は賢者なり。而して魏これを禮し、天下聞かざるなし。乃ち兵を加ふべからざる無からんや」と。秦君以て然りと爲し、乃ち兵を按め、輟めて敢へてこれを

子可レ謂二好從一而諫矣。聽二十士一而無二侵小寡一之名。魏文侯過二段干木之閭一而軾之。其僕曰。君胡爲軾。曰。此非二段干木之閭一歟。段干木賢者也。吾安敢不レ軾。且吾聞。段干木未三嘗肯以レ己易二寡人一也。吾安敢驕レ之。段干木光二乎德一。寡人光二乎地一。段干木富二乎義一。寡人富二乎財一。其僕曰。然則君何不レ相レ之。於レ是君請レ相レ之。段干木不二肯受一。則君乃致二祿百萬一而時往館レ之。於レ是國人皆喜相與誦レ之曰。吾君好レ正。段干木之敬。吾君好レ忠。

攻めず。魏の文侯は、善く兵を用ふと謂ふべし。嘗て聞く、「君子の兵を用ふる、その形を見す莫くして、その功已に成る」と。それ此をこれ謂ふなり。野人の兵を用ふるや、鼓聲は則ち雷に似、號呼は則ち地を動かし、塵氣天に充ち、流矢雨の如く、傷を扶け死を輿にし、腸を履み血を涉り、罪なきの民、その死するもの澤に量つ。而して國の存亡、主の死生、猶ほ知るべからざるなり。その仁義を離るゝやまた遠し。

(一) 槷を振かすと雖も、(二) 飛び去らば、これを得る能はず。故に何ぞ益せんといへる也 (三) 闇冥の火を見るときろなきは、乃ち光るのみなるが故に、閭に在りといへるなり (四) 伐たずは、伐つを果さずの意 (五) 而は、汝也 (六) 於は、在といふに同じ (七) 按は、止也 (八) 閭は、村里にて、周にて、二十五家を閭といへり。軾すは、車の軾に伏して禮せしをいふ (九) 段干木は、已の德を以て寡人の慢に易ふるを肯ぜずと也 (十) 相は、輔相なり。卽ち、何ぞ段干木を以て、魏の輔相とせざると也 (十一) 時に往きて云々とは、をり〳〵往きて、その館にいたれと也 (十二) 死は、尸と同じ。量は、滿といふに同じ

段干木之隘。居無二幾何一。秦興レ兵欲レ攻レ魏。司馬唐諫二秦君一曰。段干木賢者也。而魏禮レ之。天下莫レ不レ聞。無二乃不一レ可レ加レ兵乎。秦君以爲レ然。乃按レ兵輟不二敢攻一レ之。魏文侯可レ謂二善用一レ兵矣。嘗聞君子之用レ兵。莫レ見二其形一。其功已成。其此之謂也。野人之用レ兵也。鼓聲則似レ雷。號呼則動レ地。塵氣充レ天。流矢如レ雨。扶レ傷與レ死。履レ腸涉レ血。無レ罪之民。其死者量二於澤一矣。而國之存亡。主之死生。猶不レ可レ知也。其離二仁義一亦遠矣。

審爲

四曰。身者所レ爲也。天下者所二以爲一也。審三所二以爲一。而輕重得矣。今有レ人二於此一。斷レ首以易レ冠。殺レ身以易レ衣。世必惑レ之。是何也。冠所二以飾一レ首也。衣所二以飾一レ身也。殺レ所レ飾。要三所二以飾一。則不レ知レ所レ爲矣。世之走レ利。有レ似二於此一。危レ身傷レ生。刈レ頸斷レ頭以徇レ利。則亦不レ知レ所レ爲也。太王亶父居レ邠。狄人攻レ之。事以二皮帛一而不レ受。事以二珠玉一而不レ肯。狄人之所レ求者地也。太王亶父曰。與二人之兄一處而殺二其弟一。與二人之父一處而殺二其子一。吾不レ忍レ爲

てして肯ぜず。狄人の求むるところのものは地なり。太王亶父曰く、「人の兄と(四)居りてその弟を殺し、人の父と處りてその子を殺す、われ爲すに忍びざるなり。みな勉めて處れ。わが臣となると狄人の臣たると、奚を以て異ならん。かつわれこれを聞く、『養ふ所以を以て、養ふところを害せず』と。」策を杖きて去れり。民相連(八)れてこれに從ひ、遂に國を岐山の下に成せり。太王亶父は、能く生を尊ぶと謂ふべし。能く生を尊べば、貴富と雖も、養を以て身を傷らず、貧賤と雖も、利を以て形を累さず。今その先人の爵祿を受けば、則ち必ずこれを失ふを重んず。これを生ずる、自りて來るところのもの久し。而るに輕しくこれを失ふ、豈に惑はざらんや。韓魏相與に爭ひて地を侵す。子華子、昭釐侯に見ゆ。(九)昭釐侯憂ふる色あり。子華子曰く、「今天下をして銘を君の前に書せしむ。これに書して曰く、『左手これを攫まんとすれば、則ち右手廢る。然り而してこれを攫めば、必ず天下を有す』と。君將にこれを(一〇)

也。皆勉處矣。爲二吾臣一與二狄人臣一奚以異。且吾聞之。不下以三所二以養一害中所レ養。杖レ策而去。民相連而從レ之。遂成二國於岐山之下一。太王亶父。可レ謂二能尊一レ生矣。能尊レ生。雖二貧富一不二以レ養傷一レ身。雖二貧賤一不二以レ利累一レ形。今受二其先人之爵祿一。則必重レ失レ之。生レ之所二自來一者久矣。而輕失レ之。豈攫まんとするか。亡へばそれ與へず」と。昭釐侯曰く、「寡人は攫まざるなり」と。子華子曰く、「甚だ善し。是により之を觀れば、兩臂は天下より重きなり。身はまた兩臂より重し。韓の天下より輕きや遠し。今の爭ふ所のものは、その韓より輕きやまた遠し。君固に身を愁め生を傷り以てこれを憂ふとも、滅ど得ざるなり」と。昭釐侯曰く、「善し、寡人に教ふるもの衆し。未だ嘗てこの言を聞くを得ざるなり」と。子華子は、輕重を知るが故に論過たず。中山の公子牟、詹子に謂つて曰く、「身は江海の上に在り、心は魏闕の下に居らば柰何」と。詹子曰く、「生を重んぜよ。生を重んずれば則ち利を輕んず」と。中山の公子牟曰く、「これを知ると雖も、猶ほ自ら勝つ能はざるなり」と。詹子曰く「自ら勝つ能はずんば、則ちこれを縱にせよ。神惡むなからんか。自ら勝つ能はずして、強ひて縱ならざるものは、これ之を重傷と謂ふ。重傷の人は壽類なし」と。

不レ慮哉。韓魏相與爭侵レ地。子華子見二昭釐侯一。昭釐侯有二憂色一。子華子曰。今使三天下貴二銘於君之前一。書レ之曰。左手攫レ之。則右手廢。右手攫レ之。則左手廢。然而攫レ之。必有二天下一。君將レ攫レ之乎。亡其不レ與。昭釐侯曰。寡人不レ攫也。子華子曰。甚善。自レ是觀レ之。兩臂重二於天下一也。身又重二於兩臂一。韓之輕於天下一遠。今之所レ爭者。其輕二於韓一又遠。君固愁レ身傷レ生以憂レ之。戚不レ得也。昭釐侯曰。善。敬二寡人一者衆矣。未二嘗得レ聞二此言一也。子華子曰。身在二江海之上一。心居二乎魏闕之下一。奈何。詹子曰。重レ生。重レ生則輕レ利。中山公子牟曰。不レ能二自勝一也。詹子曰。不レ能二自勝一則縱レ之。神無レ惡乎。不レ能二自勝一而強不レ縱者。此之謂二重傷一。重傷之人。無二壽類一矣。

一 輕重云々とは、身は重くして、天下は輕きをいふ。得は、知るといふに同じ　二 惑は、假也　三 太王亶父は、公祖の子、王季の父、文王の祖にして、號して古公といふ　四 務めて、もとの土地に居住せよと也　五 わが臣となると狄人の臣となるに、何の異なるとこるもちんと也　六 養ふところのものは、民人をいふ。卽ち、土地の爭のために、民人を害するを欲せずと也　七 邠の民が、相連れて古公亶父に從ひ、遂に岐山の下に國を成せりと也　八 今、人その先人よりの爵祿を失ふを厭んじ、土地を爭ひてその生命を失ふ。故に豈に道はざらんやと曰へる也　九 子華子は、體道の人。昭釐は、韓武子五世の孫、莊侯の子也　一〇 遽しは、多しといふ意　一一 惑は、近也　一二 公子牟は、戰の公子也。書四篇を作る。詹子は、古への得道の人　一三 利のために生を傷ちずと也　一四 人は、生を重んじ、利を輕んずべきを知るといへども、なほみづからその情欲に勝つ能はずと也　一五 人みづからその情欲に勝つ能はずば、則ちこれをはしいまゝにせよ。神は憎惡するところなしの意にて、卽ち、當に神を窮んじ、以て性を保つべしとなり　一六 人みづからその情欲に勝つ能はずして、これをはしいまゝにせずば、則ち重ねてその神を傷るなり。神やぶるれば、若死にす。故に壽類なしといへるなり

愛類

五曰。仁二於他物一。不レ仁二於人一。不レ得レ爲レ仁。不レ仁二於他物一。猶若レ仁二於人一。猶若レ爲レ仁。仁也者。仁二乎其類一者也。故仁人之於レ民也。可二以便一之。無レ不レ行也。神農之教曰。士有二當レ年而不レ耕者一。則天下或受二其饑一矣。女有二當レ年而不レ績者一。則天下或受二其寒一矣。故身親耕。妻親績。所二以見一レ致二民利一也。賢人之不レ遠二海內之路一。而時往二來乎王公之朝一。非二以要一レ利也。以レ民爲レ務故也。人主有二能以レ民爲レ務者一。則天下歸レ之矣。王也者。非二必墾レ甲利レ兵選レ卒練レ士也。非下必禦二人之城郭一殺中人之士民上也。上世之王者衆矣。

五に曰く、他物に仁にして、人に仁ならずんば、仁たるを得ず。他物に仁ならずして、ひとり人にのみ仁なるは、猶ほ仁たるが若し。仁なるものは、その類に仁なるものなり。故に仁人の民に於けるや、以てこれに便すべくんば、行さざるなきなり。神農の教に曰く、「士の年に當りて耕さざるもの有らば、則ち天下或はその饑を受く。女の年に當りて績がざるもの有らば、則ち天下或はその寒を受く」と。故に身は親ら耕し、妻は親ら績ぐは、民利を致すを見す所以なり。賢人の、海內の路を遠しとせずして、時に王公の朝に往來するは、以て利を要むるにあらざるなり。民を以て務と爲すが故なり。人主の、能く民を以て務と爲す者あらば、則ち天下これに歸せん。王なるものは、必ずしも甲を堅くし兵を利くし、卒を選び士を練るのみにあらざるなり。必ずしも人の城郭を毀ち、人の士

民を殺すのみにあらざるなり。上世の王たりしもの衆し、而も事みな同じからず。その世の急に當り、民の利を憂へ、民の害を除くは同じ。公輸般、高雲梯を爲り、以て宋を攻めんと欲す。墨子これを聞き、魯より往き、裳を裂きて足を裹み、日夜休まず。十日十夜にして郢に至り、荊王に見えて曰く、「臣は北方の鄙人なり。聞く、『大王將に宋を攻めんとす』と。信にこれあるか」と。王曰く、「然り」と。墨子曰く、「必ず宋を得んとして、乃ちこれを攻むるか。亡してそれ宋を得ず、かつ不義なるも、猶ほこれを攻むるか」と。王曰く、「必ず宋を得ず、かつ不義あらば、則ち曷爲れぞこれを攻めん」と。墨子曰く、「甚だ善し。臣以ふには宋必ず得べからず」と。王曰く、「公輸般は、天下の巧工なり。已に宋を攻むるの械を爲す」と。墨子曰く、「請ふ、公輸般をして、試にこれを攻めしめよ。臣請ふ、試にこれを守らん」と。是に於て公輸般は、宋を攻むるの械を設け、墨子は、宋を守るの備を設けたり。公輸般九たびこれを攻め、墨子九たびこれを却け、入る能

面事皆不レ同。其當二世之急一。憂二民之利一。除二民之害一同。公輸般爲二高雲梯一。欲レ以攻レ宋。墨子聞レ之。自レ魯往。裂レ裳裹レ足。日夜不レ休。十日十夜而至二於郢一。見二荊王一曰。臣北方之鄙人也。聞大王將レ攻レ宋。信有レ之乎。王曰。然。墨子曰。必得レ宋乃攻レ之乎。亡其不得レ宋且不義。猶攻レ之乎。王曰。必不レ得レ宋。且有二不義一。則曷爲攻レ之。墨子曰。臣以宋必不レ可レ得。王曰。公輸般天下之巧工也。已爲二攻レ宋之械一矣。墨子曰。請令二公輸般試攻レ之。臣請試守レ之。於レ是公輸般設二攻レ宋之械一。墨子設二守レ宋之備一。公輸般九攻レ之。墨子九却レ之。公輸般之攻械盡。而墨子之守有レ餘。公輸般詘。而有二殺レ墨子一之心一。墨子曰。我固已知二子之殺一レ我也。我死。宋莫レ能レ守レ圉。我弟子禽滑釐等三百人。已持二我守圉之器一。而在二宋城上一而待二楚寇一矣。雖二殺レ我一。楚不レ能レ攻レ宋。公輸般曰。善。吾請無レ攻レ宋矣。雖レ然。不レ殺レ子。我不レ能レ無レ攻レ宋。墨子曰。子之所レ以教レ我。殺レ子。天下莫レ不レ聞。殺レ一人而天下以爲レ不レ義。殺レ子。而宋不レ可レ得。猶不レ殺二一人一。

以レ術繫レ荊。免二宋之難一者。此之謂也。聖王通士不レ出二於利一民者無レ有。昔上古龍門未レ開。呂梁未レ發。河出二孟門一。大溜逆流。無レ有二丘陵汚衍一。平原高阜一。盡皆滅レ之。名曰二鴻水一。禹於レ是疏レ河決レ江。爲二彭蠡之障一。乾二東土一。所レ活者千八百國。此禹之功也。勤勞爲レ民。無下苦二乎禹一者上矣。匡章謂二惠子一曰。公之學有レ人二於此一。欲三必擊二其愛子之頭一。石可二以代一レ之。匡章去レ燕。今又王二齊王一。何其到也。惠子曰。今有レ人二於此一。欲三必擊二其所一レ重也。石所レ輕也。擊二其所一レ輕。以免二其所一レ重。豈不レ可乎。匡章曰。齊王之所下以用レ兵而不レ休。攻二擊人一而不レ止者上。其故何也。惠子曰。大者可二以王一。其次可二以霸一也。今可下以王二齊王一而壽二黔首之命一。免中民之死上。是以レ石代二愛子頭一也。何爲不レ爲。民寒則欲レ火。暑則欲レ冰。燥則欲レ溼。溼則欲レ燥。寒暑燥溼相反。其於レ利レ民一也。利レ民豈一道哉。

たゞし水災を被りし國のみ。又、民をして爲土に居、餓死せざるを得しめしが故に、活かすといへる也　その水を治め、龍門を鑿ち、伊闕をひらき、江を決し、河を通ずるなど、その勤苦の、爲の如きものなしと也　尊を去るとは、尊位を棄つるをいふ　今王は、齊王に事へ、その尊位に居るは、惠子の言行の何ぞそれ倒逆にして、相違背するやと也。古へ、倒の字を、みな到につくれり　愛子の頭をすてゝ、石をうつなり。故に石以て子に代ふべきかといへるなり　公は石を取り、以て子の頭に代ふるか、しかちざるかと也　施は、惠子の名。この段は、惠子の語也　その故何ぞやとは、何の爲の故ぞやと也　何爲れぞ云々とは、何ぞ兵を用ひざるを爲さんやと也　冬は溫を欲し、夏は涼を欲するが故に、その時に當るといへる也

貴卒

六曰。力貴レ突。智貴レ卒。得レ之同。則遨爲レ上。勝レ之同。則溼爲レ下。所レ爲レ貴レ貴レ賤者。爲二其一日千里一也。旬日取レ之。與二驚駘一同。所レ爲レ貴二驚駘矢一者。爲二其應レ聲而至一。終日而至。則與レ無レ至同。吳起謂二荊王一曰。荊所レ有レ餘者地也。所レ不レ足者民也。今君王以レ所レ不レ足益レ所レ有レ餘。臣不二得而爲一也。於レ

六に曰く、力は突を貴び、智は卒を貴ぶ。これを得ること同じければ、則ち遨きを上と爲し、これに勝つこと同じければ、則ち溼るゝを下と爲す。驥を貴ぶを爲すところのものは、その一日千里なるが爲なり。旬日これを取らば、驚駘と同じ。鏃矢を貴ぶを爲すところのものは、その聲に應じて至るが爲なり。終日にして至らば、則ち至る無きと同じ。吳起、荊王に謂つて曰く、「荊の餘ある所を以て、餘あるところを益すは、臣得て爲さざるなり」と。是に於て貴人をして往きて廣虛の地を實たさしむ。みな甚だこれを苦む。荊王死し、貴人みな來て曰く、「羣臣、王を亂し、吳起死す」と。矢を抜きて走り、尸に伏し矢を插みて、疾言しは、盡く重罪を加へ、三族に逮ぶ。吳起の智は、捷なりと謂つべし。齊の褒

是令三貴人往實二齊虛之地一。皆甚苦レ之。莊王死。貴人皆來。尸在二堂上一。貴人相與射二吳起一。吳起號呼曰。吾示二子吾用レ兵也。拔レ矢而走。伏レ尸插レ矢而疾罵曰。羣臣亂レ王。吳起死矣。且莊國之法。誅二兵於王尸一者。盡加二其罪一。遂二三族一。吳起之智可レ謂レ捷矣。齊襄公即レ位。憎二公孫無知一。

公位に卽き、公孫無知を憎み、その祿を收む。無知說ばず。襄公を殺す。公子糾は魯に走り、公子小白は莒に奔る。既にして國、無知を殺し、未だ君あらず。公子糾と公子小白とみな歸らんとし、倶に至り、先を爭ひて公家に入る。管仲弓を扞き、公子小白を射て鉤に中つ。鮑叔、公子小白をして偃せしむ。管子以爲へらく、小白死すと。公子糾に告げて曰く、「これを安んぜよ。公子小白已に死す」と。鮑叔因りて疾く驅りて先づ入る。故に公子小白は、以て君たるを得たり。鮑叔の智、射に應じて、公子小白をして偃せしむる。その智鏃矢の若きなり。

周の武君人をして、伶悝を東周に刺さしむ。伶悝偃る。その子をして速に哭せしめて曰く、「誰を以てわが父を刺す」と。刺せるもの、聞きて以て死せりと爲せり。周以て信ならずと爲し、因りて厚くこれを罪せり。趙氏、中山を攻む。中山の人、力多きものを吾丘鴝と曰ふ。鐵甲を衣、鐵杖を操り以て戰ふ。而して擊つところ碎けざるなく、衝くところ陷らざるなし。車を以て車に投じ、人を以て人に投ずるや、幾ど將の所に至りて後死す。

(一) 卒は、すみやかなる也 (二) 遬は、おくれてこれを失しうする也 (三) その疾きを賴ぶをいふ (四) 旬日は、十日也。卽ち 旬朔もまた十日なれば、千里に至るが故に、驛騎と同じといへる也 (五) 鏃矢は、輕くしてするどきが故にいふ (六) 臣得て云々とは、臣の利をはかるにあらずして、君がために計るなりと也 (七) 貴人は、貴臣也 (八) みな鐵鎧の壇をみたすを欲せざるが故に、蒿だこれを苦めりと也 (九) 吳起が、人の射しところの矢を拔きて、以てこれを王の尸にはさみ、因りて羣臣をして誅せられしめ、以て自ら報復をなせりと爲 (一〇) 幾は、疾也、はやき也。疑を設して、以てその惜みに堪ゆるのはやきをいへるなり (一一) 齊の襄公は、莊公購の孫、僖公緩父の子、諸兒なり。公孫無知は、僖公の弟、夷仲年の子、故に孫は襄公に於て從弟たり (一二) 公孫無知が、自ら立ちて君となりしが故に、國人これを殺し、未だその君を有せずといふ也 (一三) 公家は、公の朝也 (一四) 鉤は、帶鉤也 (一五) 鏃矢の若きは、その捷疾なるをいへる也 (一六) 周の武君は、西周の君。伶悝は、東周の臣なり (一七) 偃は、仆也 (一八) 刺せるものが、伶悝すでに死せりと聞き、因りて刺せるものの所に至り、然して後に死すといふ意にて、吾丘鴝の力の餘あるをいへる也 (一九) 將は、趙氏の

收二其祿一。無知不レ說。殺二襄公一。公子糾走レ魯。公子小白奔レ莒。既而國殺二無知一。未レ有レ君。公子糾與二公子小白一皆歸。俱至。爭レ先入二公家一。管仲扞レ弓射二公子小白一。中レ鉤。鮑叔御二公子小白一傳レ之。以爲小白死。告二公子糾一曰。安レ之。公子小白已死矣。鮑叔因疾驅先入。故公子小白得二以爲レ君。鮑叔之智。應レ射而令二公子小白傳レ之。伶悝於東周。伶悝偃。令二其子速哭一曰。以レ誰刺二我父一也。刺者聞以爲レ死也。周以爲レ不レ信。因厚罪レ之。趙氏攻二中山一。中山之人。多レ力者曰二吾丘鴝一。衣二鐵甲一。操二鐵杖一以戰。而所レ擊無レ不レ碎。所レ衝無レ不レ陷。以レ車投レ車。以レ人投レ人也。幾至二將所一而後死。

卷第二十二

愼行論第二

愼行論

一に曰く、行は孰はざるべからず。孰はずんば、深谿に赴くが如し。悔ゆと雖も及ぶなし。君子は行を計り義を慮る。小人は行を計る、それ利、乃ち不利なり。利せざるの利を知るあるものは、則ち與に理を言ふべし。荊の平王、臣あり、費無忌と曰ふ。太子建を害し、これを去らんと欲す。王、建の爲に妻を秦に取りて美なり。無忌、王に奪はんことを勸む。王已にこれを奪ひて太子を疏んず。無忌、王に說きて曰く、「晉の霸たるや。諸夏に近し、而して荊は僻し。故に與に爭ふ能はず。大に城父に城きて、太子を置き、以て北方を求め、王は南方を收むるに若かず。これ天下を得るなり」と。王說び、太子をして城父に居らしむ。

妻於秦而美。無忌勸王奪。王已奪之。而疏太子。無忌說王曰。晉之霸也。近於諸夏。而荊僻也。故不能與爭。不若下大城城父。而置太子焉。以求北方。王收南方。是得天下也。王說。使太子居于城父。居一年。乃惡之曰。建與諸侯連。將以方城外反。以入城父。以我與子矣。又倒奚

居ること一年、乃ちこれを惡して曰く、「建と諸侯と連ぢ、將に方城外を以て反かんとす」と。王曰く、「已にわが子たり。事を以て怨み、かつ自ら以爲へらく猶ほ宋のごときなりと。齊晉またこれを輔け將に以て荊を害せんとし、その事已に集る」と。王これを信じ、連尹を執へしむ。太子建出奔す。左尹郤宛は、國人これを說ぶ。無忌またこれを殺さんと欲し、令尹子常に謂つて曰く、「郤宛は、令尹に酒を飲ましめんと欲す」と。また郤宛に謂つて曰く、「令尹は、酒を子の家に飲まんと欲す」と。郤宛曰く、「われは賤人なり。以て令尹を辱うするに足らず。令尹必ず來り辱うせば、われかつ何を以てこれを給待せん」と。無忌曰く、「令尹は甲兵を好む。子出でてこれを門に寘け。令尹至らば、必ずこれを觀ん。已に因りて以て酬を爲せ」と。襲日に及び、門の左右に帷して甲兵を寘く。無忌因りて令尹に謂つて曰く、「われ幾ど令尹に禍せん。郤宛將に令尹を殺さんとす。甲、門に在り」と。令尹、人をしてこれを視しむ

求。對曰。以二妻事一恕。且自以爲宿レ宋也。齊言又師レ之。將二以害一荊。其事已集矣。王信レ之。使レ執二連尹一。太子建出奔。左尹郤宛。國人說レ之。無忌又欲レ殺レ之。謂二令尹子常一曰。郤宛欲レ飲二令尹酒一。又謂二郤宛一曰。令尹欲レ飲二酒於子之家一。郤宛曰。我賤人也。不レ足三以辱二令尹一。令尹必來辱。我

ねば信なり。遂に郤宛を攻めて、これを殺す。國人大に怨み、動作するもの、令尹を非らざるなし。沈尹戌、令尹に謂つて曰く、「それ無忌は、荊の讒人なり。夫の太子建を亡ひ、連尹奢を殺し、王の耳目を塞ふ。今令尹またこれを用ひ、衆不享を殺し、以て大なる誇を興し、患幾ど令尹に及ぶ」と。令尹子常曰く、「これわが罪なり。敢へて良圖せざらんや」と。乃ち費無忌を殺し、盡くその族を滅し、以てその國を說ばせたり。動きてその義を論ぜず、人の害するを知りて、人のおのれを害するを知らず、以てその族を滅すとは、費無忌の謂か。崔杼と慶封と、齊の莊公を殺さんことを謀る。莊公死す。更に景公を立つ。崔杼これに相たり。慶封また崔杼を殺してこれに代つて相たらんと欲す。是に於て崔杼の子を掠して、これをして後を爭はしむ。崔杼の子、相與に私鬪す。崔杼往きて慶封を見てこれを告ぐ。慶封、崔杼に謂つて曰く、「且く留めよ。われ將に甲を興してこれを殺さん」と。因りて盧滿嬰をして、甲を興して以てこれを誅せしめ、

且何以給二待之一。無忌曰。令尹好二甲兵一。子固而富二之門一。令尹至。必觀レ之。已因以爲レ閒。及二襲日一。惟二門左右一而富二甲兵一焉。無忌因謂二令尹一曰。吾幾謁二令尹一。郤宛將レ殺二令尹一。甲在レ門矣。令尹使二人視一之信。遂攻二郤宛一殺レ之。國人大怨。動作者莫レ不レ非二令尹一。沈尹戌謂二令尹一曰。夫無忌

盡く崔杼の妻子及び枝屬を殺し、その室屋を燒き、崔杼に報じて曰く、「われ已にこれを誅せり」と。崔杼歸らんとして歸る無く、因りて自絞せり。慶封、景公に相たり。景公これに苦む。慶封出でて獵す。景公、陳無宇・公孫竈・公孫靈と封を誅す。慶封その屬を以て鬪ひて勝たず。走りて魯に如く。齊人以て讓を爲す。また魯を去りて吳に如く。王これに朱方を予ふ。荊の靈王これを聞き、諸侯を率ゐて以て吳を攻め、朱方を圍みてこれを拔き、慶封を得て、これに斧質を負はせ、以て諸侯の軍に徇ふ。因りてそれをしてこれを呼ばしめて曰く、「齊の慶封の如くなる或る毋かれ。その君を弑してその孤を弱くし、以てその大夫を亡へり」と。乃ちこれを殺せり。黃帝の貴にして死し、堯舜の賢にして死し、孟賁の勇にして死せり。人は固にみな死す。慶封の若きものは、重ねて死すと謂ふべし。身は僇と爲り、支屬は以て見るべからず。忮を行ふの故なり。およそ亂人の動くや、その始は相助け、後は必ず相惡む。義を爲すものは則ち然らず。始よりし

荊之讒人也。亡二夫太子建一。殺二連尹奢一。屏二王之耳目一。今令尹又用レ之。殺二衆不辜一。以興二大誇一。患幾及二令尹一。令尹子常曰。是吾罪也。敢不二良圖一。乃殺二費無忌一。盡滅二其族一。以說二其國一。動而不レ論二其義一。知レ害レ人而不レ知二人害一己也。以滅二其族一。費無忌之謂乎。

崔杼與二慶封一謀レ殺二齊莊公一。

て相與にし、久しうして相信じ、卒にして相親み、後世以て法程と爲す。

(一)讒は、惡といふに同じ。卽ち、仁を行ふを惡はざるべからず。深き谷に入るが如く、滿して平にせしむべからざるなり。行の誹謗ならず、刑辟に入るを憎ゆと雖も、また及ぶところなしと也　(二)谷の水あるを滿といひ、水なきを谿といふ　(三)慮は、度也、はかる也。義をはかりて後に行ふ也　(四)利をはかれば、讒を生ずるが故に不利なりと也　(五)平王は、楚の莊王の子、棄疾也　(六)疏は、遠也、遠ざくる也　(七)誇は、還也　(八)爭ふは、讒を爭ふ也　(九)誅父は、楚の北境の邑也。晉方は、吳越をいふ　(一〇)連尹は、伍奢にて、伍子胥の父也。方城は、楚の北境の邑也。反は叛也　(一一)郤宛は、光庭の子、宛位、その字　(一二)子常は、名は囊瓦、令尹子囊の孫　(一三)辱は、屈辱也　(一四)甲は、鎧也。兵は、戟也、はこ　(一五)實は、置也　(一六)訓は、報也、歌訓也、酒宴　(一七)怪は、古へ幅と通じて用ひたり。幕をはりて也　(一八)非は、咎也、とがめそしる也　(一九)沈尹戌は、莊王の孫、沈諸梁葉、公子高の父也　(二〇)誣は、蔽也　(二一)費無忌は、讒邪を以て人を害せし故に、人は公正を以てこれを害し、その族を滅したりと也　(二二)莊公は、名は光、靈公の子也　(二三)景公は、名は杵臼、莊公の弟　(二四)暱と同じ　(二五)陳無宇は、陳厲公の子敬仲完の子、子亢也。公孫黑は、莊公の孫、公子高訢の子、子張也。ともにはかりて慶封を誅せし也　(二六)誅は、責也。その罪狀を受け入れしを責めし也　(二七)朱方は、吳の邑の名にて、これを以て慶封を封ぜしめし也　(二八)靈王は、恭王の子圍也。拔きとは、殺してこれを取るをいふ　(二九)その大夫を亡へりとは、崔杼をして死せしめしをいふ　(三〇)黃帶は、偏道を帶て貴ぶべけれども、然も都に死に勝せりと也　(三一)累ねて死すとは、

莊公死。更立二景公一。崔杼相レ之。慶封又欲下殺二崔杼一而代レ之上。相與私閒。崔杼往見二慶封一而告レ之。慶封謂二崔杼一曰。且留。吾將與レ甲以殺レ之。因令二盧滿嫳一殺二崔杼之妻子及枝屬一。燔二其室一。報二崔杼一。崔杼歸。無レ歸。因而自縊也。慶封相二景公一。景公苦レ之。慶封出獵。景公與二陳無宇一。公孫捷一。公孫黑一謀レ封。慶封以二其屬一鬪。不レ勝。走如レ魯。齊人以爲レ讓。又去レ魯而如レ吳。王予二之朱方一。荊靈王聞レ之。率二諸侯一以攻レ吳。圍二朱方一。拔レ之。得二慶封一而殺レ之。毋レ或如二齊慶封一。弒二其君一而弱二其孤一。以亡二其大夫一。乃殺レ之。黃帝之貴而死。堯舜之賢而死。孟賁之勇而死。人固皆死。若二慶封一者。可レ謂二重死一矣。身爲レ僇。支屬不レ可二以見一。行レ忮之故也。凡亂人之動也。其始相助。後必相惡。爲レ義者則不レ然。始而相與。久而相信。卒而相親。後世以爲二法程一。

死してまた死するをいふ　(一)忮は、惡也　(二)程は、度也。法程は、模範也、てほん

無義

二曰。先王之於レ論也。極レ之矣。故義者百事之始也。萬利之本也。中

二に曰く、先王の論に於けるや、これを極せり。故に義なるものは百事の始なり、萬利の本なり。中智の及ばざるところなり。及ばずんば則ち知らず。知らざれば利に趨く。利に趨けば、固より必すべからざるなり。公孫鞅・鄭平・繪經・公孫竭はこ

智之所ㇾ不ㇾ及也。不ㇾ及則不ㇾ知。不ㇾ知趨ㇾ利。趨ㇾ利固不ㇾ可ㇾ必也。公孫鞅鄭平。繯絰。公孫竭。是已。以ㇾ義動則無ㇾ嚮ㇾ事矣。人臣與ニ人臣一謀爲ㇾ姦。猶或與ㇾ之。又況乎人主與ニ其臣一謀爲ㇾ義。其孰不ㇾ與者。非ニ獨其臣一也。天下皆且與ㇾ之。公孫鞅之於ㇾ秦。非ニ父兄一也。非ㇾ有ㇾ故也。以ニ能用一也。欲ㇾ

れのみ。義を以て動けば、則ち事を曠しうするなし。人臣と人臣と、謀りて姦を爲す、猶ほ或はこれを與す。また況んや人主その臣と謀りて義を爲す、それ孰れか與せざるものぞ。ひとりその臣のみにあらざるなり。天下みな且にこれに與せんとす。公孫鞅の秦に於ける、父兄にあらざるなり、故あるにあざらるなり。能く用ふるを以てなり。これが責を埋がんと欲す、攻あらざれば以てするなし。是に於て秦の將と爲りて魏を攻む。魏は、公子卬をして將としてこれに當らしむ。公孫鞅の魏に居るや、固より公子卬と善し。人をして公子卬に謂はしめて曰く、「およそ游を爲して貴を欲するところのものは、公子の故を以てなり。今秦は鞅をして將たらしめ、魏は公子をしてこれに當らしむ。覺にかつ忍んで相與に戰はんや。公子これを公子の主に言へ、鞅請ふまたこれを主に言ひて、みな軍を罷めん」と。是に於て將るて歸れり。人をして公子に謂はしめて曰く、「歸らば、未だ時に相見るあらず。願はくは公子と坐して相去り別れん」と。公子曰く、

厘ニ之貴一。非ㇾ攻無ㇾ以。於ㇾ是爲ニ秦將一而攻ㇾ魏。魏使ニ公子卬將而當ㇾ之。公孫鞅之居ㇾ魏也。固善ニ公子卬一。使ニ人謂ニ公子卬一曰。凡所ニ爲ㇾ游而欲ㇾ貴者。以ニ公子之故一也。今秦令ニ鞅將一。魏令ニ公子當ㇾ之。豈且忍相與戰哉。公子貫ニ之公子之主一。鞅請亦貫ニ之主一。而皆罷ㇾ軍。於ㇾ是將歸矣。使人

「諾」と。魏吏これを爭ひて曰く、「不可なり」と。公子聽かず。遂に相與に坐す。公孫鞅因りて卒と車騎とを伏せて、以て公子卬を取る。秦の孝公薨じ、惠王立つ。これを以て公孫鞅の行を疑ひ、罪を加へんと欲す。公孫鞅、その私屬と母とを以て魏に歸らんとす。〔裏〕疵受けずして曰く、「君の公子卬に反するを以てするや、われ君を知るに道なし」と。故に士の自ら行ふや、審にせざるべからざるなり。鄭平の秦王に於けるや臣なり。その應侯に於けるや交なり。交を欺き主に反するは、利の爲の故なり。その秦の將と爲るに方りてや、天下これを貴ぶところ、以てせざるなきものは、重ければなり。重ければ以てこれを得、輕ければ必ずこれを失ふ。秦の將を去りて趙魏に入るや、天下これを賤むところ、以てせざるなきなり。羞づべきところ、以てせざるなきなり。而も秦將の重なし、窮せずして奚をか待まん。方を行ふ、賤むべく、羞づべし。而も秦將の重なし、窮せずして奚をか待まん。趙急に李歜を求む。李言・纓〔經〕これと俱に衞に如き、公孫與に抵る。〔一一〕公孫與見て與に入る。續〔經〕因り

謂二公子一曰。歸未レ有二時相見一。願與二公子一坐而相去別也。公子曰。諾。魏吏爭レ之曰。不可。公子不レ聽。遂相與坐。公孫鞅因伏三卒與二車騎一。以取二公子卬一。秦孝公薨。惠王立。以レ此疑二公孫鞅之行一。欲レ加レ罪焉。公孫鞅以二其私屬與一レ母歸レ魏。襄疵不レ受曰。以三君之反二公子卬一也。吾無レ道レ知レ君。故士自行。不レ可レ不レ審也。鄭平於二秦王一臣也。其於二將一也。天下所レ貴レ之。無レ不レ以者。重也。重以得レ之。輕必失レ之。去二秦將一入二趙魏一。天下所レ賤レ之。無レ不レ以也。所レ可レ羞。無レ不レ以也。行レ方可レ賤。可レ羞。而無二秦

て衙吏に告げ、これを捕へしむ。(一三)縗經以て趙の五大夫に仕ふ。人與に朝を同じうする莫く、子孫以て交友すべからず。(一四)公孫鞅と陰君との事、而して反してこれを樗里相國に告げ、以て秦の五大夫に仕ふ。功大ならざるにあらざるなり。然して三都に入るを得ず。(一五)また況んや、これその功なくして行あるをや。(一六)(一七)(一八)

(一)諷は、意也。(二)本は、原也。傳に、利は、義の和なりと曰へり。故に萬利の本といへるなり。(三)及ばずと は、知る能はずの意。(四)公孫鞅は、商鞅也。鄧平は、秦の臣。縗絰は、趙の人。公孫鞅は、また秦の臣也。(五)商鞅が秦に相たるの實を報ぜんと欲するには、衆役にあらざれば以て實を顯はすなしと也。(六)一旦歸らば、相見るに時あるなしと也。(七)庶孽は、賤の人也。(八)特は、待也。(九)入は、納に同じ。(一〇)李疵を捕へしめし也。(一一)五大夫は、誅也。(一二)樗里は、疾をいふ。(一三)縗絰の行を謂みし也。交友云々は、その子孫を友として交るものなしと也。(一四)本文の其は、有の字の下に入るべきかと。その意は、交友の寄託の功を受くるあるなく、その相輪告するの行あればなりと也。(一五)三都は、趙・衛・魏也。(一六)況は、益也。(一七)然は、而也。(一八)行は、爲也。

將之重。不レ窮。奚待。趙急求二李疵一。縗經以與之俱如レ衛。抵二公孫鞅一。公孫鞅見而與入。縗經因告二衛吏一。使レ捕レ之。樗里相國。以仕二趙五大夫一。人莫二與同一レ朝。子孫不レ可二以交友一。公孫鞅與二陰君一之事。而反告二之樗里相國一。以仕二秦五大夫一也。然而不レ得レ入二三都一。又況乎無二此其功一而有レ行乎。

疑似

三曰。使二人大遽惑一者。必物之相似也。玉人之所レ患。患レ似レ玉者。石之似レ玉者。相レ似劒者之所レ患。患レ似レ劒者。吳干一者。上賢主之所レ患。患二人之博聞辯言而似レ通者一。亡

三に曰く、人をして大に遽惑せしむるものは、必ず物の相似たるなり。玉人の患ふるところは、石の玉に似たるものを患へ、劒を相するものの患ふるところは、劒の吳干に似たるものを患ふ。賢主の患ふるところは、人の博聞辯言にして通に似たるものを患ふ。亡國の主は智に似、亡國の臣は忠に似る。相似のもの、これ愚者の大に惑ふところにして、聖人の慮を加ふるところなり。故に墨子は、岐道を見てこれを哭せり。周宅の鄙鎬は、戎人に近し、諸侯と約し、高葆を爲り、王路に禱り、鼓をその上に置き、遠近相聞く。即ち戎寇至らば、鼓を傳へて相告

國之主似レ智。亡國之臣似レ忠。相似之物。此愚者之所二大惑一而聖人之所レ加レ慮也。故墨子見二鼓道一而哭レ之。周宅豐鎬。近二我人一。與二諸侯一約。爲二高葆一。置於王路一。置二鼓其上一。遠近相聞。即戎寇至。傳レ鼓相告。諸侯之兵皆至。救二天子一。戎寇當レ至。幽王擊レ鼓。諸侯之兵皆至。褒姒大說

け、諸侯の兵みな至り、天子を救ふ。戎寇至るに當り、幽王鼓を擊つ。諸侯の兵みな至る。褒姒大に說んでこれを喜ぶ。幽王、褒姒の笑を欲するや、因りて數〻鼓を擊つ。諸侯の兵數〻至りて寇なし。後に至り、戎寇眞に至る。幽王鼓を擊つ。諸侯の兵至らず。幽王の身は、乃ち麗山の下に死し、天下の笑と爲れり。故に墨子これそれ寇なきを以て眞寇を失へるものなり。賢者、小惡あり、以て大惡を致く。褒姒の敗は、乃ち幽王をして、小說を好み以て大滅を致かしむ。故に形骸相離れ、三公九卿出走せり。これ褒姒の死せし所用にして、平王の東に徙りし所以なり。秦襄・晉文の王勞に勞して、地を賜りし所以なり。梁の北に黎丘部あり。奇鬼あり。喜んで人の子姪昆弟の狀に效ふ。邑の丈人の市に之きて、醉ひて歸るものあり。黎丘の鬼、その子の狀に效ひ、扶けて道にこれを苦む。丈人歸る。酒醒めてその子を誚めて曰く、「われ汝の父たるや、豈に慈ならずと謂はんや。われ醉ふ、汝道にわれを苦む、何の故ぞ」と。その子泣きて地に觸れて曰く、「孽な

喜レ之。幽王欲二褒姒之笑一也。因數擊レ鼓。諸侯之兵。數至而無レ寇。至二於後一。戎寇眞至。幽王擊レ鼓。諸侯兵不レ至。幽王之身。乃死二於麗山之下一。爲二天下笑一。此夫以レ無レ寇失二眞寇一者也。賢者有二小惡一以致二大惡一。褒姒之敗。乃令二幽王舒二小說一以致二大滅一。故形骸相離て三公九卿出走。此

也。この事なきなり。昔也往きて東邑人に責められる。問ふべきなり」と。その父これを信じて曰く、「諾、これ必ずかの奇鬼なり。われ固より嘗てこれを聞けり」と。明日端復た市に飲み、遇ひてこれを刺殺さんと欲す。明旦市に之きて醉ふ。その眞子、その父の反る能はざるを恐る〻や、遂に逝きてこれを迎ふ。丈人その眞子を望み、劍を拔きてこれを刺せり。丈人の智、その子に似たるものに惑ひて、その眞の子を殺せるなり。それ士に似たるものに惑ひて、眞の士を失ふは、これ黎丘の丈人の智なり。疑似の迹、察せざるべからず。これを察する、必ずその人に於てするなり。堯は左たり、禹は右たり。澤に入りて牧童に問ひ、水に入りて漁師に問へるは、奚の故ぞや。その知の審なればなり。それの相似るもの、その母常にこれを識る。知の審なるなり。

(一) 昔は、往也 (二) 孽を加ふれば、これを知るを得るが故なり (三) 被逼は、わかれ路なり。これによりて、以て離すべく以て北すべければ也 (四) 墨の猶ほ墨のごとくして身を誤すに足るが故なり

褒姒之所二用死一。而平王所二以東徙一也。秦襄晉文之所下以勢二王勢一而賜中地也。梁北有二黎丘部一。有二奇鬼一焉。喜効二人之子姪昆弟之狀一。扶而道苦レ之。丈人歸。酒醒而謂二其子一曰。吾爲二汝父一也。可レ笞也。其子泣而觸レ地曰。孽矣。無二此事一也。昔也往賓二於東邑人一。固嘗聞レ之矣。明日端復飲二於市一。欲三遇而刺二殺之一。丈人智慮乃於似二其子一者一。而殺二其眞子一。夫慮二於似レ士者一。而失二於眞士一。此黎丘丈人之智也。疑似之迹。不レ可レ不レ察。察レ之必於二其人一也。舜爲レ御。堯爲レ左。禹爲レ右。入二於澤一而問二牧童一。入二於水一而問二漁師一。奚故也。其知之審也。夫孽子之相似者。其母常識レ之。知之審也。

以て大難を致すといへるなり　● 平王は、幽王の太子宜臼なり。東に徙るとは、都を洛陽にうつしをいふ　● 秦の襄公は、秦仲の孫、莊公の子なり。晉文、犬戎のために敗られ、平王東に徙る、襄公兵に勤として、周を救ひて功あり。周の故地郟鄏を受け、列して諸侯となれるをいふ。晉の文侯仇は、穆公の子なり。左傳隱公六年にわが周の東遷せしとき、晉鄭にこれ依りきといへるは、これの謂なり　● 賜は、讓也、せむる也　● 反は、還也。遝は、往也　● 孽子は、双子、ふたご

壹行

四に曰く、先王の惡むところ、知るべからざるより惡むはなし。知るべからざる惡。無レ惡レ於レ不レ可レ知。不レ可レ知。則君臣父子兄弟朋友夫妻之際敗矣。十際皆敗。亂莫レ大レ焉。凡人倫以二十際一爲レ安者也。釋二十際一。則與二麋鹿一。無二以異一。多レ勇者則爲レ制レ耳矣。不レ可レ知。則知無レ安レ君。無レ榮レ親矣。無レ榮レ兄。無レ親レ友。無レ尊レ夫矣。強大未二必王一也。而王必強大。王者之所二

れば、則ち君臣父子兄弟朋友夫妻の際敗る。十際みな敗るれば、亂これより大なるは莫し。およそ人倫は、十際を以て安を爲すものなり。十際を釋つれば、則ち麋鹿虎狼と以て異なるなし。勇多きものは、則ち制を爲すのみ。知るべからずんば、則ち知の君を安んずるなく、親を樂ますなく、兄を榮えしむるなく、友を親むなく、夫を尊ぶなし。强大は未だ必ずしも王たらざるなり。而も王の必ず强大なるは、王者の藉りて以て成るところなり。何ぞその威とその利とに藉らん。强大にあらずんば、則ちその威は威ならず、その利は利ならず。その威の威ならずんば、則ち以て禁むるに足らざるなり。その利の利ならずんば、則ち以て動すに足らざるなり。故に賢者は、必ずその威利をして敵なからしむ。故に以て禁むれば則ち必ず止み、以て動せば則ち必ず爲む。威利敵なくして、以て知らざるを行ふものは亡ぶ。小きを行ふものは王たり。威利敵して民を憂苦し、知るべき弱にして知るべからずんば、則ち强大これを疑ふ。人の情は、その疑ふところ

為以威一也。何為三其威與二其利一。非二強大一則其威不レ減。其威不レ減。其利不レ利。其威不レ威。則不レ足二以禁一也。其利不レ利。則不レ足二以動一也。故賢者必使二其威利無一レ敵。故以禁則必止。以動則必為。威利敵。而愛二苦民一。行レ可レ知者王。威利無レ敵。而以行レ不レ知者亡。小弱而不レ可レ知。則強大疑レ之矣。人

ろを愛する能はず。小弱にして大の愛せずんば、則ち以て存する無し。故に知るべからざるの道、王者これを行ひて(六)廢れ、強大これを行ひて危く、小弱これを行ひて滅ぶ。今行くもの、大樹を見ば、必ず衣を解き冠を懸け、劒に倚りてその下に寢ねん。大樹は、人の情親ありて交を知るにあらざるなり。而もこれを安んずること此の若きものは、信なり。陵上の巨木は、人以て期となす、(八)知り易きが故なり。また況んや士に於てをや。士義知るべきが故に、則ち期して(一〇)爲すこと必せり。また況んや彊大の國をや。彊大の國、誠に知るべくんば、則ちその王たると難からず。人の船に乘るところのものは、その能く浮びて沈む能はざるが爲なり。世の君子を賢とする所以のものは、その能く義を行ひて邪辟を行ふ能はざるが爲なり。孔子卜して賁を得たり。孔子曰く、「不吉なり」と。子貢曰く、(一一)「それ賁もまた好し。何ぞ不吉と謂はんや」と。孔子曰く、「それ白にして白、黑にして黑、それ賁また何ぞ好からんや」と。故に賢者の惡むところは、物に於てし、

之情不レ能レ愛二其所レ疑。小弱而大不レ愛。則無二以存一。故不レ可レ知之道。王者行レ之廢。強大行レ之危。小弱行レ之滅。今行者見二大樹一。必解レ衣懸レ冠。倚レ劒而寢二其下一。大樹非二人之情親知一レ交也。而安レ之若レ此者信也。陵上巨木。人以為レ期。易レ知故也。又況於レ士乎。士義可レ知故也。則期為必矣。又況彊大之國。誠可レ知。則其王不レ難矣。人之所レ乘船者。為二其能浮而不一レ能レ沈也。世之所三以賢二君子一者。為二其能行レ義。而不レ能レ行二邪辟一也。孔子卜得レ賁。孔子曰。不吉。子貢曰。夫賁亦好矣。何謂二不吉一乎。孔子曰。夫白而白。黑

處なきに惡むなし。それ天下の惡む所以は、知るべからざるより惡むは莫きなり。それ知るべからずんば、盜も與に期せず、賊も與に謀らず。盜賊は大姦なり。而もなほ匹偶を得るところあり。また況んや天功を成さんと欲するに於てをや。それ大功を成さんと欲せば、天下をしてみな輕く動みてこれを助けしむ。これを必すれば士知るべし。

(一) 察は、止也 (二) 論は、通也、すべてはげきを也 (三) 治也 (四) 仁義の行の知らるゝ、なきが故に亡ぶと也 (五) 小にして小ならざれど、弱にして弱ならざるが故に、強國大國のこれを疑ふと也 (六) 小國弱國にして、強大をなすものは、大國の爲に愛せられざれど、則ち以て存在するところなしと也 (七) 廢は、頽也、くづれやぶるゝ也。他人の同じく見るところなり。親してその下蔭に會し、これに息よ。故に知り易きが故なりといへるなり (八) 大樹は、人を欺かざるが故に、信といへるなり (九) 巨木は、物の名づくべきなきを謂むと也 (一〇) 期は、約也 (一一) 賁は、色の純粹ならざるもの (一二) 賢者は、

而黒。夫貫又何好乎。故賢者所レ惡於レ物。無レ惡二於無レ道。無レ道者。天下之所二以惡一莫レ惡レ於レ不レ可レ知也。夫不レ可レ知。盜不二與期一。賊不二與謀一。盜賊大姦也。而猶所レ得二乎偶一。又況於レ欲レ威二大功一乎。夫欲レ威二大功一。令二天下皆輕勤而助一レ之。必レ之士可レ知。

求人

五曰。身定り國安し、天下治まるは必ず賢人なり。古の天下を有せるもの、七十一聖なり。春秋に觀るに、魯の隱公より以て哀公に至るまで、十有二世、そのこれを得し所以、これを失ひし所以、その術一なり。賢人を得れば、國安からざるなく、名榮えざるなく、賢人を失へば、國危からざるなく、名辱められざるなし。先王の賢人を索むる、以ひざるなきなり。卑を極め賤を極め、遠を極め勞を極む。虞は宮之奇を用ひ、吳は伍子胥の言を用ひば、この二國は、今に至ると雖も、存して可なり。則ちこの國壽かるべきなり。能く人の壽を益すあるものは、則ち人これを願はざるなし。今國を壽くするに道あり。而も

人。國無レ不レ危。名無レ不レ辱。先王之索二賢人一。無レ不レ以也。極レ卑極レ賤。極レ遠極レ勞。虞用二宮之奇一。吳用二伍子胥之言一。此二國者。雖レ至二於今一存可也。則是國可レ壽也。有三能益二人之壽一者。則人莫レ不レ願レ之。今壽レ國有レ道。而君人者而不レ求。過矣。堯傳二天下於舜一。禮二之諸侯一。妻以二二女一。臣以二十

君人者にして求めざるは、過てり。堯は天下を舜に傳へ、これを諸侯に禮し、妻すに二女を以てし、臣とするに十子を以てし、身ら北面してこれに朝せんことを請へり。至卑なり。伊尹は庖廚の臣なり。傅說は殷の胥靡なり。みな上天子に相たり。至賤なり。禹東のかた會稽に巡狩し、崩じて葬る所、撝天の山、烏谷青丘の鄉、黒齒の國に至る。南のかた交阯孫樸續構の國、丹粟漆樹、沸水漂漂、九陽の山、羽人裸民の處、不死の鄉に至る。西のかた、三危の國、巫山の下、飲露吸氣の民、積金の山、その肱一臂三面の鄉に至る。北のかた人正の國、夏海の窮、衡山の上、犬戎の國、夸父の野、禺彊の所、積水積石の山に至る。懈墮あらず。その黔首を憂へ、顔色黎黒、簌藏通ぜず、歩相過ぎず、以て賢人を求め、地利を盡さんと欲す。至勞なり。陶化益眞窺横革の交沚澤の中に朝し、曰く、「十日出でて焦火息まず。また勞せずや。夫子天子と爲

子。身語二北面朝一レ之。至レ卑也。伊尹。庖廚之臣也。傳說。殷之胥靡也。皆上相二天子一。至レ賤也。禹東至二搏木之地一。日由九津青羌之野。攡樹之所。搨天之山。鳥谷青丘之鄉。黑齒之國。南至二交阯孫樸鬌脩之國一。丹粟漆樹。沸水漂漂。九陽之山。羿所レ射。鑿齒之民。持レ戈與レ盾。不死之鄉。西至三危之國。巫山之下。飲露吸氣之民。嬰金之山。其肱一臂三面之鄉。北至二人正之國一。夏海之窮。衡山之上。夫我之國。夸父之野。禺彊之所。積水積石之山。不レ有二憊窮一。愛二其黔首一。顏色黎黑。衰藏不レ通。步不二相過一。以求二賢人一。欲レ盡二地利一。至勞也。得二陰化益氣寬橫革之交一。五人

りて、天下已に治らん。請ふ、天下を夫子に屬せん」と。許由辭して曰く、「天下の治まらざるが爲か。而して既に已に治まれり。自ら爲にするか。啁噍の林に巢ふ、一枝に過ぎず、偃鼠の河に飲む、腹に滿つるに過ぎず。歸已せよ君や。惡ぞ天下を用ひん」と。遂に箕山の下、潁水の陽に之き、耕して食し、終身天下を經するの色なし。故に賢主の賢者に於けるや、物のこれを妨ぐる莫く、威愛習故、以てこれを害せず。故に賢者聚る。賢者の聚るところ、天地壞れず、鬼神害せず、人事謀らず。これ五常の本事なり。皐子衆國を取るを疑ふ。召南宮虔孔伯產にして、衆口止めり。晉人鄭を攻めんと欲し、叔嚮をして聘し、其の人あるか、人なきかを視しむ。子產これが詩を爲りて曰く、「子惠われを思ひ、褰を褰げて渭を涉る。子われを思はず、豈に他士無からんや」と。叔嚮歸りて曰く、「鄭に人あり。子產あり。攻むべからざるなり。秦荊近く、その詩異心あり。攻むべからざるなり」と。晉人乃ち鄭を攻むるを輟めたり。孔子曰く、「詩に云ふ、『競き

無からんや、惟の人あり』と。子產一たび稱して鄭國免れたり」と。

● 身を修むるは、國を治むるの本なり。譬子曰く、未だ身の亂れて國の治まるものを聞かずと、故に身定まり而後ち かにして治まるは、賢人に須つと也 二 春秋は、六經の一、孔子の刪定せし魯の歷史 三 以は、用也 四 羿は、布衣の身分なるが故に、至尊といへる也 五 搏木は、扶木に同じ、大木也 六 滓は、崖也。搏山は、山高くして天に至るといふ。馬融とは、東方、その人色黑し。因りて黑齒の國と いへる也 七 九陽の山とは、南方は陽を尚む。陽數は九に極るが故に、しかいへる也。羽人は、鳥喙にして、背上に羽翼ある也。舊民は、衣裳をきざるをいふ。裸もまた國也 八 欽露吸氣は、形を養ふ人也。西方は、刑氣のあるところなるが故に、刑金の山といへるなり 九 人正の國は、北狄の國也。夏海は、大冥海也。衡山は、北國の山也。犬戎は、西戎の別族也。夸父は、敗石。禺彊は、神人也。積水は、燕を謂ふ。積石は、山名 一〇 憊窮ある ずは、禹が經營してあこたりやすまずと也。竪藏通ぜずは、病むをいふ。步相過ぎずは、眠るゝ也 一一 地利は、高殺也 一二 至は、極也、大也。勞は、事功也 一三 陶は、皇陶。化益は、伯益。黎黑は、黑金は、銅鐵に滿つる云々とは、陰分に求めざるをいふ 一四 莊子に「歸休乎君」に作る。高註には、歸は終也とあり 一五 實山は、崩水陽城の西に在り。水北を陽と曰ふ。說は、還也、をさむる也 一六 物の云々とは、物の故を以て賢者を妨害せずと也。慮は、親也。愛は、敬畜也 一七 人事謀らずとは、人の姦邪を以てこれを謀らずと也 一八 皐子は、賢臣也。君は、近習也。故は、故舊也 一九 召南宮虔は、孔伯產は、皐子の能の賢者也 二〇 人あるか云々と

佐レ禹。故功績銘二乎金石一。著二於盤盂一。昔者堯朝二許由於沛澤之中一。曰。十日出而焦火不レ息。不二亦勞一乎。夫子爲二天下一治矣。而天下猶不レ治。奚。而既已治矣。自爲與。啁噍巢二於林一。不レ過二一枝一。偃鼠飲二於河一。不レ過レ滿レ腹。歸已君乎。惡用二天下一。遂之二箕山之下一。潁水之陽一。耕而食。終身無レ經二天下一之色一。故賢主之於二賢者一也。物莫二之妨一。破愛習故。不二以害一レ之。故賢者衆焉。賢者所レ聚。天地不レ禦。鬼神不レ害。人事不レ謀。此五當之本事也。皐子衆疑レ取レ國。召南宮虙孔伯產。而衆口止。晉人欲レ攻レ鄭。令三叔繆聽焉。鄭有レ人。子產在焉。不レ可レ攻也。秦荊近。其詩有二異心一。不レ可レ攻也。晉人乃輟レ攻レ鄭。孔子曰。詩云。無レ競惟人。子產一稱。而鄭國免。

（注）鄭は、棄と嫉とに近きなり。その詩にいふ、子はわれを思はず。豈に他人なからんや。將に棄楚に事へんとすと也。故に、異心あり、攻むべからざるなりと曰へる也　（注）輟は、止也　（注）この詩は、詩經大雅抑の二章にあり。維の人は、賢人也。競は、強也、つよき也。即ち、人君の國を治むる、强きことなからんや。賢を得れば、則ち國强しと也、維の人は、唯に子產をいへる也

察傳

六曰。夫得レ言不レ可以不レ察。數傳而白爲レ黑。黑爲レ白。故狗似レ獲。獲似二母猴一。母猴似レ人。人之與レ狗則遠矣。此愚者之所二以大過一也。聞而審。則爲レ福矣。聞而不レ審。不レ若レ無レ聞矣。齊桓公聞二管子於鮑叔一。楚莊聞二孫叔敖於沈尹筮一。審レ之也。故國顯二諸侯一也。吳王聞二越王句踐於太宰嚭一。智伯聞二趙襄子於張武一。不レ審也。故則遠し。これ愚者の大に過る所以なり。聞きて審にせざるは、聞く無きに若かず。齊の桓公、管子を鮑叔に聞き、楚莊は、孫叔敖を沈尹筮に聞き、これを審にせり。故に國諸侯に覇たりしなり。吳王は、越王句踐を太宰嚭に聞き、智伯は、趙襄子を張武に聞き、審にせざりしなり。故に國亡び身死せり。およそ言を聞かば、必ず熟論し、その人に於けるや、必ずこれを驗するに理を以てす。魯の哀公、孔子に問ひて曰く、「樂正夔は一足なりとは、信か」と。孔子曰く、「昔者舜は樂を以て教を天下に傳へんと欲し、乃ち重黎をして、夔を草莽の中に擧げて、これを進めしむ。舜は以て樂正と爲せり。夔は是に於て、六律を正し、五聲を和し、以て八風を通じて天下大に服せり。重黎また益く人を求めんと欲す。舜曰く、「それ樂は天地の精なり。得失の節なり。故にたゞ聖人のみ、能く和樂の本を爲すなり。夔は能くこれを和し、以て天下を平にせり。夔の若きもの、一にして足れり」と。故に曰く、

國亡身死也。凡則ㇾ言必熟論其於ㇾ人必驗ㇾ之以ㇾ理。譬寘公問二於孔子一曰。樂正夔一足。信乎。孔子曰。昔者舜欲二以ㇾ樂傳一教於天下一。乃令下重黎擧二夔於草莽之中一而遇レ之。舜以爲二樂正一。夔於是正二六律一。和二五聲一。以通二八風一。而天下大服。重黎又欲二益求一レ人。舜曰。夫樂天地之精

「夔は一足」と。一足にあらざるなり。宋の丁氏、家に井なくして、出でて汲汲す。常に一人外に居る。その家、井を穿つに及び、人に告げて曰く、「われ井を穿ちて一人を得たり」と。聞きてこれを傳ふるものあり。曰く、「丁氏、井を穿ちて一人を得たり」と。國人これを道ひ、これを宋君に聞かしむ。宋君、人をしてこれを丁氏に問はしむ。丁氏對へて曰く、「一人の使を得たり。一人を井中に得しにあらざるなり」と。能を求むること、此の若くば、聞くなきに若かざるなり。子夏、晉に之かんとして衛に過る。史記を讀むものあり。曰く、「晉師三豕、河を涉る」と。子夏曰く、「非なり。これ己亥なり。それ己と三と相近く、豕と亥と相似たり」と。晉に至りてこれを問へば、則ち曰く、「晉師の己亥、河を涉りしなり」と。誖多く非に類して是、多く是に類して非なり。是非の經、分たざるべからず。これ聖人の慎むところなり。然らば則ち何を以て慎む。物の情及び人の情に緣り、以て聞くところを爲せば、則ちこれを得。

也。得失之節也。故唯聖人爲二能和一レ樂之本一也。夔能和レ之。以平二天下一。若ㇾ夔者。一而足矣。故曰。夔一足。非二一足一也。宋之丁氏。家無ㇾ井而出溉汲。常一人居ㇾ外。及二其家穿ㇾ井。告ㇾ人曰。吾穿ㇾ井得二一人一。有二聞而傳ㇾ之者一。曰。丁氏穿ㇾ井得二一人一。國人道ㇾ之。聞二之於宋君一。宋君令三人問二之於丁氏一。丁氏對曰。得二一人之使一。非ㇾ得二一人於井中一也。求ㇾ能之若ㇾ此。不ㇾ若ㇾ無ㇾ聞也。子夏之ㇾ晉過ㇾ衞。有下讀二史記一者上曰。晉師三豕涉ㇾ河。子夏曰。非也。是己亥也。夫己與ㇾ三相近。豕與ㇾ亥相似。至二於晉一而問ㇾ之。則曰。晉師己亥涉ㇾ河也。辭多類ㇾ非而是。多類ㇾ是而非。是非之經。不ㇾ可ㇾ不ㇾ分。此聖人之所ㇾ愼也。然則何以愼。緣二物之情及人之情一。以爲ㇾ所ㇾ聞則得ㇾ之矣。

● 變は、殺獰にて、ものはざる ● 舜叔牙は、管仲を鮑公に說き、沈尹筮は、叔敖を莊王に說き、その賢明を察するや、皆なりしなり ● 太宰嚭は、呉王夫差の臣、張武は智伯の臣なり。句踐・鴟子の智略を智にせず。故に越は呉を攻め、呉王夫差は于遂に屈し、智伯は、趙襄子を晉陽に圍みしに、襄子は、張武と謀を通じ、智伯を高梁の東に殺せるをいふ ● 論は、條理。理は、道理也 ● 律は、樂器。陽を呂と爲し、陰を呂と爲し、合せて十二律と爲し、五聲を通和するが故に、天下大に服せしめて十二なり。五聲は、五行の聲にて、宮商角徵羽なり。八風は、八卦の風なり。陰陽を通和するが故に、聞くなくば則ち妄言せざるが故也 ● 變は、舜の樂を掌る人を變めし也 ● 孰は、審なり ● 子夏は、孔子の弟子卜商也 ● 豕は、己亥の字形古文にては三家の字形と甚だ相似たりし也 ● 經は、理也。分は、明なり、あきらかにする也 ● 物の然るを得ざるところのもの、これを推すに人情を以てすれば、則ち費は一足たるを得ん。地を穿ちて井を作るに、一人を得ざるは、明なり。故に以て聞くところを爲さばこれを得といへる也

巻第二十三

貴直論第三

貴直論

一に曰く、賢主の貴ぶところは、士に如くは莫し。士を貴ぶ所以は、その直言の爲なり。言直なれば、則ち枉なるもの見る。人主の患は、枉を聞きて直言を悪まんと欲することなり。これその源を障ぎてその水を欲するなり。水奚に自りてか至らん。これその欲するところを賤みてその悪むところを貴ぶなり。欲するところ、奚に自りて來らん。能意、齊の宣王に見ゆ。宣王曰く、「寡人は、子、直を好むと聞けり。これあるか」と。對へて曰く、「意は悪ぞ能く直ならん。意聞く、『直を好むの士は、家は亂國に處らず。身は汚君を見ず』と。身は今、王に見ゆるを得て、家は齊に宅れり。意悪ぞ能く直ならん」と。

能意見二齊宣王一。宣王曰。寡人聞レ子好レ直。有レ之乎。對曰。意悪能直。意聞。好レ直之士。家不レ處二亂國一。身不レ見二汚君一。今得レ見レ王而家宅二乎齊一。意悪能直。宣王怒曰。野士也。將レ罪レ之。能意曰。臣少而好レ事。長而行レ之。王胡不レ能レ與二野士一乎。將三以彰二其所レ好耶。王乃舍レ之。能意者。使三謹

宣王怒りて曰く、「野士なり」と。將にこれを罪せんとす。能意曰く、「臣は少にして事を好み、長じて之を行ふ。王胡ぞ野士を與ふる能はざるか、將に以てその好むところを彰にせんとするか」と。王乃ちこれを舍けり。能意は、謹乎として主の側に論ぜしむとも、また必ず主に阿らず。主に阿らざるの得るところ豈に少からんや。これ賢主の求むるところにして、不肖主の悪むところなり。

狐援、齊の潛王に說きて曰く、「殷の鼎、周の廷に陳り、その社は、周の屏に蓋はれ、その干戚の音、人の游に在り。亡國の音は、廟に至るを得ず。亡國の社は、天に見ゆるを得ず。亡國の器を、廷に陳ぬるは、戒を爲す所以なり。王必ずこれを勉めよ。それ齊の大呂をして、これを廷に陳ねしむるなかれ。太公の社をして、これを屏に蓋はしむるなかれ。齊音をして、人の游に充てしむるなかれ」と。齊王受けず。狐援出で、國を哭すること三日なり。その辭に曰く、「まづ出らん。絺紵を衣て後出らん。圄圄に滿ち、われ今民の洋洋然として東に走るを見て、處

乎論二於主之側一。亦必不レ阿レ主。不レ阿レ主之所レ得豈少哉。此賢主之所レ求。而不肖主之所レ惡也。狐援說二齊潛王一曰。殷之鼎。陳二於周之廷一。其社稷三於周之屏一。其于威之音。在二人之游一。亡國之音。不レ得レ至二於廟一。亡國之社。不レ得レ見二於天一。亡國之器。陳二於廷一。所二以爲レ戒。王必勉レ之。其無レ

るところを知らず」と。齊王、吏に問ひて曰く、「國を哭するの法若何」と。吏曰く、「斮」と。王曰く、「法を行へ」と。吏、幹質を東閭に陳ぬ、これを殺すを欲せずして、これを去らんと欲す。狐援聞きて、驟往してこれを過る。吏曰く、「國を哭するの法は斮なり。先生の老か、昏か」と。狐援曰く、「曷ぞ昏を爲さんや」と。是に於て乃ち言つて曰く、「人あり。南方より來る。謁入りて鯢居る。人の朝をし て草を爲し、國をして墟を爲さしむ。殷に比干あり、吳に子胥あり、齊に狐援あり。已に若き言を用ひず、またこれを東閭に斮す。斮に辱るもの、われを以て夫の二子者に參するか」と。狐援は、斮を樂むにあらざるなり。國已に亂れ、上已に悖れり。社稷と民人とを哀む。故に若き言を出せり。若き言を出すは、平論にあらざるなり。將に以て敗を救はんとするなり。固より危きに嫌し。これ觸子のこれを去る所以なり。觸子のこれに死する所以なり。趙簡子、衞を攻め、郭に附き、自ら兵に將として戰に及ぶ。且に遠く立たんとし、また

使二齊之大吕陳二之廷一。使二太公之社一。之屏一。使二齊晉之君一。入之游一。齊王不レ受。狐援出而吳國三日。其辭曰。先出也。衣二縞紵一。後出也。痛二國國一。吾今見二民之洋洋然東走一。而不レ知二所レ處。齊王問レ吏曰。吳國之法若何。吏曰。行レ法。斷。王曰。行レ法。吏陳二斧質於東閭一。不レ欲レ殺レ之。而欲レ去レ之。

犀蔽屏檐下に居り、これを鼓せども、士起たず、簡子、桴を投じて歎じて曰く、「嗚呼士の遨弊する、一に此の若きか」と。行人燭過、實を免ぎ戈を橫へて進みて曰く、「また君の能はざるあるのみ、士は何の弊るゝことかこれ有らん」と。簡子愀然色を作して曰く、「寡人の使ふ無くして、身自らこの衆を將るるなり。子は親しく寡人の能なきを誚ふ。說あらば則ち可、說なくば則ち死せん」と。對へて曰く、「むかし吾が先君獻公、位に卽きて五年、國を喪する十九、この士を用ひしなり。惠公位に卽きて二年、淫色暴慢、身、玉女を好む。秦人わが邊を弱ひ、絳を去ること七十、この士を用ひしなり。故に三年にして士盡く果敢なり。文公位に卽きて二年、これを底すに勇を以てせり。衞を圍み曹を取り、石社を拔き、天子の位を定め、尊名を天下に成せり。この士を用ひしなり。また君の取る能はざるあり。士は何の弊るゝことかこれ有らん」と。簡子乃ち犀蔽屏檐を去りて、矢石の及ぶところに立ち、一鼓して士擧

狐援聞而歌往過之。吏曰。吳國之法斬。先生之老歟。昏歟。狐援曰。曷爲昏哉。於是乃言曰。有人自南方來。鯛入而鯢居。使二人之朝爲草而國爲虛。殷有二比干一。吳有二子胥一。齊有二狐援一。已不用二狐援一。又斬之。東閭。每斬者以吾參二夫二子者一乎。狐援非樂斬也。國已亂矣。上已

くこれに乘ぜり。簡子曰く、「吾れ革車千乘を得る與りは、行人燭過の一言を聞くに如かず」と。行人燭過、能くその君を諫むと謂ふべし。戰鬬の上なるは、枹鼓方に用ふ。賞は厚きを加へず。罰は重きを加へず。一言にして士みな樂んでその上の爲に死す。

(一)言直なれば正と邪とが、よく判斷せらるゝがゆえなり (二)陣は軍陣をいふ (三)樂は何也。自は從也 (四)欲するところは、ものが任を聞かんと欲するをいふ (五)能は好、意は名、齊の士。貧王は威王の子 (六)宅は居也 (七)惡は安也。いづくんぞ也 (八)野士は鄙野の士也。いやしき士 (九)與は用に同じ、もちふる也。卽ち上に明君あれば乃ち、下に直臣あり。王はなんすれぞ直の言を好むを用ふる能はざるかと也 (一〇)彰は、明也 (一一)令ければ、誅せざるをいふ (一二)閭は曲也、もくねる也 (一三)狐援は齊の臣、湣王は齊の貧王の子。殷の紂王無亡し、その罪の周に通りしが故に、その庭に隨ねし也。胥は、陳也。卽ち周は殷の社を存してその上に陳し、これを罷して以て侯となし、たゞ。威は美也、をの。干戚は舞ふものゝ執るもの。遊は、樂也 (一四)大呂は、齊の鐘律也 (一五)太公は田常の孫田和也、始めて呂氏に代りて、齊侯と爲る。田氏これを宗とし太公となせり (一六)齊王が狐援の言を納れざりし也 (一七)出は去也 (一八)斬は斬也 (一九)斧鉞は、斧は人を斬るもの、鉞は斬らるゝものを載する器 (二〇)讓往はつまづきて走りゆく也。過は見るといふに同じ (二一)昏は亂也。むのみだるゝ也 (二二)鯛はふな、鯢はくぢら。鯢の小魚を食ひて、人の國に居り、人の害をなすに喩ふ (二三)墟は丘墟也。墟を爲すは。國を亡さしむるをいふ (二四)若き言は、直言也

悖矣。哀三社稷與二民人一。故出二若言一。非二平論一也。將二以救一敗也。固緣二於危一。此觸子之所二以去一之也。遂子之所二以死一之也。趙簡子攻レ衛。附レ郭。自將レ兵。及レ戰。且二遠立一。又居二於犀蔽屏檐之下一。鼓レ之而士不レ起。簡子投レ桴而歎曰。嗚呼士之遽弊一若レ此乎。行人燭過。免レ胄橫レ戈而進曰。亦有二君不一レ能耳。士何弊之有。簡子愀然作レ色曰。寡人之無レ能。有レ說則可。無レ說則死。對曰。昔吾先君獻公。卽レ位五年。狹レ國十九。用二此士一也。惠公卽レ位二年。庶レ之以レ勇。故三年而士盡果敢。城濮之戰。五敗二荊人一。圍レ衛取レ曹。拔二石社一。定二天子之位一。成二章名於天下一。用二此士一也。亦有二君不一レ能取。士何弊之有。簡子乃去二犀蔽屏檐一而立二於矢石之所一。及。一鼓而士畢乘レ之。簡子曰。與二吾得二革車千乘一也。不レ如レ聞二行人燭過之一言一。行人燭過。可レ謂二能諫一。其君一矣。戰鬬之上。枹鼓方用。賞不レ加レ厚。罰不レ加レ重。一言而士皆樂爲二其上一死。

(一)悖は亂也 (二)哀は愛也、すつる也 (三)將は欲也、かならずといふに同じ (四)觸は近といふに同じ (五)樂毅爲の昭王のために、將に齊を伐たんとす、齊は觸氏をしてこれに離ぜしむ、齊の諸王觸子を殺せず、觸子齊軍の敗を欲し車に乘りて去りしをいふ (六)遂子は觸子に代りて將となり、また觸のために敗られたり。故に遂子のこれに死する所以といへるなり (七)附は近也 (八)遽く立たんとは遽く矢石のいたらざるところに立ちて、鋒を避けんとせしをいふ (九)桴は鼓をうつ槌也。弊は斃也、すつる也 歎は化也、かはる也。一は皆といふに同じ、卽ち士の變化弊壞するみな此の如きかと也 (一〇)矢は箭也、石は砲也、いしゆみ。及は至也、いたる也。單は蔽也、ことごとく也。乘は駿也、しのぐ也 (一一)燭過の諫を簡子が能く行へるをいひし也

二曰。言極則怒。怒則說者危。非二賢者一孰肯犯レ危。而非二賢者一也。將二以要レ利矣。要レ利之人。犯レ危何益。故不レ肖主無二賢者一。無レ賢則不レ聞二極言一。不レ聞二極言一。則衰人比周。百邪悉起。若レ此。則無二以存一矣。凡國之存也。必主之安也。

直諫

二に曰く、言極まれば則ち怒る。怒れば則ち說くもの危し。賢者にあらずんば、孰れか肯へて危きを犯さん。而して賢者にあらざるや、將に以て利を要めんとす。利を要むる人、危を犯して何ぞ益せん。故に不肖の主に賢者なし、賢なくんば則ち極言を聞かず、極言を聞かずんば、則ち衰人比周し、百邪悉く起る。此の若くば則ち以て存する無し。おょそ國の存し、主の安きや、必ず以ある所を知らずば、存すと雖も必ず亡び、安しと雖も必ず危し。論ぜざるべからざる所以なり。齊の桓公、管仲、鮑叔、寧戚相與に飲む。酒酣なり。桓公、鮑叔に謂つて曰く、「何ぞ起つて壽を爲さざる」と。鮑叔、杯を奉じて進みて曰く、「公をして、出奔して莒に在りしを忘るゝ毋からしめん。管仲をして、束縛せられて魯に在りしを忘るゝ毋からしめん。寧戚をしてその牛

有レ以也。不レ知レ所レ以。讐レ存必亡。讐レ安必危。所二以不レ可レ不レ論也。齊桓公。管仲。鮑叔。寧戚。相與飲。酒酣。桓公謂二鮑叔一曰。何不二起爲レ壽。鮑叔奉レ杯而進曰。使二公毋レ忘二出奔在二於莒一也。使二管仲毋レ忘二束縛而在二於魯一也。使二寧戚毋レ忘二其飯レ牛而居二於車下一。桓公避レ席再拜曰。寡人與二大

を飯ひて車下に居りしを忘るゝ毋からしめん」と。桓公席を避けて再拜して曰く、「寡人と大夫と能くみな夫子の言を忘るゝ毋くんば、則ち齊國の社稷、殆からざるに幸からん」と。この時に當りてや、桓公は與に極言を言ふべし。與に極言を言ふべし。故に、與に錦たるべくして雲夢に畋し、三月反らず、丹の姬を得て淫し、春年朝を聽かず。蔡申曰く、「先王卜して臣を以て蔡と爲す、吉なり。今王、菹黃の狗、宛路の矰を得、畋して三月反らず。丹の姬を得て淫し、春年朝を聽かず、王の罪は笞に當る」と。王曰く、「不穀縕緼を衣るを免れて、諸侯に齒る、願はくは請ふ變更して笞する無かれ」と。蔡申曰く、「臣は先王の命を承く、敢へて廢せざるなり。王、笞を受けずんば、これ先王の令を廢するなり。臣は寧ろ罪を王に抵つるも、罪を先王に抵つるなり。臣は寧ろ罪を王に抵つるも、罪を先王に抵つるぬる五十、跪きてこれを背に加ふ。此の如くすること再び、謂へらく、「王起毋からん」と。王伏す、蔡申、細荊を束

夫。能 皆 毋レ忘二
夫子之言一。則
齊國之社稷。
幸二於 不レ殆 矣。
當二此 時一也。桓
公 可三與 言二極
言一矣。可三與 言二
極 言一。故 可二與
爲レ霸。荊 文 王。
得二茹 黃之 狗。
宛 路之 矰。以
畋二於 雲 夢一。三
月 不レ反。得二丹
之 姬一淫。莽 年
不レ聽レ朝。葆 申
曰。先 王 卜 以レ
臣 爲レ葆。吉。今
王 得二茹 黃之
狗。宛 路之 矰。
畋 三 月 不レ反。

て」と。王曰く、「答あるの名は一なり。遂にこれを致せ」と。申曰く、「臣聞く、『君子はこれを恥ぢしめ、小人はこれを痛む』と。これを恥ぢしめて變ぜずば、之を痛むとも何ぞ益せん」と。葆申趣り出で、自ら淵に流れ、死罪を請ふ。文王曰く、「これ不穀の過なり。葆申は何の罪あらん」と。王乃ち變更し、葆申を召き、茹黃の狗を殺し、宛路の矰を析き、丹の姬を放てり。後荊國の國を兼すること三十九、荊國をして廣大ならしめたり。此に至れるものは、葆申の力なり。極言の功なり。

(一) 旅は衆也。人能く耳にさかふの忠言を受くるもの少し。故にこれを恥ぢしむ也　(二) 要は求也　(三) 識は知といふに同じ　(四) 桓公が公孫無知の難に遇ひ、莒に出奔せり。忘るゝ毋からしめんとは、桓公の上に在りて膳らざるを欲する意なり　(五) 管仲が公子糾の難に死せず、魯に出奔す。魯人これを東縛して魯にあくりしをいふなり　(六) 寗戚は衛の人なり。旅商人となりて齊の郭門の外に宿す。桓公夜郊に出でて客を迎ふ。寗戚その車下に於て牛を飯ひ歌をうたふ桓公が其の聲を知り用ひて、大夫となしをいふ　(七) 膾を避けては、肉を下りて也。殆は危也　(八) 文王は楚の武王の子、畋は獵也。茹黃は惡の獸の名　(九) 矰は繒也、まどふ也。嗣は政也　(十) 葆は太葆の官也。申は名也　(十一) 不穀は、不善の意にて、諸侯の謙稱。矰は、矢に用ふるひも、繒は、小兒の衣。繒は刺也　(十二) 細刺は細き縄、荊具　(十三) 痛むきて十分其之を致せと也

得二丹 之 姬一淫。莽 年 不レ聽レ朝。王 之 罪 當レ答。王 曰。不 穀 免レ衣二縗 絰一而 商二於 晉 侯一。願 請 變 更 而 無レ答。葆 申 曰。臣 承二先 王 之 令一。不二敢 廢一也。王 不レ受レ答。是 廢二先 王 之 令一也。臣 寧 抵二罪 於 王一。毋レ抵二罪 於 先 王一。王 曰。敬 諾。引レ席 王 伏。葆 申 束二縗 絰一五 十。跣 而 加二之 于 背一。如レ此 者 再。謂 王 起 矣。王 曰。有レ答 之 名 一 也。遂 致レ之。申 曰。臣 聞。君 子 恥レ之。小 人 痛レ之。恥レ之 不レ變。痛レ之 何 益。葆 申 趣 出。自 流二於 澗一。請二死 罪一。文 王 曰。此 不 穀 之 過 也。葆 申 何 罪。王 乃 變 更。召二葆 申一。殺二茹 黃之 狗一。析二宛 路之 矰一。放二丹 之 姬一。後 荊 國 兼レ國 三 十 九。令二荊 國 廣 大一。至二於 此一者。葆 申 之 力 也。極 言 之 功 也。

知化

三に曰く、夫れ勇を以て人に事ふるものは、死を以てするなり。未だ死せずして死を言ふは論ぜず。以てこれを知ると雖も、知る勿きと同じ。およそ智の貴きは、化を知るを貴ぶなり。人主の惑へるものは、則ち然らず。化未だ至らざれば知らず。化已に至る、これを知ると雖も、知るなきと一貫なり。事には、以て過つべからざるものあり、以て過つべからざるものあり、而も身死し國亡ぶ、則ち胡ぞ以て過つべき。これ賢主の重んずるところにして、惑主の輕んずるとこ

已至。雖レ知レ之。與レ勿レ知一貫也。事有下可二以過一者上。有下不レ可二以過一者上。而身死國亡。則胡可二以過一。此賢主之所レ重。惑主之所レ輕也。所レ輕國惡得レ不レ危。身惡得レ困。危困之道。身死國亡。在二於不レ先二知化一也。吳王夫差是也。子胥非レ不レ先二知化一也。諫而不レ聽。故吳爲二丘墟一。吳王夫差將レ伐レ齊。子胥曰。不可。夫齊之與レ吳也。習俗不レ同。言語不レ通。我得二其地一不レ能レ使。得二其民一不レ得レ使。夫吳之與レ越也。接レ土鄰レ境。壤交通屬。習俗同。言語通。我得二其地一能處レ之。得二其民一能使レ之。越於レ我亦然。夫吳越之勢不二兩立一。越之於レ吳也。譬若二心腹之疾一也。雖レ無レ作其傷

ろなり。輕んずるところ、國、惡ぞ危からざるを得ん。身惡ぞ困まざるを得ん。危困の道、身死し國亡ぶるは、化を先知せざるに在るなり。吳王夫差これなり。子胥曰く、「不可なり。諫めて聽かれず、故に吳は丘墟となり。子胥は、化を先知せざるにあらざるなり。過ぎたるに過ぎたる者に而して身死し國亡ぶるに則ち胡ぞ以て過ぎたる者と爲り、禍、閭廬に及べり。吳王夫差將に齊を伐たんとす。子胥曰く、「不可なり。それ齊の吳に與けるや、習俗同じからず、言語通ぜず、われその地を得とも、處る能はず。その民を得とも、使ふを得ず、それ吳の齊に與けるや、土を接し境を鄰し、壤交通屬し、習俗同じく言語通ぜり。われその地を得ば、能くこれに處り、その民を得ば能くこれを使ふ。越の我に於ける、また然り。それ吳越の勢は兩立せず。越の吳に於けるや、譬へば心腹の疾の若し。作る無しと雖も、その傷深くして內に在るなり。それ齊の吳に於けるや、疥癬の病なり。苦なきなり。今越を釋てて齊を伐つは、これを捨てずしてそれ已まん。かつそれ傷ふなきや。之に勝つと雖も、その後患ふれば、猶ほ虎を懼れて猶を刺すがごときなり。

未だ央きず」と。大宰嚭曰く、「不可なり。君王の令の、上國に行はれざる所以のものは、齊晉あればなり。君王もし齊を伐ちて之に勝ち、その兵を徙して以て晉に臨まば、晉は必ず命を聽かん。これ君王一舉して兩國を服するなり。君王の令、必ず上國に行はれん」と。夫差以て然りと爲し、子胥の言を聽かずして、大宰嚭の謀を用ひたり。子胥曰く、「天將に吳を亡さんとせば、則ち君王をして戰ひて勝たしめん、天將に吳を亡さざらんとせば、則ち君王をして戰ひて勝たざらしめん」と。夫差聽かず。子胥兩柱高驪して、廷より出でて曰く、「嗟乎吳の朝に必ず荊棘を生ぜん」と。夫差師を興して齊を伐ち、艾陵に戰ひ大に齊の師を敗り、反りて子胥を誅せり。子胥將に死せんとして曰く、「吾が與に安ぞ一目を得ん。以て越人の吳に入るを視んや」と。乃ち自殺せり。夫差乃ちその身を取りて、これを江に流し、その目を抉つて、これを東門に著けて曰く、「女胡ぞ越人の我に入るを視るや」と。居ること數年、越、吳に報い、その國を殘

ひ、その世を絕ちその社稷を滅し、その宗廟を夷げ、夫差、身擒と爲れり。夫差將に死せんとして曰く、「死者如し知るあらば、われ何の面ありて、以て子胥を地下に見ん」と。乃ち幎を爲り、以て冒して死せり。それ患未だ至らざれば、則ち告ぐべからざるなり。患既に至る。これを知ると雖も、及ぶなし。故に夫差の子胥に慙づるを知りしや、知る勿きに若かず。

(一) 未だ死所を得ずして、徒らに死をいふは論ずるに足らずと也　(二) 然らずは化を知らずと也　● 吳王夫差は閼廬光の子なり、夫差の越に勝ちて、越のため誅さるゝを知らざるをいふなり　● 越王句踐吳に報いその社稷を滅せり、故に丘墟といへる也。宗廟の陵蹟して血食を得ず、故に絕國に及べりといへる也　(三) 幎は、羃に同じ、大なるの也と　(四) 央は、盡也　● 上國は、中國也、中央の國にて都會に近き地　(五) 兩牧高誘とは晉卿なり、大事故の王に勸め、晉國を伐つは、却つて吳國を亡し、朝に朝歸を生ずるに至らんといへる也　(六) 友誼は、晉の地也　(七) 與は平也。讒となれりは、越のためにとりこにせられし也　(八) 恢は、廣也。子胥に見らるゝを開づるため也

子胥兩袪高蹶而出二於廷一曰。嗟乎。吳朝必生二荊棘一矣。夫差興レ師伐レ齊。戰二於艾陵一。大敗二齊師一。反而誅二子胥一。子胥將レ死曰。與レ吾安得二一目一。以視二越人之入一レ吳也。乃自殺。夫差乃取二其身一而浴二之江一。抉二其目一。著二之東門一曰。女胡視二越人之入一レ我也。居數年。越報レ吳。殘二其國一。絕二其世一。滅二其社稷一。曳二其宗廟一。夫差身爲レ虜。夫差將レ死曰。死者如有レ知也。吾何面以見二子胥於地下一。乃爲レ幎以冒而死。夫患未レ至。則不レ可レ告也。患既至。雖レ知レ之無レ及矣。故夫差之知レ慙二於子胥一也。不レ若レ勿レ知。

過理

四に曰く、亡國の主は一貫(一)なり。天の時異なりと雖も、その事殊なりと雖も、亡ぶる所以の同じきものは、樂、適せざればなり。樂適せざれば、則ち以て存すべからず。精丘酒池肉圃、格を爲し、雕柱にして諸侯を結す。適せざるなり。鬼侯(二)の女を刑して、その環を取り、涉者の脛を斬ちて、その髓を視、梅伯を殺して、文王にその醢を遺る。適せざるなり。文王貌受(三)して、以て諸侯に告げたり。琁室(四)を作爲し、頃宮を築爲し、孕婦を剖きてその化を觀、比干を

刑二鬼侯之女一。而取二其環一。截二脛一而視二其髄一。殺二梅伯一而遣二文王一。其醢二不レ適也。文王貌受以告二諸侯一。作二舊琁室一。築二爲頃宮一。剖二孕婦一而觀二其化一。殺二比干一而視二其心一。不レ適也。孔子聞レ之曰。其妄通則比干不レ死矣。夏商之所二以亡一也。晉靈公無道。從レ上彈レ人。而觀二其避レ丸也一。使二宰人一煮二熊蹯一。不レ熟。殺レ之。令二婦人載而過レ朝。以示レ威。不レ適也。趙盾驟諫而不レ聽。公惡レ之。乃使二鉏麑一賊レ之。不レ忍レ賊。曰。不レ忘二恭敬一。民之主也。賊二民之主一。不レ忠。棄二君之命一。不レ信。一二於此一。不レ若レ死。乃觸二廷槐一而死。齊湣王亡居レ衛。謂二公王丹一曰。我何如主也。王丹對曰。王賢主也。臣殺してその心を視る。適せざるなり。孔子これを聞きて曰く、「その竅通ずれば、則ち比干死せず」と。夏商の亡びし所以なり。晉の靈公は無道なり。上より人を彈して、その丸を避くるを觀しなり。宰人をして、熊蹯を臑しめて熟せざりしかば、これを殺し、婦人をして、載せて朝を過ぎ、以て威を示さしむ。適せざるなり。趙盾驟しば諫めて聽かれず。公これを惡み、乃ち鉏麑を使ふ。鉏麑これを見、賊するに忍びずして曰く、「恭敬を忘れざるは、民の主なり。民の主を賊するは、忠ならず、君の命を棄つるは、信ならず。此に一あるは、死するに若かず」と。乃ち廷槐に觸れて死せり。齊の湣王亡げて衛に居る。公王丹に謂つて曰く、「われは何如なる主ぞや」と。王丹對へて曰く、「王は賢主なり。臣聞く、古人、天下を辭して恨める色なきものありと。臣その聲を聞き、王に於てその實を見る。王名は東帝を稱し、實は天下を辨む。國を去り衛に居り、容貌充滿、顏色發揚、國を重しとするの意なし」と。王曰く、「甚だ善し。丹は寡人を知れり。寡人みづから國を去り衛に居るや、帶の衒すこと三副」と。宋王、冀帝を築爲し、鴟夷、血もりて、高く之を懸け、射るに甲冑を著け、下よりす。血墜ち地に流る。左右みな賀して曰く、「王の賢は湯武に過ぐ。湯・武は人に勝てり。今王は天に勝てり。賢以て加ふべからず」と。宋王大に說び、酒を室中に飮む。萬歲を呼ぶものあり。堂上盡く應ず。堂上已に應じ、堂下盡く應ず。門外庭中これを聞き、敢へて應ぜざる莫し。適せざるなり。

(一) 一貫は一道にて、貫は同也。亡ぶる所以の道同じと也。卽ち不仁と足るを知らざるとにもとづくと也　(二) 格は銅を以てとれをつくり、火をその下に布き人をその上に置き、たゞれて火に墮ちて死するを見て、樂とせるをいふ。膠柱云々とは膠りて高柱に置き、琴瑟をその端に施し、諸侯を集げてこれを上下せしむるをいふ　(三) 殷の紂王が妲己の贈を信じ、鬼侯の女を殺して、以て脯となし、その嗜せしところの腦を取りしをいふ。渉者云々とは水を渉るものの、その寒にたふるを以てその脛をたちて、その髓を見、その普通の人と異なるか否かを知らんと欲せし也。梅伯は、紂王の諸侯なり。鬼侯の女の美好を說く。紂王妲己の贈を受け、以て美好ならずとなし、よりて梅伯を殺して醢と爲し、以て文王にあくりしをいふ。醢は肉醬也　(四) 銳受は、心より受けずして、容貌にて受くるさまをあらはせるをいふ　(五) 琁室は、琁玉を以てその室を飾る也。頃宮は宮殿の髓の一頃に滿つるをいへるにて、

閒。古人有下辭二天下一而無上恨色一者。臣閒二其聲一於レ王而見二其實一。王名稱二東帝一。實辨二天下一。去レ國居レ衡。容貌充滿。顏色發揚。無二重レ國之意一。王曰。甚善。丹知二寡人一。寡人自去レ國居レ衡也。帶益三閒矣。宋王築二鶡臺一。帝。鳴夷血高懸レ之。射著二甲胷一。徙レ下。血墜流レ地。左右皆賀。曰。王之賢過二湯武一矣。湯武勝レ人。今王勝レ天。賢不レ可二以加一矣。宋王大說。飲二酒室中一。有下呼二萬歲一者上。堂上盡應。堂下盡廬。門外庭中聞レ之。莫二敢不一レ應。不レ適也。

その體大なるをいふなり。化は肖也。その體裏を調しをいふ。比干は紂王の叔父也。心を諫るは諫をきゝて見る意にて、比干はしばしば紂王の非を諫めしかども、紂王これを聽く能はず、却つてその胸をさきてその何を以て普通の人と同じからざるかを知らんと欲せし也 ㊁ 聖人はその心違し、その性通ず、紂王の性は仁ならず、心は通ずるを言ふものあり。因りて、孔子は、紂にしてその一竅通ずれば、比干は殺されずといへども、殷の紂王は、比干を殺せり、故にしかいへる也 ㊂ 夏の桀は、關龍逢を殺し、殷の紂王は、比干を殺せり、故にしかいへる也 ㊃ 靈公は襄公の子、文公の孫 ㊄ その高臺の上より彈を引き、その逃げて丸を避くるを見て、樂となしをいふ ㊅ 宰人は、食物の調理を掌る人、熊蹯は熊の掌也。膾は煮る也 ㊆ 其屬を會に觀せ、婦人をして、これをかゝげて過ぎしめし也。朝を過ぎしめしは、これを人に示し、諸侯をもどすため也 ㊇ 趙盾は晉の大夫にて、趙成子の子宣子也。弒君は、晉の力士にて、これをして趙盾を害せしめんとせし也 ㊈ 賊は、殺也。大夫を主と稱す、よりて民の主といへる也 ㊉ 不忠なり不倶なり、何れか一つの行ある位ならば寧ろ死する方が優れり ㊊ 朝廷の内の槽に頭を打ちつけて死せりと也 ㊋ 紂王は宣王の子 ㊌ 公王丹は悼王の臣也 ㊍ 擊は名也、實は行ふところの實也 ㊎ 辨は泊也 ㊏ 殷湯は光明ある也、國を重しとする云々とは、これを輕んずるをいふ ㊐ 帶の益すとは、身體肥滿して帶のきすをいふ、三圍は三倍也 ㊑ 宋王は宋の康王也。築は當に築に作るべく、帶は當に築に作るべし、その音同じきが故に、假借せるのみ。築の名。鴟夷は革囊の大なるもの、即ち康王が血をつくり鴟夷に血を盛りて、空上高くこれをつるし以て天に象り、甲冑を着けたるものをして、下よりこれを射しむ、血は流れて地に墮つ、これを右ぐけて天神を射て血を下すといひし也

壅塞

五曰。亡國之主。不レ可二以直一。以直言不レ可二以直一。直言不レ可二以直一。則過無レ道。聞。而善無二自至一矣。無二自至一則壅。秦繆公時。戎翟大。秦繆公遣三之女樂二八。與二良宰一焉。戎王大喜。以二其故一數飲食。日夜不レ休。左右有下言二秦寇之至一者上。因扞レ弓而射レ之。秦寇果至。

五に曰く、亡國の主は、以て直言すべからず。以て直言すべからずんば、則ち過の聞するに道無くして、善自りて至るなし。自りて至る無くんば、則ち壅塞る。秦の繆公の時、戎翟大なり。秦の繆公、これに女樂二八と良宰とを遺る。戎王大に喜び、その故を以て數〻飲食し、日夜休まず。左右、秦寇の至るを言ふものあり。因りて弓を扞きてこれを射る。秦寇果して至る。戎王醉ひて俘下に臥す。卒に生縛してこれを擒にす。未だ擒にせられざる、則ち知るべからず。已に擒にせらる、則ちまた知らず。善く說くものと雖も、猶ほ此れをいかんぞや。齊、宋を攻む。宋王、人をして齊寇の至るところを候はしむ。使者還りて曰く、「齊寇近し。國人恐る」と。左右みな宋王に謂つて曰く、「これ所謂肉の自ら蟲を生ずるものなり。宋の強、齊兵の弱を以てして、惡ぞ能く此の如

戎王醉而臥二於樽下一。卒生縛而擒レ之。未レ擒則不レ可レ知。已擒則又不レ知。雖二善說者一猶若レ此何哉。齊攻レ宋。宋王使三人候二齊寇之所一レ至。使者還曰。齊寇近矣。國人恐矣。左右皆謂二宋王一曰。此所謂肉自生レ蟲者也。以二宋之強。齊兵之弱一。惡能如レ此。宋王因怒而誅二殺之一。又使三人往

くならん」と。宋王因りて怒りて、これを誅殺せり。また人をして往きて齊寇を視しむ。使者の報ずること前の如し。宋王また怒り、これを誅殺せり。此の如くするもの三たびなり。その後また人をして往きて視しむ。齊寇近づき、國人恐る。使者その兄に遇ふ。曰く、「國危きと甚し。若將に安に適かんとする」と。その弟曰く、「王の爲に齊寇を視る。意はざりき、其近くして、國人の恐るゝと此の如くならんとは。今又私かに患ふ、鄕の先づ齊寇を視しもの、みな寇の近づけるを以てして、報じて死せり。今や其情を報ずれば死し、其情を報ぜざるも、また恐らくは死せん。將に若何すべき」と。その兄曰く、「如しその情を報ぜば、有まさに夫の死する者に先つて死し、夫の亡ぶる者に先つて亡びんとす」と。是に於て王に報じて曰く、「殊に齊寇の在るところを知らず。國人甚だ安し」と。王大に喜ぶ。左右みな曰く、「鄕の死せしものは宜なり」と。王多くこれに金を賜ふ。寇至る。王自ら車上に投じ、馳せて走ぐ。この人以て他國に富むを得たり。そ

觀二齊寇一。使者報如レ前。宋王又怒。誅二殺之一。如レ此者三。其後又使二人往觀一。齊寇近矣。國人恐矣。使者遇二其兄一曰。國危甚矣。若將二安適一。其弟曰。爲レ王觀二齊寇一。不レ意其近而國人恐如レ此也。今又私患。鄕之先觀二齊寇一者。皆以二寇之近一也。報而死。今也報二其情一死。不レ報二其情一又恐死。

れ山に登りて牛を視れば羊の若く、羊を視れば豚の若し。牛の性は羊の若からず、羊の性は豚の若からず、自ら視る所の勢過てるなり。而して因りて牛羊の小に怒れるなり。これ狂夫の大なるもの、狂にして以て賞罰を行ふ。これ戴氏の絕えし所以なり。齊王、淳于髡を以て太子に傅たらしめんと欲す。髡辭して曰く、「臣は不肖にして、以てこの大任に當るに足らざるなり。王は國の長者を擇んでこれを使ふに若かず」と。齊王曰く、「子辭する無かれ。寡人豈に子の太子をして、必ず寡人の如くならしむるを責めんや。寡人は固より生れながらにしてこれを有するなり。子、寡人の爲に、太子をしてその舜の如くなるを堯の如くならめよ」と。およそ說の行はるゝや道あり。智ならずして智に聽くは、從うて自らこれを受くるにあらざるなり。今自ら賢を以て堯舜より過ぐとす、かれかつ胡ぞ以て說を開くべけんや。說必ず入らず、君を存するを聞かず。齊の宣王射を好む。人の、おのれの能く彊弓を用ふると謂ふを說ぶ。その嘗て用ひしところ、三石

に過ぎず。以て左右に示す。左右みな試にこれを引き、中關にして止む。皆曰く、「これ九石に下らず。王にあらずんば、それ孰れか能く是を用ひん」と。宣王の情、用ふる所、三石に過ぎず。而も終身自ら以て九石を用ふと爲せり。豈に悲しからずや。直士にあらずんば、それ孰れか能く主に阿らざらん。世の直士、その寡、衆に勝たざるは、數なり。故に亂國の主の患は、三石を用て九石と爲すに存するなり。

(一)過の云々とは、過の以て主に聞するに、路無きをいふ。自は從也、より也　(二)寤は兵也　(三)抒は引也　(四)靜ひてみづから知らざるをいふ　(五)善く說くものといへども如何ともする能はざるをいふ　(六)齊の湣王が、宋を攻めてこれを滅ししをいふ　(七)鈇は鉞也　(八)宋は弱國にして齊兵の弱きに、いづくんぞ能く勝りて此に至らんと也　(九)諸は任也。罪なくしてこれを殺すを任と曰ふ　(一〇)力ゐるを示す也　(一一)中關は、弓弩の正中にして止むをいふ　(一二)關は貫也　その矢を知らざるを儒む也　(一三)數は道數也　(一四)力足らずして自ら以て餘ありとなす、その功德その治理もまたこれに同じといふ意をいへる也

所に自從の之勢過也。而因怒於牛羊之小也。此狂夫之大者。狂而以行貨罰。此戴氏之所以絕也。齊王欲以當此大任也。王不若上擇國之長者而使之。齊王如亡寡人也哉。寡人固生而有之也。子爲寡人一令太子如亡。寡人智聽智。從自非受是也。今自以賢過於魏舜。彼且胡可以開說哉。說必不入。不聞存君。齊宣王好射。說人之謂己能用彊弓也。其嘗所用不過三石。以示左右。左右皆試引之。中關而止。皆曰。此不下九石。非王其孰能用是。宣王之情。所用不過三石。而終身自以爲用九石。豈不悲哉。非直士。其孰能不阿主。世之直士。其寡不勝衆。數也。故亂國之主患。存乎用三石一鈞而九石上也。

原亂

六曰。亂必有弟。大亂五。小亂三。訓亂三。

六に曰く、亂るゝ必ず弟あり。大亂五、小亂三、訓亂三。故に詩に曰く、「亂門を過る毋れ」と。これを遠ざくる所以なり。福を慮るは未だ及ばず。禍

を感るのこれを免るゝ所以なり。武王は、武を以てこれを得、文を以てこれを持し、戈を倒にし弓を弛め、天下に兵を用ひざるを示せり。これを守の所以なり。晉の獻公、驪姬を立て、以て夫人と爲し、奚齊を以て太子と爲せり。里克(三)國人を率ゐて以て攻め、これを殺せり。荀息、その弟公子卓を立て、已に薨る。里克また國人を率ゐて攻め、これを殺せり。是に於て晉に君なし。公子夷吾重くして以て君と爲す。秦の繆公、師を率ゐて以てこれを納る。晉人立てて以て君と爲す。これを惠公と爲す。惠公既に晉に定り、秦の德に背きて地を予へず。秦の繆公、師を率ゐて晉を攻む。晉の惠公これを逆へ、秦人と韓原に戰ひ、晉の師大敗せり。秦、惠公を獲て以て歸り、これを靈臺に囚ふ。十月乃ち晉と成ぎ、惠公を歸して太子圉の逃れ歸るや、惠公死し、圉立ちて君と爲れり。これを懷公と爲す。秦の繆公、その逃れ歸るを怒るや、起ちて公子重耳を奉じ、以て懷公を攻め、これを高梁に殺して、重耳を立つ。これを文公と爲す。文公舍を施ひ、廢滯を振し、乏困を匡し、災患を救ひ、淫慝を禁じ、賦斂を薄くし、罪戾を宥し、器用を節し、民を用ふるに時を以てゝ、荊人を城濮に敗り、襄王を定め、宋を釋きて穀戍を出し、外内みな服し、而して後、晉の亂止めり。故に獻公、驪姬に聽き、梁五・優施を近づけ、太子申生を殺し、而して大難これに隨ふもの五、三君死し一君虜にせられ、大臣卿士の死するもの、百を以て數へられ、咎に罹ること二十年なり。上世より以來、亂未だ嘗て一ならず。而して亂人の患や、みな曰く一のみ。これ事慮情を同じうせざるなり。事慮情を同じうせざるは、心異なればなり。故におよそ亂を作すの人、禍の身に及ばざること希し。

(一)文公舍を施ひ　舍は次也、次第也。施は古の施の字　(二)大難これに隨ふもの五、三君死し一君虜にせられ　大難五とは、晉國が長を廢し少を立て、少立ちてまたこれを殺ししをいふ。小難三とは、里克の亂を殺ししをいふ。前篇三とは、朝に於て驪姬の兵を舉ぐて登、絳に入りしをいふ。前は討の間もいふ　(三)里克　晉の大夫。(四)荀息　晉の大夫。(五)公子夷吾重くして以て君と爲す　重は難也。(六)秦の繆公、師を率ゐて以てこれを納る　納は入也。(七)これを惠公と爲す。惠公既に晉に定り　定は即位也。(八)秦の德に背きて地を予へず　予は與也。(九)秦の繆公、師を率ゐて晉を攻む。晉の惠公これを逆へ、秦人と韓原に戰ひ、晉の師大敗せり。秦、惠公を獲て以て歸り、これを靈臺に囚ふ　韓原は晉の地。靈臺は秦の臺。(十)十月乃ち晉と成ぎ、惠公を歸して太子圉を質とせり　成は和也。(十一)太子圉の逃れ歸るや、惠公死し、圉立ちて君と爲れり。これを懷公と爲す　圉は惠公の子。(十二)秦の繆公、その逃れ歸るを怒るや、起ちて公子重耳を奉じ、以て懷公を攻め、これを高梁に殺して、重耳を立つ。これを文公と爲す　高梁は晉の地。

夷吾。重賂を秦に以て地を求めて入る。秦繆公卒を師を以て納れ之を立て以て爲れ君。是爲に惠公。惠公既に定に於晉。背に秦德に而不予地。秦繆公卒を師攻れ晉。晉惠公逆れ之。與に秦人戰に於韓原。晉師大敗。秦獲に惠公に以歸。囚之於靈臺。十月乃與に晉成。歸に惠公に而質に太子圉。太子圉逃歸也。惠公死に圉立

爲レ君。是爲二懐公一。懐公怒二其逃歸一也。起奉二公子盧耳一。以攻二懐公一。殺二之於高梁一。而立二重耳一。是爲二文公一。文公施レ舎。振二廢滯一。匡二乏困一。救二災患一。禁二淫慝一。薄二賦斂一。宥二罪戾一。節二器用一。用レ民以レ時。敗二荊人一。服レ而後晉亂止。被獻公聽二讒絶一。近二親戚一。施二及一。殺二太子一。虜二大臣卿士之死者以レ百數。離レ咎二十年一。自二上世一以來。亂未二嘗一レ一。而亂人之患也。皆曰一面已。此事慮不レ同レ情也。事慮不レ同レ情者。心異也。故凡作レ亂之人。蝎希不レ及レ身。

入らんことを求むる者　(六)成は平也、和睦也　(七)高梁は晉の地名　(八)前公子盧耳の懐公に怒りて逃げ歸りしを、晉の文公がこれを周に訪れしが故に定むといふ（る也。宋を圍みて示々とは、楚が宋を圍みまた甲公叔侯をして齊の救兵を守らしめしかば、晉の文公が晉師を發し晉と和し、宋の圍を解き、叔侯を召してこれを去らしめしをいふ。外は諸侯、内は卿大夫也。みな文公の德に服せりと也　(九)三君は襄公子卓懿公をいふ。一君は惠公にて、秦に とらへられ歸國に因せられしをいふ　(一〇)希は鮮なり、罷めてすくなき也

卷第二十四

不苟論第四

不苟論

一に曰く、賢者の事ふるや、貴と雖も苟も爲さず、聽かると雖も自ら阿らず、必ず理に中りて、然して後に動き、必ず義に當りて、然して後に舉ふ。これ忠臣の行なり。賢主の說ぶ所にして、不肖主の說ばざる所、其聲を惡むにあらざるなり。人主不肖と雖も、その忠臣の聲を說ぶは、賢主と同じ。その實を行ふは、則ち賢主と異なる有り。異なるが故に、その功名禍福もまた異なり。異なるが故に、子胥は闔閭に說ばれて夫差に惡まれ、比干は生きて商に惡まれ、死して周に說ばれたり。武王、殷郊に至る。係壁つ。五人、前に御す。肯へてこれを爲す莫し。曰く、「吾が君に事ふる所以のものは、係にあらざるなり」と。武王、左、白羽を執

一曰。賢者之事也。雖レ貴不二苟爲一。雖レ聽不二自阿一。必中レ理然後動。必當レ義然後舉。此忠臣之行也。賢主之所レ說。而不肖主之所レ不レ說。非レ惡二其聲一也。人主雖二不肖一。其說二忠臣之聲一。與二

き、右、黄鉞を釋き、勉めて自ら係を爲せり。孔子これを聞きて曰く、「この五人のものの爲す所以は、王者の佐なり。不肖主の安んぜざるところなり」と。故に天子、細民に勝らざるものあり、天下、千乘に勝らざるものあり。秦の繆公、戎の由余を見、說びてこれを留めんと欲す。由余肯ぜず。繆公以て寔叔に告ぐ。寔叔曰く、「君以て內史廖に告げよ」と。內史廖對へて曰く、「戎人は五音と五味とに達せず。君これを遺るに若かず」と。繆公、女樂二八人と良宰とを以て之に遺る。戎王喜び、遂惑大亂、酒を飲んで晝夜休めず。由余驟ゝ諫むれども聽かず。因りて怒りて繆公に歸せり。寔叔は內史廖の爲す所を爲す能はざるにあらず。その義行はざるなり。繆公は、能く人臣をして時にその正義を立てしむ。故に殺の恥を雪ぎて、西のかた河雍に至れるなり。秦の繆公は百里奚を相とす。晉は叔虎を使とし、齊は東郭寔を使とし、秦に如かしむ。公孫枝これを見んことを請ふ。公曰く、「容を見んことを請ふは、子の事か」と。對へて曰く、「相國、子を使ひしか」と。對へて曰く、「不らざるなり」と。公曰く、「然らば則ち子の事は、子の事にあらざるなり。秦國は僻陋にして戎夷事服せり、それ人に任じて、其事を事とするも、猶ほ諸侯の笑と爲らんを懼る。今子は、子の事にあらざるを爲さんとす。退け、將に而の罪を論ぜんとす」と。公孫枝出づ。自ら百里氏に敷す。百里奚これを請ふ。公曰く、「これ相國に聞くところか。枝、罪なくんば奚ぞ請はん。罪あらば奚ぞ請はん」と。百里奚歸り、公孫枝に辭せり。公孫枝徒る。自ら街に敷す。百里奚、吏をしてその罪を行はしめ、分官を定めたり。これ古人の法を爲す所以なり。今繆公これに鄉ふ。その西戎に霸たる、豈に宜べならずや。晉の文公將に鄀を伐たんとす。趙衰、鄀に勝つ所以の術を言ひ、文公これを用ひたり。果して勝てり。還る。將に賞を行はんとす。衰曰く、「君將にその本を賞せんとするか、その末を賞せんとするか。その末を賞せば、則ち騎乘のもの存し、その本を賞せば、則ち臣これを郤

以爲「王者佐也。不肖主之所ゝ以ゝ安也。故天子有下不ゝ勝二細民一者上。天下有下不ゝ勝二千乘一者上。乘繆公見二戎由余一。說而欲ゝ留ゝ之。由余不ゝ肯。繆公以告二寔叔一。寔叔曰。君以告二內史廖一。內史廖曰。戎人不ゝ達三於五音與二五味一。君不ゝ若ゝ遺ゝ之。繆公以二八人女樂一與二良宰一遺ゝ之。戎王喜。遂迷惑大亂。酒飲而晝夜不ゝ休。由余驟ゝ諫。不ゝ聽。因怒而歸二繆公一。寔叔內史廖之所ゝ爲ゝ非ゝ係也。武王左釋二白羽一。右釋二黃鉞一。勉自爲ゝ係。孔子聞ゝ之曰。此五人者之所二

大亂。飲ㇾ酒盡夜不ㇾ休。由余驟諫而不ㇾ聽。因怒而歸二繆公一也。繆叔非ㇾ不ㇾ能ㇾ爲二內史廖之所一ㇾ爲也。其義不ㇾ行也。繆公能令三人臣時立二其正義一。故曾二殺之一。晉一而四至二河雍一也。秦繆公相二百里奚一。晉使二叔虎一。齊使二東郭巂一如ㇾ秦。公孫枝請ㇾ見之。公曰。請ㇾ見ㇾ客。子之事鮮。對曰。非也。相

子虎に聞く」と。文公、郤子虎を召して曰く、「衰は郤に勝てる所以を言へり。郤に既に勝てり。將にこれを賞せんとす。曰く、『蓋しこれを子虎より聞く。請ふ子虎を賞せよ』と。」子虎曰く、「これを言ふは易く、これを行ふは難し。臣は之を言へるものなり」と。公曰く、「子、辭する無かれ」と。郤子虎敢へて固辭せず、乃ち受けたり。およそ賞を行ふは、その博からんことを欲するなり。博ければ則ち助多し。今虎は親しく言ひしものにあらざるなり。而も賞なほこれに及べり。これ疏遠のものの、盡く能く智を竭す所以のものなり。晉の文公の亡せしこと久し。歸りて大亂の餘に因り、なほ能く以て霸たりしは、それ此に由るか。

● 賢者は、善賞を欲すと雖も、苟も還比あらざることをなさざると也。聽かる云々とは、その言よく主に聽かるると雖も、當に忠正を以てし、自ら同り鯛びて以て容を取がる如きことをせざると也 ● 說は、歡の意 ● 賢主は、能く忠臣の言を用ひ、不賢主は能くこれを利益す、故に異なるある也 ● 賢主は、大賞を受け、不賢主は大賞を得るをいふ ● 夫差が子胥を殺みし也。比干は、殷の紂王に殺され、周の武王は、その肥を載せられたるをいふ ● 假は、假のひも ● 天下は、將内也。千乘は、一國也 ● 二八人の人の字は衍かと。率は、歸率にて倉事をつかさどるもの ● 郤は、除也 ● 叔詹は、晉の大夫子詹也 ● 公孫枝は、晉の大夫子桑の父、郤芻也

國使ㇾ子乎。對曰。不也。公曰。然則子事非二子之事一也。秦國僻陋。戎夷事ㇾ服。其任ㇾ人事二其事一。猶ㇾ慣ㇾ爲二諸侯笑一。今子爲ㇾ非二子之事一。退。特ㇾ論二而罪一。公孫枝出。自數二於百里氏一。百里奚請ㇾ之。公曰。此所ㇾ聞二於相國一歟。枝無ㇾ罪奚請焉。有ㇾ罪奚請焉。百里奚令三吏行二其罪一。定二分官一。此古人之所二以爲一ㇾ法也。今繆公將ㇾ伐ㇾ鄢。趙衰言ㇾ所二以勝一ㇾ鄢之術一。文公用ㇾ之。果勝。還。將ㇾ行ㇾ賞。衰曰。君將ㇾ賞二其本一乎。賞二其末一乎。賞二其末一則驕乘者存。賞二其本一則臣閼二之郤子虎一。文公召二郤子虎一曰。衰言三所二以勝一ㇾ鄢。鄢既勝。將ㇾ賞ㇾ之。曰。善。聞二之於子虎一。請賞二子虎一。子虎曰。言ㇾ之易。行ㇾ之難。臣言ㇾ之者也。公曰。子無ㇾ辭。郤子虎不二敢固辭一。乃受矣。凡行ㇾ賞欲二其博一也。博則多ㇾ助。今虎非二親言者一也。而賞猶及ㇾ之。此疏遠者之所二以盡一ㇾ能竭ㇾ智者也。晉文公亡久矣。霸而因二大亂之餘一。猶能以霸。其由ㇾ此歟。

● 相國は、百里奚也 ● 事は、客に會見するつとめにて、上の「子」字衍かといふ ● 聞は、汝也 ● 亡せしこと久しとは、鄢鄢の亂を避けて、秦に在ること十二年、歸國を擁行すること五年、あはせて十七年にして晉國に歸り、大亂の後をうけて、よく霸功を建てしは、みなこの術を用ひしに由ると也

贊能

二に曰く、賢者は人を善みするに人を以てし、中人は事を以てし、不肖者は財を以てす。十良馬を得るは、一伯樂を得るに若かず。十良劍を得るは、一歐冶

人以ㇾ人。中人以ㇾ事。不肖者

以レ財。得二十　萬　馬二不レ若レ得二伯　樂。得二十　良　劒二不レ若レ得二　歐　冶。得二地　千　里二不レ若レ得二　聖　人。舜得二　陶　而　舜　受レ之。湯得二伊　尹一而　有二夏　民一。文　王　得二呂　望一而　服二　殷　商一。夫　得二聖　人一。豈有二里　數一哉。管　子　束　縛　在レ魯。桓　公　欲レ　相二鮑　叔一。鮑　叔　曰。吾　君　欲二霸　王一。則　管　夷　吾　在レ彼。臣　弗レ若　也。桓　公　曰。夷　吾　寡　人之　賊　也。射レ我　者　也。君　若　得　而　臣レ之。則　彼　亦　將二爲レ　君　射レ人。桓　公　不レ聽。強　相二鮑　叔一。固　辭　讓　而　相。桓　公　果　聽レ　之。於レ是　乎。使二人　告レ魯　曰。管　夷　吾　寡　人之　讎　也。願　得レ之　而　親　加レ手　焉。魯　君　許　諾。乃　使下吏　縛二其　拳一。膠二其　口一。盛レ之　以二鴟　夷一。置中之

を得るに若かず。地千里を得るは、一聖人を得るに若かず。舜は皐陶を得て、舜これを受ひ、湯は伊尹を得て、夏民を有し、文王は呂望を得て、殷商を服せり。それ聖人を得る、豈に里數あらんや。管子束縛せられて魯に在り。桓公、鮑叔を相とせんと欲す。鮑叔曰く、「吾が君、霸王たらんと欲せば、則ち管夷吾かれに在り。臣は若かざるなり」と。桓公曰く、「夷吾は寡人の賊なり。われを射しものなり。不可なり」と。鮑叔曰く、「夷吾は、その君の爲に人を射しものなり。君もし得てこれを臣とせば、則ちかれまた將に君の爲に人を射んとせん」と。桓公聽かず。強ひて鮑叔を相とせんとす。鮑叔固く辭讓す。桓公果にこれを聽せり。是に於てか、人をして魯に告げしめて曰く、「管夷吾は寡人の讎なり。願はくはこれを得て、親しく手を加へん」と。魯君許諾す。乃ち吏をしてその拳を縛にし、その目を膠にし、これを盛るに鴟夷を以てし、これを車中に置かしむ。齊境に至る。桓公人をして、朝車を以てこれを迎へしめ、祓ふに爝火を以

てし、釁るに犧豭を以てせり。生きながらこれと國に如る。有司に命じ、廟庭を除し、几してこれに薦めて曰く、「孤の夷吾の言を聞きしよりや、日益〻明に、耳益〻聰なり。孤敢へて專にせず。敢へて以て先君に告ぐ」と。因りて顧みて管子に命じて曰く、「夷吾、予を佐けよ」と。管仲は還走し、再拜稽首し、令を受けて出づ。管子齊國を治め、事を擧ひて功あれば、桓公必ず先づ鮑叔を賞して曰く、「齊國をして管子を得しめしものは、鮑叔なり」と。桓公は、賞を行ふを知ると謂ふべし。およそ賞を行ふには、その本を欲するなり。本なれば則ち過の由りて生ずるなし。孫叔敖沈尹莖相與に友たり。叔敖、郢に遊ぶこと三年、聲問知らず、修行聞かず。沈尹莖、孫叔敖に謂つて曰く、「義を說きて、以て方術信行を聽かしめ、能く人主をして、上、王に至り、下、霸に至らしむるは、われ子に若かざるなり。世に耦し俗に接し、義を說くこと調均、以て主の心に適ふは、子、われに若かざるなり。子は何を以て耕に歸せざるか。われ將に子

車中。至二齊境一。桓公使下人以二朝車一迎之。畀以二煙火一。畢以二雜服一焉。生與レ之如レ國。命二有司一除二廟筵一。几而薦レ之曰。自三孤之聞二夷吾之言一也。目益明。耳益聰。孤弗二敢專一。敢以告二于先君一。因嗣而命二管子一曰。夷吾佐レ予。管仲還走再拜稽首。受レ令而出。管子治二齊國一。擧レ事有レ功。桓公必先

賞二鮑叔一曰。使三齊國得二管子一者。鮑叔也。桓公可レ謂レ知レ行レ賞矣。凡行レ賞欲二其本一也。本則過無出生一矣。孫叔敖。沈尹蒙相與友。叔敖遊二於鄙二三年一。鄙人不レ知。修行不レ聞。沈尹蒙謂二孫叔敖一曰。歿王。下至於鄙。吾我不レ若レ子也。隨レ世換レ俗。設レ教調均。以遊二主心一。子不レ若レ我也。子何以不レ歸レ耕乎。吾將二子游一。沈尹蒙遊二於鄙一二五年。莊王欲三以賞二令尹一。沈尹蒙辭曰。期思之鄙人。有二孫叔敖一者一。智人也。王必用レ之。臣不レ若也。莊王於レ是使下人以二王輿一迎中叔敖上。以爲二令尹一。十二年而莊王

（二）期思＝楚の邑の名

（三）鄙＝郢は、楚の都

（四）孫叔敖を以て隠れしめんと欲する也

（五）智＝智は、知に同じ

（六）朝思＝朝思は

（七）歿＝歿は、没に同じ

（八）調均＝調均は、

（九）設レ教調レ＝設教調は、

（十）期思之鄙人＝期思之鄙人は、

（十一）孫叔敖＝孫叔敖は、

（十二）沈尹蒙＝沈尹蒙は、

（十三）莊王＝莊王は、

（十四）中叔敖＝中叔敖は、

（十五）令尹＝令尹は、

（十六）十二年＝十二年は、

自知

三に曰く、平直を知らんと欲せば、則ち必ず規矩に準縄にし、方圓を知らんと欲せば、則ち必ず規矩にす。人主自ら知らんと欲せば、則ち必ず直士にす。故に天子は、輔弼を立て、師保を設く、過を挙す所以なり。それ人は故より自ら知る能はず。人主は、獨り甚し。存亡安危、外に求むる勿れ。務めて自ら知るに在

の爲めに游ばんとす」と。沈尹蒙辭して曰く、「期思の鄙人に、孫叔敖といふものあり、聖人なり。王必ずこれを用ひよ。臣は若かざるなり」と。荊王是に於て、人をして王輿を以て、叔敖を迎へしめ、以て令尹と爲せり。十二年にして莊王霸たり。これ沈尹蒙の力なり。功は、賢を進むるより大なるはなし。

● 賢者は、人を用ふるに、人の德を以てし、中人は、人の力を以てし、不肖者は、人を使ずるに、人の財賄を以てすと也 ● 伯樂は、能く良馬を相して、これを得んことを欲すれば、則ち良馬を得ること、たゞに十のみにあらざるなり。故に一伯樂を得るに若かずといへるなり ● 歿沒は、良劍工也 ● 受は、用也。夏民を有しは、夏の桀王たりしをいふ。歿而云々とは、歿の紂王の惡に隨ひ、文王の德に歸せしをいふ ● その用を得るの多き、歎ふべからざるかゝ故に、豈に風歌あらんやといへるなり ● 魯のために棄てられしをいふ ● 相は、男の家相也 ● かれは、魯也 ● 管仲を得て、親しく手を下して殺さんを、以て酔となすと也 ● 本文は闕所也、聖文の知くすべし ● 將にしは、その手をかはよくるにつき、むを云ふ ● 歿ふに云々は、その身の不肖をはらひのぞく也。爰は、犧牲を殺して、その血を鬼神の入る隙をふさぐ也。小事には、大戰を用ひざるが故に、覩を屠らし也。取は、をのゝこと ● 即は、至也 ● 施ずは、

り。堯に諫を欲するの鼓あり。舜に誹謗の木あり。湯に司過の士あり。武王に戒慎の詔あり。猶ほ自ら知る能はざるを恐れたり。今賢は堯舜湯武にあらざるなり。而して掩蔽の道あり。奚に繇りて自ら知らんや。荊成・齊莊は、自ら知らずして殺され、吳王・智伯は、自ら知らずして滅び、晉の惠公・趙括は、自ら知らずして死せり。敗は自ら知らざるより大なるは莫し。范氏の亡びしや、百姓の鐘を得しものあり。負ひて走らんと欲すれば、則ち鐘大にして負ふべからず。椎を以てこれを毀てば、鐘況然として音あり。人のこれを聞きて、おのれを奪はんことを恐るゝや、遽にその耳を掩へりと。人のこれを聞くを惡むは可なり。おのれ自らこれを聞くを惡むは悖れり。人主と爲りて、その過非を聞くを惡むは、猶ほ此のごときなり。人の、その過を聞くを惡むは、尚ほ猶ほ可なり。魏の文侯燕飲し、みな諸大夫をして、おのれを論ぜしむ。君の智を言ふ或り。任

而亡。宋中山。不二自知一而滅。晉惠公趙括。不二自知一而誅。曹太子申。不二自知一而死。敗莫レ大二於不二自知一。范氏之亡也。百姓有二得レ鐘者一。欲二負而走一。則鐘大不レ可レ負。以レ椎毀レ之。鐘況然有レ音。恐二人聞レ之而奪一己也。遽掩二其耳一。惡二人聞レ之。可也。惡二己自聞一之。悖矣。爲二人主一而惡レ聞二

座に至る。任座曰く、「君は不肖の君なり。中山を得て、以て君の弟を封ぜず。而も以て君の子を封ず。是を以て君の不肖を知るなり」と。任座趨りて出づ。次に翟黄に及ぶ。翟黄曰く、「君は賢君なり。臣聞く、『その主の賢なるものは、その臣の言直なり』と。今者任座の言直なり。是を以て君の賢を知るなり」と。文侯喜んで曰く、「反るべきか」と。翟黄對へて曰く、「奚爲れぞ不可なる。臣聞く、『忠臣はその忠を畢して、敢へてその死を遠くせず』と。座殆ず尚ほ門に在らん」と。翟黄往きてこれを覩る。任座門に在り。君の令を以てこれを召す。任座入る。文侯、階を下りて之を迎へ、終に座を以て上客と爲す。文侯に翟黄徽りせば、則ち幾ど忠臣を失はん。上は主の心に順ひて、以て賢者を顯すは、それ唯だ翟黄か。

(一) 誹謗の木　政治の誤りを指摘させるために設けた木。
(二) 荊成・齊莊　荊成は楚の荘王、齊莊は齊の荘公。
(三) 范氏の亡びしや　晋の六卿の一人、范吉射が趙鞅に攻められて亡んだ事。
(四) 負ひて走らんと欲すれば　鐘を盗んで逃げようとすれば。
(五) 遽に　あわてて。
(六) 晉の惠公・趙括　晋の惠公は、秦の穆公に捕えられ、趙括は、秦の白起に敗れて死んだ。
(七) 荊成・齊莊　荊成は楚の荘王、齊莊は齊の荘公。
(八) 吳王・智伯　吳王は夫差、智伯は荀瑶。
(九) 晉の惠公・趙括　晋の惠公は、秦の穆公に捕えられ、趙括は、秦の白起に敗れて死んだ。
(一〇) 范氏の亡びしや　晋の六卿の一人、范吉射が趙鞅に攻められて亡んだ事。
(一一) 宋・中山　宋は康王、中山は、齊の湣王に滅ぼされた。
(一二) 鐸遏・寇讎　鐸遏は、古の良弓の名。寇讎は、古の良矢の名。
(一三) 范氏の亡びしや　晋の六卿の一人、范吉射が趙鞅に攻められて亡んだ事。
(一四) 悖れり　道理に背いている。
(一五) 趨りて　小走りに。
(一六) 反るべきか　任座を呼び戻すべきか。
(一七) 畢して　尽して。
(一八) 殆ず　恐らく。
(一九) 徽りせば　もしいなかったら。

● 準は、平をはかり、縄は直、矩は方をはかるもの　● 直士は、主に直言をすゝむる士　● 縄は、正也　● 故は固に通ず、或は固の誤か　● 本文に縮其とあるは、縄墨の誤　● みな、おのれに在りと也　● 諫めんと欲するもの、その鼓を撃つ也　● その過失を書して、以て木に掲ぐる也　● 司は、主也。主は、正

其過非一猶レ此也。惡三人聞二其過一而猶可。魏文侯燕飲。皆令二諸大夫論一レ己。或レ言二君之智一也。至二於任座一座曰。君不レ肖君也。得二中山一不三以封二君之弟一而以封二君之子一。是以知二君之不レ肖一也。文侯不レ說。知二於顏色一。任座趨而出。次及翟黃。翟黃曰。君賢君也。臣聞。其主賢者。其臣之言直。今者任座之言直。是以知二君之賢一也。文侯喜曰。可レ反歟。翟黃對曰。奚爲不可。臣聞。忠臣擧二其死一。座殆尚在二於門一。翟黃往視レ之。任座在二於門一。以二君令一召レ之。任座入。文侯下レ階而迎レ之。終座以爲二上客一。文侯數二翟黃一。則幾失二忠臣一矣。上順二乎主心一。以顯二賢者一。其唯翟黃乎。

當賞

四曰。民無レ道知レ天。民以二四時寒暑。日月星辰之行一知レ天。四時寒暑。日月星辰之行當。則諸生有二以氣一之類。皆爲下得二其處一而安中其產上。人臣亦無レ道知レ主。人臣以二賞罰爵祿之所一レ加知レ主。主之賞罰爵祿之所レ加者宜。則親疏遠近賢不肖。皆盡二其力一而以爲レ用矣。晉文公反レ

四に曰く、民は道無くして天を知る。四時寒暑、日月星辰の行を以て天を知る。四時寒暑、日月星辰の行當れば、則ち諸生、血氣あるの類、みなその處を得て、その產を安んずるを爲す。人臣もまた道なくして主を知る。人臣は、賞罰爵祿の加はるところを以て主を知る。主の賞罰爵祿の加はるところのもの宜しければ、則ち親疏遠近賢不肖、みなその力を盡して以て用を爲す。晉の文公國に反り、亡に從ひしものを賞して、陶狐與らず。左右曰く、「君、國家に反り、爵祿三たび出でて、陶狐與らず。敢へてその說を問ふ」と。文公曰く、「われを輔くるに義を以てし、われを導くに禮を以てするものは、われ以て上賞と爲し、われに教ふるに善を以てし、われを彊うするに賢を以てするものは、われ以て次賞と爲し、わが欲するところに拂り、數々わが過を舉せるものは、われ以て末賞と爲せり。三つのもの、有功の臣を賞する所以なり。もし唐國の勞徒を賞せば、則ち陶狐將に首たらんとす」と。周の內史與これを聞きて曰く、「晉公はそ

國。賞二從レ亡者一。而陶狐不レ與。左右曰。君反二國家一。爵祿三出。而陶狐不レ與。敢問二其說一。文公曰。夫レ我以レ義。導レ我以レ禮者。吾以爲二次上賞一。數レ我以レ善。彊レ我以レ賢者。吾以爲二次賞一。拂二吾所レ欲。數擧二吾過一者。吾以爲二末賞一。三者所三以賞二有功之臣一也。若賞二唐國之勞徒一。則陶狐將レ篤レ首矣。周

れ霸たらんか。昔者聖王は、德を先にして力を後にせり。晉公はそれこれに當る」と。秦の小主夫人、奄變を用ふ。羣賢說ばずして自ら匿れ、百姓鬱怨、上を非る。公子連、亡げて魏に在り。これを聞き入らんと欲す。因りて羣臣と民と、鄭所の塞よりす。右主然塞を守る。入れず。曰く、「臣は義の兩主ならざるあり。公子勉めて去れ」と。公子連去る。翟に入る、焉氏の塞よりす。菌改これを入る。夫人これを聞きて大に驚き、吏をして、卒を興し命を奉ぜしめて曰く、「寇、邊に在り」と。卒と吏とその始め發くや、みな曰く、「往きて寇を擊たん」と。中道にして因りて變じて曰く、「寇を擊つにあらざるなり。主君を迎ふるなり」と。公子連因りて卒と俱に來りて雍に至る。夫人を圍む。夫人自殺す。公子連立つ、これを獻公と爲す。右主然を怨みて、將に重くこれを罪せんとし、菌改を德として、厚くこれを賞せんと欲す。監突これを爭ひて曰く、「不可なり。秦の公子の外に在るもの衆し。此の若くば、則ち人臣爭ひて亡公子を入れん。これ主に便なら

内史興聞之曰。晉公其斃乎。昔者聖王先レ德而後レ力。晉公其賞之矣。衆小主夫人用二奄變一。羣賢不レ說自匿。百姓鬱怨非レ上。公子連亡在レ魏。聞レ之欲レ入。因罪臣與レ民。從二鄭所之塞一。右主然守レ塞。弗レ入。曰。臣有三義不二兩主一。公子勉去矣。公子連去。入レ翟從二焉氏塞一。菌改入レ之。夫

ず」と。獻公以て然りと爲す。故に右主然の罪を復して、菌改に官大夫を賜ひ、守塞の者に人に米二十石を賜ふ。獻公は能く賞罰を用ふと謂ふべし。およそ賞は以てこれを愛するにあらざるなり。罰は以てこれを惡むにあらざるなり。用て歸を觀るなり。歸するところ善なれば、惡むと雖もこれ賞し、歸するところ不善なれば、愛すと雖もこれ罰す。これ先王の亂を治め危を安んずる所以なり。

㊀ 以は、用也　㊁ 義は、生也、設生するをいふ　㊂ 主は、君也　㊃ 加は、施也　㊄ 宜は、當也、よくあてはまる也。用を爲すは、君の用をなすと也　㊅ 與ちずは、賞のこれに及ばざりしをいふ　㊆ その意を知らんと欲する也　㊇ 厝圄は、昏冏なり。勞徒は、勤勞の徒にて、則ち陶狐をさす。故に三賞の中に與ちずと也　㊈ 内史興は、周の大夫なり　㊉ 斃るとは、德を先にして力を後にせしをいふ　㊊ 小主は、衆君なり。衆の厲公の曾孫にして、惠公の子なり。その夫人奄を嬖を用ひて惡亂をなしをいふ　㊋ 公子連、一名元、衆の厲公の曾孫　㊌ 右主然は、衆の守塞の吏也　㊍ 公子連を魏より入るれば、則ち厲公の子なり。小主と、從父昆弟たり　㊎ 菌改もまた守塞の吏なり。これを入るは、公子連をいふ　㊏ 殆は、衆の部也　㊐ 主君は、公子連をいふ　㊑ 義みは、その人也。義は、宜也　㊒ 主は、君也　㊓ 殺は、行也　㊔ かくの如きことをせば、諸臣爭ひて亡公子を入れん。亡公子入るを得ばのれを遠より入れざりしを怨む也　㊕

人聞之大駭。令二吏與一レ卒奉一レ命曰。寇在レ邊。卒與レ吏其始發也。皆曰。往擊レ寇。中道因變曰。非レ擊レ寇也。迎二主君一也。公子連因與レ卒俱來至レ廱。圍二夫人一。夫人自殺。公子連立。是爲二獻公一。獻公怨二右主然一。而將二重罪一之。臣二請改一。而欲二厚賞一之。監突爭レ之曰。不可。秦公子之在レ外者衆。若レ此。則人臣爭入二亡公子一矣。此不レ便レ主。獻公以爲レ然。故復二右主然之罪一。而賜二請改官大夫一。賜二守塞者人米二十石一。獻公可レ謂二能用一賞罰一矣。凡賞非二以愛一レ之也。罰非二以惡一レ之也。用レ親レ疎也。所レ賞者。善。非レ惡之賞。所レ罰不善。雖レ愛之罰。此先王之所二以治一レ亂安一レ危也。

則ち其たるを爭み。故に便ならずといふ也　■は、反也、その罰を反して、また歸せざるをいふ。官大夫は、秦の爵の名

博志

五曰。先王有二大務一。去二其害一之者。故所レ欲以必得。所レ惡以必除。此功名之所二以立一也。俗主則不レ然。有二大務一而不レ能レ去二其害一之者。此所二以無一レ成也。夫去レ害レ務。與レ不レ能レ去レ害レ務。此賢不肖之所以分一也。使二韓疾走一。馬弗レ及。至二已而得一者。其時願也。願一日千里。車輕也。以二重載一則不レ能二數里一。任重也。賢者之舉レ事也。不レ開レ無レ功。然而名不二大立一。利不レ及レ世者。愚

五に曰く、先王大務あり。そのこれを害する者を去る。故に欲するところ以て必ず得、惡むところ以て必ず除かる。これ功名の立る所以なり。俗主は則ち然らず。大務ありて、そのこれを害するものを去る能はず。これ能く成す無き所以なり。それ務を害するを去ると、務を害するを去る能はざるとは、これ賢不肖の分

る〻所以なり。韓をして疾く走らしめば、馬及ばず。已にして得らる〻に至るものは其時に願みればなり。願の一日千里なるは、車輕ければなり。重載を以てすれば、則ち數里なる能はず。任重ければなり。賢者の事を擧ぐるや、功なきを聞かず。然して名大に立たず、利の世に及はざるものは、愚不肖これが任を爲せばなり。冬と夏と兩つながら刑す能はず。草と稼と兩つながら成す能はず。新穀熟して陳穀虧く。およそ角あるものは上齒なく、果實繁きものは、木必ず庳し。智を用ふること褊なるもの、功を遂すなきは天の數なり。故に天子は全に處らず、極に處らず、盈に處らず。全なれば則ち必ず缺け、極なれば則ち必ず虧く。先王、物の兩大なるべからざるを知る。故に務の當るを擇んでこれに處る。孔・墨・胥越は、みな布衣の士なり。天下に慮りて、以爲へらく、先王の術に若くものなしと。故に日夜これを學び、學に便なるものあれば、爲さざるなきなり。學に便ならざるものあれば、肯へて爲すなきなり。蓋し

不肖爲二之任一也。冬與レ夏。不レ能二兩成一。草與レ穀。不レ能二兩成一。新穀熟而陳穀虧。凡有レ角者無二上齒一。果實繁者木必瘠。用レ智褊者無レ遂レ功。天之數也。故天子不レ處レ全。不レ處レ極。不レ處レ盈。全則必缺。極則必反。盈則必虧。先王知二物之不一可二兩大一。故擧二務當一而處レ之。孔墨寧越。皆布衣之

聞く、「孔丘・墨翟は、晝は日ゝ誦誦して業を習ひ、夜は親しく文王・周公旦に見えて問へり」と。志を用ふること此の如くそれ精なり。何事にしてか達せざらん。何を爲してか成らざらん。故に曰く、「精にしてこれを熟すれば、鬼將にこれに告げんとす」と。鬼のこれに告ぐるにあらざるなり。精にしてこれに熟するなり。今こゝに寶劍良馬あり。これを玩びて厭かず、これを視て倦むなし。實行良道、一にして復せず。身の安く、名の章るゝを欲す。また難からずや。寧越は中牟の鄙人なり。耕稼の勞に苦み、その友に謂つて曰く、「何を爲して以てこの苦を免るべき」と。その友曰く、「學ぶに如くは莫し。學ぶこと三十歲なれば、則ち以て達すべし」と。寧越曰く、「請ふ、十五歲を以てせん。人は將に休せんとす。われは將に敢へて休せざらんとす。人は將に臥せんとす。われは將に敢へて臥せざらんとす」と。十五歲にして、周の威公これを師とせり。矢の速かなるや、而も二里を過ぎずして止るなり。步の遲きや、而も百舍にして止らざるなり。

士也。慮二於天下一。以爲無レ若二先王之術一者。故日夜學レ之。有レ便二於學一者。無レ不レ爲也。有レ不レ便二於學一者。無二肯爲一也。豈聞孔丘墨翟。晝日誦誦習レ業。夜親見二文王周公旦一而問焉。用レ志如レ此其精也。何事而不レ達。何爲而不レ成。故曰。精而熟レ之。鬼將レ告レ之也。精而熟レ之也。今寧越の材を以てして、久しくして止まず、その諸侯の師となる、豈に宜ならずや。養由基・尹儒は、みな文藝の人なり。荊廷に嘗て神白猿あり。荊の射を善くするもの、これに能く中つるなし。荊王、養由基にこれを射んことを請ふ。養由基、弓を矯め矢を操りて往き、未だこれを射ずして、括これに中る。これを發すれば、則ち猨、矢に應じて下る。則ち養由基は、中たるに先だちてこれに中つるものあり、尹儒、御を學ぶ。三年にして得ず。これを苦み痛む。夜夢に秋胡を見る。その師より受く。明日往きて朝す。その師望みてこれに謂ひて曰く、「われ道を愛むにあらざるなり。子の未だ與ふべからざるを恐れしなり。今日將に子に教ふるに秋胡を以てせんとす」と。尹儒反り走り、北面再拜して曰く、「今昔臣夢にこれを受けたり」と。まづその師の爲に夢みしところを言ふ。夢みしところ、固に秋胡のみ。上の二工は、能く學べりと謂ふべし。これを害する無しと謂ふべし。これその後世に觀す所以のみ。

有(レ)實二劒良三萬於此一。玩レ之不レ厭。觀レ之無レ倦。實行其道。一而弗レ復。欲二身之安也一。名之章二也一。不二亦難一乎一。寧越中牟之鄙人也。苦二耕稼之勞一。謂二其友一曰。何爲而可三以免二此苦一也。其友曰。莫レ如レ學。學三十歲一。則可二以趨一矣。寧越曰。請以二十五歲一。人將レ休。吾將レ不二敢休一。人將レ臥。吾將レ不二敢臥一。十五歲而周威公師レ之。矢之速也。而不レ過二三里一。止也。步之遲也。而百舍不レ止也。今以二寧越之材一。而久不レ止。其爲二諸侯師一。豈不レ宜哉。養由基。尹儒。皆文藝之人也。荊延皆有二神白猨一。荊之善レ射者。其二之能中一。荊王請二養由基射一之。養由基嬰レ弓操レ矢而往。未二之射一。而括中レ之矣。發レ之則猨廬レ矢而下。則養由基有二先レ中中レ之者一矣。尹儒學レ御。三年而不レ得焉。苦二痛之一。夜夢受二秋駕於其師一。明日往朝。其師望而謂レ之曰。吾非レ愛レ道也。恐二子之未一レ可レ與也。今日將三教レ子以二秋駕一。尹儒反走。北面再拜曰。今昔臣夢受レ之矣。先爲二其師一言レ所レ夢。所レ夢固秋駕已。上二工者一。可レ謂二能學一矣。可レ謂レ無レ害レ之矣。此其所三以觀二後世一已。

(一) 立は、成也　(二) 獐は、しか、鹿の種類　(三) か、りみてその行をかんがみるが故に遂に得ちるゝなり　(四) 任は、職也。のせもの　(五) 愚不肖の人の、政事にあたるが故に、その君をして賢名立たず、祖利の後世子孫に及ばざらしむと也　(六) 刑は、型は成といふに同じ　(七) もよを物は、雨つながら大なるなきが故に、角をいたゞくものは、上齒なく、果實の繁きものは、木これがためにひくしと也　(八) 逐は、成也　(九) 孔圖は、孔子と圖殺と也。　(一〇) 夜は云々とは、夜は則ち夢に文王・周公を見て、その道を問ひきと也　(一一) 猨は、猿猴なる也　(一二) 日に趨ぶところに猨なれば、終に鬼神の域に遠す。故にしかいへる也　(一三) 威公は、西周の君なり。これを師とせりとは、寧越を以て師となしをいふ　(一四) 秋駕は、御法の名　(一五) 二工は、寧越と尹儒と也　(一六) 覩は、示也

貴當

六に曰く、名號の大に顯るゝは、彊ひて求むべからず。必ずその道に緣る。物を治むるものは、物に於てせずして人に於てし、人を治むるものは、事に於てせずして君に於てし、君を治むるものは、天子に於てせずして欲に於てし、欲を治むるものは、欲に於てせずして性に於てす。性は萬物の本なり。長うすべからず、短うすべからず。その固に然るに因りて、これを然りとす。これ天地の數なり。赤肉を窺ひて烏鳶聚り、鞉、堂に處りて衆鼠散じ、衰絰陳りて、民、喪を知り、竽瑟陳りて、民、樂を知り、湯武その行を修めて天下從ひ、桀紂その行を慢にして天下畔く。豈にその言を待たんや。君子はおのれに在るものを審かにするのみ。荊に善く人を相するものあり。言ふところ遺策なし。國に聞ゆ。莊王見て問ふ。對へて曰く、「臣は能

(一) 貴當は、篇名　(二) 緣は、成也　(三) 衰絰は、喪服　(四) 遺策は、書名

之數也。窺二赤肉一而鳥鳶聚。鯉處レ堂而衆鼠飲。衰經陳而民知レ喪。竽瑟陳而民知レ樂。湯武修二其行一而天下畤。豈待二其言一哉。君子審二在レ己者一而已矣。荊有二善相レ人者一。所レ言無二遺策一。聞二於國一。莊王見而問焉。對曰。臣非二能相一レ人也。能觀二人之友一也。觀二布衣一

く人を相するにあらざるなり。能く人の友を觀るなり。布衣を觀るや、その友みな孝悌純謹令を畏る、此の如きものは、その家必ず日に益し、身必ず日に榮ゆ。所謂吉人なり。君に事ふるものを觀るや、その友みな誠信、行の善を好むあり、此の如きものは、君に事へて日に益し、官職日に進む。これいはゆる吉臣なり。人主を觀るや、その朝臣に賢多く、左右に忠多く、主に失あれば、みな交〻爭ひて証諫す、此の如きものは、國日に安く、主日に尊く、天下日に服す。これいはゆる吉主なり。臣は能く人を相するにあらざるなり。能く人の友を觀るなり」と。莊王これを善しとす。是に於て疾く士を收め、日夜懈らず。遂に天下に霸たり。故に賢主の時に文藝の人を見るや、特りこれを具ふるのみにあらざるなり。大務を就す所以なり。それ事大小となく、固に相與に通ず。田獵馳騁、弋射走狗、賢者爲さざるにあらさるなり。これを爲して智日に得、不肖主これを爲して智日に惑ふ。志に曰く、「驕惑の事、亡びずして奚をか待たん」と。齊人に獵を好むものあ

也。其友皆孝悌純謹長レ令。如レ此者其家必日益。身必日榮矣。所レ謂吉人也。觀二事レ君者一也。其友皆誠信。有二行好レ善。如レ此者事レ君日益。官職日進。此所レ謂吉臣也。觀二人主一也。其朝臣多レ賢。左右多レ忠。主有レ失。皆交爭証諫。如レ此者國日安。主日尊。天下日服。此所レ謂吉主也。臣

り。日を曠しうし久しきを持して、獸を得ず。入れば則ちその家室に媿ぢ、出づれば則ちその知友州里に媿づ。惟だそのこれを得ざる所以の故は、則ち狗の惡しかりしなり。良狗を得んと欲すれば、則ち家貧しうして以てするなし。是に於て還りて疾く耕せり。疾く耕せば則ち家富み、家富めば則ち以て良狗を求むるあり。狗良ければ則ち數〻獸を得、田獵の獲常に人に過ぎたり。獨り獵のみにあらざるなり。百事盡く然り。霸王、まづ耕さざるありて霸王を成すもの、古今有るなし。これ賢者不肖の殊なる所以なり。賢不肖の欲するところは、人と同じ。堯・桀・跖・厲みな然り。これを爲す所以は異なり。故に賢主はこれを察し、以て爲さざるべからざるを爲す。以て可と爲すが故にこれを爲す。必ずその道に繇る。物のこれを能く害するなし。これ功の相萬する所以なり。

㊀蹙は、用也　㊁君は、諸侯也。欲は、貪欲なり。貪欲ならずんば、則ち天子安得なりと也　㊂要は、幾暇、經は、要領の上下につくるひも。湯武云〻とは、その仁義の行を修むるが故に、天下これに順從すと也。慢は、易也。かろんずる也　㊃遺は、失也、あやまつ也　㊄因人のこれを聞き傳へしをいふ　㊅衰は、喪也　㊆吉

非二能相一レ人也。能親二人之友一也。莊王善レ之。

於レ是疾收レ士。日夜不レ懈。遂霸二天下一。故賢主之時見二文藝之人一也。非二特具レ之而已一也。所三以就二大務一也。夫事無二大小一。固相與通。田獵馳騁。弋射走狗。賢者非レ不レ爲也。爲レ之而智日得焉。不肖主爲レ之而智日惑焉。志曰。驕惑之事。不レ亡奚待。齊人有二好レ獵者一。曠レ日持レ久。而不レ得レ獸。入則媿二其家室一。出則媿二其知友州里一。惟其所三以不レ得レ之故一。則狗惡也。欲レ得二良狗一。則家貧無レ以。於レ是還疾耕。疾耕則家實。家富則有三以求二良狗一。狗良則數得レ獸矣。田獵之獲。常過レ人矣。非二獨獵一也。百事也盡然。霸王有レ不二先耕一而成二霸王一者。古今無レ有。此賢者不肖之所三以殊一也。賢爲レ之。爲レ之之異。故賢主察レ之。以爲不レ可レ弗レ爲。以爲可故必歸二其道一。物莫二之能害一。此功之所三以相萬一也。

は、勝也　●眼すとは、その郷に眼せりと也　就は、成也　志は、古記錄也　以てするなしとは、以て良狗を買ふによしなしと也　人に過ぎたりは、他の人よりも多しと也　萬は、倍也

一曰。事多似レ倒而順。多似レ順而倒。有レ知二順之爲レ倒。倒之爲レ順者一。則可二與言一レ化矣。

卷第二十五

似順論第五

似順論

一に曰く、事は多く倒に似て順、多く順に似て倒なり。順の倒たり、倒の順たるものを知るあらば、則ち與に化を言ふべし。至長の短に反り、至短の長に反るは、天の道なり。荊の莊王、陳を伐たんと欲す。人をしてこれを視しむ。使者曰く、「陳は伐つべからざるなり」と。莊王曰く、「何の故ぞ」と。對へて曰く、「城郭高く、溝洫深く、蓄積多ければなり」と。寧國曰く、「陳は伐つべきなり。それ陳は小國なり。而も蓄積多く、賦斂重ければ、則ち民上を怨む。城郭高く、溝洫深ければ、則ち民力罷る。兵を興してこれを伐たば、陳、取るべきなり」と。莊王これを聽し、遂に陳を取れり。田成子の、國を有して今に至るを得る所

封曰。城郭高。溝池深。蓄積多也。寧國曰。陣可レ伐也。夫陣小國也。而蓄積多。賦斂重也。則民怨レ上矣。城郭高。溝池深。則民力罷矣。興レ兵伐レ之。陣可レ取也。莊王聽レ之。遂取レ陳焉。田成子之所三以得二有レ國至レ今者一。有三兄曰二完子一。仁且有レ勇。越人興レ師。誅二田成子一曰。奚故殺レ君而取レ以のものは、兄に完子と曰ふあり。仁にしてかつ勇あり。越人、師を興し、田成子を誅せんとして曰く、「奚の故に君を殺して國を取る」と。田成子これを患ふ。完子、士大夫を率ゐて以て越師を逆へんことを請ひ、必ず戰はんことを請ひ、戰へば必ず敗れんことを請ひ、敗るれば必ず死せんことを請ふ。田成子曰く、「それ必ず越と戰ふは可なり。戰へば必ず敗れ、敗るれば必ず死するは、寡人疑ふ」と。完子曰く、「君の國を有するや、百姓上を怨み、賢良またこれに死するあり、臣は恥を蒙れり。完を以てこれを觀るに、國已に懼る。今越人、師を起して、臣これと戰ひ、戰ひて敗れ、賢良盡く死し、死せざるものは、敢へて國に入らず。君と諸孤と國に處る。臣を以てこれを觀るに、國必ず安からん」と。田成子泣きてこれを遣れり。それ死敗は人の惡むところなり。而も反つて以て安しと爲す、豈に一道ならんや。故に人主の聽くものと、士の學ぶものとは、博からざるべからず。尹鐸、晉陽を爲む。下らんとして趙簡子に請ふあり。簡子曰く、「往きてかの壘を夷かにせよ。われ將に往かんとす。往きて壘を見るは、これ中行寅と范吉射とを見るなり」と。鐸往きてこれを增す。簡子上りて晉陽に之き、望んで壘を見て怒りて曰く、「譆、鐸やわれを欺けり」と。是に於て乃ち郊に舍し、將に人をして鐸を誅せしめんとす。孫明進みて諫めて曰く、「臣を以てこれを私ふに、鐸は賞すべきなり。鐸の言固より曰く、『樂を見れば則ち淫修し、憂を見れば則ち諍治す、これ人の道なり。今君、壘を見て憂患を念ふ、而るを況んや羣臣と民とをや。それ國を便して主に利あらば、罪を棄ぬと雖も、鐸はこれを爲さん』と。それ令に順ひて以て容を取るものは、衆これを能くす。而るを況んや鐸をや。君それこれを圖れ」と。簡子曰く、「子の言徵りせば、寡人は幾ど過たん」と。是に於て乃ち難を免れし賞を以て、尹鐸を賞更ふ。未だ大賢に至らずと雖も、猶ほ以て濁世を蓋ふに足る。簡子はこれに當

國。田成子患レ之。完子請下率二士大夫一以逆中越師上。請二必戰一。戰請二必敗一。敗請二必死一。田成子曰。夫必與レ越戰可也。戰必敗。敗必死。寡人疑焉。完子曰。君之有レ國也。百姓怨レ上。賢良又有レ死レ之。臣蒙レ恥。以レ完觀レ之也。國已懼矣。今越人起レ師。臣與レ之戰。戰而敗。賢良盡死。不レ死者不三敢

れり。世の主たるものの患は、知らざるを恥ぢて、矜りて自ら用ひ、過に悛むるを好みて、諫を聽くを惡み、以て危きに至る。恥は危きより大なるものなし。

(一) 倒は、逆也　(二) 化は、道也　(三) 脩めて長きものは、短きにかへり、脩めて短きものは、長きにかへるは、天道の盈縮の理なりと也　(四) 莊王は、楚の穆王の子也　(五) 掌國は、楚の臣也　(六) 田成子は、田常也。國を有しては、國を有せしをいふ也　(七) 君を殺し云々は、齊の簡公を殺して、その國を取りしをいふ　(八) 寡人疑ふは、その死するを欲せざるをいへるなり　(九) 聽くことと博ければ則ち義に達し、義ぶことと博ければ道に達するをいへる也　(一〇) 晉陽は、その領地。晉は治也　(一一) 明は、平也。中行文子と范吉射一也。鄒往而增之。簡子上之二晉陽一。望見レ壘而怒曰。是乃舍二於郊一。將レ使二人誅一レ鄒也。孫明遮諫曰。以レ臣私レ之。鄒可レ賞也。鄒之言固是。今君見レ壘念二憂患一。而況羣臣與レ民乎。夫倾レ國而利二於主一。雖レ衆二於罪一。鄒爲レ之。夫順レ令以取レ容者。衆能レ之。而況鄒歟。君其圖レ之。簡子曰。微子之言、吾人幾過。於レ是乃以二免レ鄒之賞一賞二尹鄒一。人主之患。恥レ不レ知而矜自用。好レ悛レ過而惡レ諫。以至二於危一。恥無レ大二乎危一者。

(一二) 尹鄒は、趙簡子の宗臣にて、晉陽につくるところの壘壁堙墟なり。簡子これを見るを欲せざるを知りて、尹鄒をしてこれを平除せしめんとせしなり　(一三) 孫明は、趙簡子の臣なる孫鐵政鄒良也。私は、憎也　(一四) 容は、說也、よろこばる、をいふ　(一五) これを聞れは、これを聞れたと也　(一六) 過は、失也　(一七) 太上は、上德の君也　(一八) 更は、革也、あらたむる也。改ちて悛革して危亡の途にしたがはざる。未だ大賢に至らざるといへども、なほ以て羣臣賓客の人を益すに足ると也　(一九) 簡子の行の、これと相違すと也　(二〇) 危殆すれば、滅亡するが故也

二曰。知レ不レ知上矣。過者之患。不レ知而自以爲レ知。物多類。然而不レ然。故亡レ國僇レ民無レ已。夫草有レ莘有レ蒿。獨食レ之。則殺レ人。合而食レ之。則益レ壽。萬童不レ殺。漆淖水淖。合二兩淖一則爲レ麋。

別類

二に曰く、知らざるを知るは上なり。過つものの患は、知らずして自ら以て知ると爲すなり。物は多く類し、然りてむなし。それ草に莘あり、蒿あり。獨りこれを食へば、則ち人を殺し、合してこれを食へば、則ち壽を爲し、これを腥せば、則ち乾を爲す。萬童は殺さず。漆淖水淖、兩淖を合すれば、則ち麋を爲す。金は柔にして錫は柔なり。兩柔を合すれば、則ち剛を爲し、これを燔けば、則ち淖を爲す。或は腥して乾し、或は燔きて淖す。類は固に、必ずしも推知すべからず。小方は大方の類なり。小馬は大馬の類なり。小智は大智の類にあらざるなり。魯人に公孫綽といふものあり。人に

(一) 莘は、細辛也　(二) 蒿は、青蒿也　(三) 萬童は、蟲の名也　(四) 漆淖水淖は、二水の名也　(五) 類は、猶レ似也　(六) 小智は、小知也

壓レ之則爲レ乾。金柔錫柔。合二兩柔一則爲レ剛。燔レ之則爲レ淖。或壓而乾。或燔而淖。類固不三必可二推知一也。小方大方之類也。小馬大馬之類也。小智非二大智之類一也。譬人有二公孫綽者一。告レ人曰。我能起二死人一。人問二其故一。對曰。我固能治二偏枯一。今吾偕所三以爲二偏枯之藥一。則可三以起二死人一矣。物固有下可二以爲一レ小。不レ可二以爲一レ大。可二以爲一レ中。不レ可二以爲一レ全者上也。招レ劒者曰。白所二以爲一レ韌也。黃所二以爲一レ堅也。黃白雜則堅且韌。良劒也。雖者曰。白所二以爲一不レ韌也。黃所二以爲一不レ堅也。黃白雜。則不レ堅。且不レ切也。又柔則銑。堅則折。劒折且銑。瑣得レ爲二利劒一。劒之情未レ革。而

告けて曰く、「われ能く死人を起しむ」と。人その故を問ふ。對へて曰く、「われ固に能く偏枯を治む。今われ偏枯の藥を爲る所以を倍せば、則ち以て死人を起しむべし」と。物は固に以て小を爲すべくして、以て大を爲すべからざるものあり。以て全を爲すべくして、以て全を爲すべからざるものあり。劒を相るもの曰く、「白は堅を爲す所以なり。黃は韌を爲す所以なり。黃白雜れば、則ち堅かつ韌にして、良劒なり」と。難ずるもの曰く、「白は韌ならざるを爲す所以なり。黃は堅ならざるを爲す所以なり。黃白雜れば、則ち堅ならずかつ韌ならざるなり。また柔なれば則ち銑り、堅なれば則ち折る。劒の折れかつ銑るは、焉ぞ利劒たるを得ん」と。劒の情未だ革めず。而も或は以て良と爲し、或は以て惡と爲す、說のこれを使むるなり。故に聰明を以て說を聽くあれば、則ち妄りに說くもの止み、聰明を以て說を聽く無ければ、則ち堯桀別なし。これ忠臣の患ふる所にして、賢者の廢てらるゝ所以なり。義の小なる、これを爲せば、則ち小しく禍あり、大

なる、これを爲せば、則ち大に禍あり。禍に於ては則ち然らず。小なりともこれ有るは、その亡きに若かざるなり。招を射るものは、その中ることの小ならんことを欲するなり。獸を射るものは、その中ることの大ならんを欲するなり。物は固より必せず。安ぞ推すべき。高陽應將に室を爲らんとす。家匠對へて曰く、「未だ可ならざるなり。木なほ生し。塗をその上に加へば、必ず將に撓まんとせん。生しきを以て室を爲る、今は善しと雖も、後將に必ず敗れんとせん」と。高陽應曰く、「子の言に緣れば、則ち室は敗れざるなり。木のます〳〵枯るれば則ち勁く、塗のますます〳〵乾けば則ち輕し。ますます〳〵勁きを以て、ますます輕きに任へば、則ち敗れず」と。匠人辭して對ふるなく、令を受けてこれを爲れり。室の始めて成るや善かりき。その後果して敗れたり。高陽應は、小察を好みて大理に通ぜざるなり。驥驪綠耳、日に背き西に走り、夕に至れば、則ち日その前に在り。目は固に見ざるあるなり。智は固に知らざるあるなり。數は固

或以爲レ良。或以爲レ惡。說使レ之也。故有下以二聽明一聽也說上。則妄說者止。無下以二聽明一聽也說上。則竟禁無レ別矣。此患臣之所レ患也。賢者之所二以廢一也。義小爲レ之。則小有レ福。大爲レ之。則大有レ福。大爲レ之。則於レ福則不レ然。小有レ之。不レ若二其亡一也。射レ招者。欲二其中一小一也。物固不レ必。安可レ推也。高陽應。將レ爲レ室。家匠對曰。未レ可也。木尙生。加二塗其上一。必將レ撓。以レ生爲レ室。今雖レ善後將二必敗一。高陽應曰。諾。子之言。則室不レ敗也。木益枯則勁。塗益乾則輕。以二益勁一任二益輕一。則不レ敗。匠人無二辭而對一。愛レ令而爲レ之。室之始成也善。其後果敗。高陽應好二小察一而不レ通二乎大理一也。騶駭綠耳。背レ日而西走。至乎夕。則日在二其前一矣。日固有レ不レ見也。智固有レ不レ知也。數固有レ不レ及也。不レ知二其說所一以然一に及ばざるあるなり。その說の然る所以を知らずして然り。聖人の因りて制を興すや、心を事とせず。

● これを合して食へば、よく人の病を癒すが故に、藥を益すといへる也　● 藥は、昌蒲にて、菖蒲なれど、萬病は則ち殺す能はずと也。萬藥は、詳ならず　● 寒は、風也。卽ち、漆・水雨淋を合すれば、强くして堅しと也　● 火さかんなれば、金溶るゝが故に、槖を益すといへる也　● 漆は、濕を得て乾燥し、金は、燔に遇ひて流淖するは、みなその類にあらざるが故に、推知すべからずといへる也　● 大智は、人の知らざるところを知り、一隅を見て三隅を知る。然るに小智は、十を聞きてその一に通ずるのみなるが故に、大智の類にあらずといへる也　● 半分をよくするもの半ばしも全部をよくすべからず　● 兩端別なしとは、偏枯は、半身不隨をなはす謂也　● 半分をよくするもの半ばしも全部をよくすべからず　● 兩端別なしとは、賢不肖を知ること能はざるが故也　● 騶は、徒小なりと雖も、小を積んで大を成し、以て身を危うし國を亡すが故也　● 招は、的也　● 高陽は、宋の邑なり。因りて以て氏となせる也。應は、名也　● 日を背にしてとし〳〵と西に走るに、夕方になれば、いつか日は我が前に在りと也。古註牡丹、今宜を以て解す

面然。聖人因而興レ制。不レ事レ心焉。

三曰。賢主有レ度而聽。故不レ過。有レ度而以聽。則不レ可レ欺矣。不レ可レ惶矣。不レ可レ恐矣。不レ可レ喜矣。以二凡人之知一。不レ昏二乎其所一レ已知一。而昏二乎其所一レ未レ知。則人之易レ欺矣。可レ惶矣。可レ恐矣。可レ喜矣。知之不レ審也。審有レ問二

有度

三に曰く、賢主は度ありて聽く、故に過たず。度ありて以て聽くときは、則ち欺るべからず、惶つべからず、恐るべからず、喜ぶべからず。凡人の知を以てすれば、その已に知るところに昏からずして、その未だ知らざるところに昏し。則ち人の欺り易く、惶つべく、恐るべく、喜ぶべし。知の審ならざるなり。容の季子に問ふあり。曰く、「奚を以て舜の能を知りしか」と。季子曰く、「奚は固に已に天下を治めたり。舜は天下を治むるを言ひて、おのれの符を合せり。これを以てその能を知れり」と。「もしこれを知ると雖も、奚に道りてその私を爲さざるを知りしか」と。季子曰く、「諸能く天下を治むるものは、固に必ず性命の情に通ずるものなり。當に私なかるべし」と。夏は裘を衣ず、裘を愛むにあ

季子曰。奚以知二舜之能一也。季子曰。堯固已治二天下一矣。舜亦レ治二天下一矣。而合二己之符一。是以知二其能一也。若レ雖レ知レ之。奚道知二其不レ爲レ私。季子曰。諸能治二天下一者。固必通二乎性命之情一者。當レ無レ私矣。夏不レ衣レ衣。非レ愛レ裘也。暖有レ餘也。冬不レ用レ纒非レ愛レ纒也。清有レ餘也。聖人之不レ爲レ私也。

らざるなり。暖の餘あればなり。冬は纒を用ひず、纒を愛むにあらざるなり。清の餘あればなり。聖人の私を爲さざるや、貴を愛むにあらざるなり。おのれを節するなり。おのれを節せば、貪汙の心と雖も、なほ止むが若し。また況んや聖人をや。許由は彊むるにあらざるなり。通ずるところあればなり。孔墨の弟子徒屬、天下に充滿せり。みな仁義の術を以て、天下を教導せり。然して教を行ふところをや。これ何ぞや。仁義の術は外なればなり。能はず、また況んや教ふるところをや。これ何ぞや。仁義の術は外なればなり。それ外を以て内に勝つ。匹夫も徒歩にて行く能はず。また況んや人主をや。たゞ性命の情に通じて、仁義の術おのづから行はる。先王は盡く知る能はず。一を執りて萬物治まれり。人をして一を執る能はざらしむるものは、物これを感はしむればなり。故に曰く、「意の悖を通じ、心の纒を解き、德の累を去り、道の塞を通ず」と。貴富顯嚴名利の六つのものは、意に悖るものなり。容動色理

非レ愛レ費也。節二乎己一也。節レ己。雖二貪汙之心一。猶若レ止。又況乎聖人。許由非レ彊也。有レ所二乎通一也。有レ所レ通。則貪汙之利外矣。孔墨之弟子徒屬。充二滿天下一。皆以二仁義之術一。教二導於天下一。然而無レ所レ行レ教者。術猶不レ能レ行。又況乎所レ教。是何也。仁義之術外也。夫以レ外勝レ內。匹夫徒歩

氣意の六つのものは、心を纒すものなり。悪欲喜怒哀樂の六つのものは、德を累すものなり。智能去就取舍の六つのものは、道を塞ぐものなり。この四の六のもの胸中に藩かざれば、則ち正し。正しければ則ち靜なり。靜なれば則ち清明なり。清明なれば則ち虚なり。虚なれば則ち爲すなくして爲さざるなきなり。

● 意は、法也　● 欲は、貪也　● 季子は、戸季子にて、堯の時の諫候也　● ものれは、喪也　● 弘は、耶也。もしこれを云々は、客のまた問へる也　● 教よるところは、孔墨の弟子の弟子を謂ふ外は、衆也　● 先王は、ことごとく萬物を知る能はざるが故に、一道を執り守りて、萬物治まると也　● 人主は、偕主をいふ。また行ふ能はずと也　● 悖と纒と累と塞との四つのものは、人の病をなす所以のものなり。たゞ一を執るものは、能く道の塞を解去りて、塞閉せずと也　● この六つのものは、人間の欲するところなり　● この六つのものを節せずば、人心を蔽はすなりと也　● この六つのものを節せずば、德の累ひをなす所以のものなりと也　● 藩は、動也。この四つの六つのもの、みなその道を蔽て、道を通ずて、通ぜざらしむるものなりと也　● 虚は、道也。道は、空虚無爲にして、爲さざるなし。人よく智慮の中に、偏邪爲動せざれば、則ち正しこれを行へば、また自由自在にして、爲さざるなしと也

不レ能レ行。又況乎人主。唯通二乎性命之情一而仁義之術自行矣。先王不レ能二盡知一執レ一而萬物治。使二人不レ能レ執レ一者。物惑レ之也。故曰。通二意之浮一。解二心之繆一。去二德之累一。通二道之塞一。貴富顯嚴名利。六者浮レ意者也。容勛色理氣意。六者繆レ心者也。惡欲喜怒哀樂。六者累レ德者也。智能去就取舍。六者塞レ道者也。此四六者不レ蕩二乎胸中一。則正。正則靜。靜則清明。清明則虛。虛則無レ爲。而無レ不レ爲也。

四曰。先王用レ非二其有一。如二己有一之。通二乎君道一者也。夫君也者。盡レ虛。衆服而無レ智。故能使二衆智一也。智反二無能一。故能使二衆能一也。

分職

四に曰く、先王は、その有にあらざるを用ふること、おのれこれを有するが如し。君道に通ずるものなり。それ君なるものは、虛に處り、素服して智なし。故に能く衆智を使ふなり。智は無能に反る。故に能く衆能を使ふなり。無智無能無爲は、これ君の執るところを執る。故に能く衆爲を使ふなり。人主の惑ふところのものは、則ち然らず。その智を以て智を彊め、その能を以て能を彊め、その爲を以て爲を彊む、これ人臣の職に處るなり。人臣の職に

能執二無爲一。故能使二衆爲一也。無智無能無爲。此君之所レ執也。人主之所レ惑者。則不レ然。以二其智一彊レ智。以二其能一彊レ能。以二其爲一彊レ爲。此處二人臣之職一也。處二人臣之職一而欲レ無二邊患一。雖レ舜不レ能レ爲。武王之佐五人。武王之於三五人者之事一無能也。而世皆曰。取二天下一者武王也。故武王處りて、雍塞なからんと欲す。舜と雖も爲す能はず。武王の佐は五人なり。武王の五人のものの事に於ける、無能なり。而して世みな曰く、「天下を取りしものは武王なり」と。故に武王はその有にあらざるを取りしこと、おのれこれを有せしが如し。君道に通ずれば、則ち能く智者をして謀らしめ、能く勇者をして怒らしめ、能く辯者をして語らしむ。それ馬は、伯樂これを相し、造父これを御す。賢主はこれに乘り、一日千里、御相の勞なくして、その功あり。則ち乘るところを知るなり。今客を召ぶもの、酒酣にして、歌舞鼓瑟吹竽す。明日おのれを樂ましめしものを拜せずして、主人を拜す。主人これを使へばなり。先王の功名を立つる、これに似たるあり。衆能と衆賢とを使ひて、功名大に世に立つ。これを佐けしものにものに予へずして、その主に予ふ。その主これを使へばなり。これを譬ふれば、宮室を爲るが若し。必ず巧匠に任ずるは、奚の故ぞ。曰く、匠巧ならざれば則ち宮室善からざればなり」と。それ國は重物なり。

取レ非二其有一。如二已有一之。通二乎君道一也。通二乎君道一。則能令二智者謀一矣。能令二勇者怒一矣。能令二辯者語一矣。夫爲者伯樂相レ之。造父御レ之。賢主乘レ之。一日千里。無二御相之勞一。而有二其功一。則知レ所レ乘矣。今召レ客者。酒酣。歌舞鼓瑟吹竽。明日不レ拜二樂レ己者一。而拜二主人一。主人使レ之也。先王之

その善からざるや、豈に特に宮室のみならんや。巧匠の宮室を爲る、圓を爲るには必ず規を以てし、方を爲るには必ず矩を以てし、平直を爲るには必ず準繩を以てす。功已に就れば、規矩繩墨を知らずして、匠の巧なるを賞す。宮室已に成れば、巧匠を知らずして、みな曰く、「善いかな。これ某君某王の宮室なり」と。これ察せざるべからざるなり。人主の主道に通ぜざるものは、則ち然らず。自ら人を爲むるは則ち能はず。賢者に任ずるをば則ちこれを惡み、不肖者とこれを議す。これ功名の傷るゝ所以にして、國家の危き所以なり。棘の棗を食ひ、狐の皮を衣る。先王は、固にその有にあらざるを用ひて、おのれこれを有す。湯・武は一日にして盡く夏商の民を有し、盡く夏商の財を有し、その民を以て安んじて、天下敢へてこれを危む莫く、その地を以て封じて、天下敢へて說ばざるなく、その財を以て賞して、天下みな競む。鄰と岐周とを費すことなくして、天下は

立二功名一。有レ似二於此一。使二衆能與二衆賢一。功名大立二於世一。不レ予二佐レ之者一。而予二其主一。其主使レ之也。譬レ之若レ爲二宮室一。必任二巧匠一。奚故。曰。匠不レ巧。則宮室不レ善。夫國重物也。其不レ善也。豈特宮室哉。巧匠爲二宮室一。爲レ圓必以レ規。爲レ方必以レ矩。爲二平直一必以二準繩一。功已就。不レ知二規矩繩墨一。而

大仁を稱し大義を稱す。その有にあらざるを用ふるに通ぜしなり。白公勝、荊國を得、その府庫を以て人に分つ能はずんば、則ちこれを焚け、人をして以てわれを害せしむるなかれ」と。白公また能はず。九日にして石乞曰く、「患至らん。人にの兵を出して以て民に賦へ、因りてこれを攻め、十有九日にして白公死せり。國その有にあらざるなり、而もこれを有せんと欲す。至貪と謂ふべし。人を爲むる能はず、また自ら爲むる能はず、至愚と謂ふべし。譬へば、白公の喬は、梟のその子を愛するが若きなり、衞の靈公、天寒うして池を鑿たんとす。宛春諫めて曰く、「天寒うして役を起す、民を傷らんことを恐る」と。公曰く、「天寒きか」と。宛春曰く、「公は狐裘を衣、熊席に坐し、陽隅に竈あり。これを以て寒からず。今民は、衣弊れて補はず。履決けて組せず。君は則ち寒からず、民は則ち寒し」と。公曰く、「善し」と。役を罷めしめたり。左右以て諫めて曰く、「君の池を鑿

賞二匠巧一。匠之宮室已成。不レ知二巧匠一而皆曰。善。此某君某王之宮室也。此不レ可レ不レ察也。人主之不レ通二主道一者。則不レ然。自爲レ人則不レ能。任二賢者一。則惡レ之。與二不肖者一譲レ之。此功名之所二以傷一。國家之所二以危一。張辣之有。裘狐之有也。貪二辣之靈一。衣二狐之皮一。先王固用レ非二其有一而已

つ、天の寒きを知らざるなり。而して春やこれを知れり。春のこれを知るを以てしてこれを罷めしめば、禍は將に春に歸せんとして、怨は將に君に歸せんとす」と。公曰く、「然らず。それ民は未だ見るあらず。今將に民をしてこれを以てこれを見しめんとす。日く、春や善あるは、寡人において有るなり。春の善は、寡人の善にあらざるか」と。靈公の宛春を囚するや、君道を知ると謂ふべし。君たるものは、固より任なくして、職を以て任を受く。工拙は下なり。賞罰は法なり。君奚ぞ事とせんや。是の若くば、則ち賞を受くるものは徳とするなくして、誅に抵るものは怨むるなし。人は自ら反みるのみ。これ治の至なり。

(一) 君たる道に通達せるもの (二) 君は一を執りて以て化を爲すをいふ (三) かく知きものは、舜の徒と雖も、容易すること能はず、況んや凡人をや (四) 五人は、周公旦・召公奭・太公望呂尚・畢公高・祭公謀生也 (五) 伯禽は魯の君 (六) 功は、千里の功也 (七) 酒を飲み樂を合するを謂といふ (八) 靈公は、襄公の子也 (九) 寡人が賢人を使ふに個なるものありと也 (一〇) 抵は、當也 (一一) 特は、直といふが如し (一二) 召乞は、白公の臣也 (一三) 靈公は、襄公の子也 (一四) 原文此上の「匠之」二字は衍 (一五) 通は、達也 (一六) 令尹子西・司馬子期を殺して訓國を得しをいふ (一七) 賦は、與也 (一八) 鳧は、その子を愛養す。子長じてその母を食ふ也。白公が訓國の財を愛みて、その身を殺しれたるとへし也 (一九) 靈公は、襄公の子也 (二〇) 朝は、用也 (二一) 民が未だその德を見ずと也

處方

有レ之。湯武一日而盡有二夏商之民一。盡有二夏商之地一。盡有二夏商之財一。以二其民一安。而天下莫二敢之危一。以二其地一封。而天下莫二敢不レ說。以二其財一賞。而天下皆競。無レ費二乎部與一。畝周一。而天下稱二大仁一。稱二大義一。通二乎用レ非一。其有一。白公勝得二荊國一。不レ能下以二其府庫一分中人。七日。石乞曰。患至矣。不レ能レ分レ人。則被レ之。毋レ令二人以害レ我。白公又不レ能。九日。葉公入。乃發二太府之貨一予レ衆。出二高庫之兵一以賦レ民。因攻レ之。十有九日。而白公死。國非二其有一也。而欲有レ之。可レ謂二至愚一矣。昔白公之善。若二鼻之愛二其子一也。而爲一可レ謂二至愚一矣。不レ能二自爲一人。又不レ能二自爲一。衛靈公天寒鑿レ池。宛春諫曰。天寒起レ役。恐レ傷レ民。公曰。天寒乎。宛春曰。公衣二狐裘一。坐二熊席一。陳隅有レ竈。是以不レ寒。今民衣弊不レ補。履決不レ組。君則不レ寒矣。民則寒矣。公曰。善。令レ罷レ役。左右以諫曰。君鑿レ池。不レ知二天之寒一也。而春也知レ之。以二春之知一レ之也。而令レ罷レ之。禍將レ歸二於春一也。而怨將レ歸二於君一。公曰。不レ然。夫春也魯國之匹夫也。而我擊レ之。夫民未レ有レ見焉。今將レ令レ民以レ此見レ之曰。春也有レ善。於二寡人一有也。春之善非二寡人之善一歟。靈公之論二宛春一。可レ謂レ知二君道一矣。君者固無レ任。而以レ職受レ任。工拙下也。賞罰法也。君奚事哉。若レ是則受レ賞者無レ德。而抵レ誅者無レ怨矣。人自反而已。此治之至也。

五曰。凡爲ㇾ治必先定ㇾ分。君臣父子夫婦。君臣父子夫婦六者當ㇾ位。則下不ㇾ踰ㇾ節。而上不ㇾ苟ㇾ爲矣。少不二悍辟一。而長不二簡慢一矣。金木異ㇾ任。水火殊ㇾ事。陰陽不ㇾ同。其爲二民利一也。故異所二以安一同也。同所二以危一異也。同異之分。貴賤之別。長少之義。此先王之所ㇾ慎。而治亂之紀

五に曰く、およそ治を爲すには、必ず先づ分を定む。君臣父子夫婦なり。君臣父子夫婦の六つのもの位に當れば、則ち下節を踰えずして、上爲すを苟もせず。少は悍辟ならずして、長は簡慢ならず。金木は任を異にし、水火は事を殊にし、陰陽は同じからず。その民の利を爲すや一なり。故に異の安んずる所以は同なり。同の危き所以は異なり。同異の分、貴賤の別、長少の義、これ先王の愼むところにして、治亂の紀なり。今それ、射るもの、毫を儀みて鵠を失ひ、晝く

也。今夫射者儀ㇾ毫而失ㇾ鵠。置者儀ㇾ髮而易ㇾ視。冒ㇾ非ㇾ本也。本不ㇾ審。雖二堯舜一不ㇾ能二以治一。故凡亂也者。必始二乎近一而後及ㇾ遠。必始二乎本一而後及ㇾ末。治亦然。故百里奚處二乎虞一而虞亡。處二乎秦一而秦覇。向摯處二乎商一而商滅。處二乎周一而周王。百里奚之處二乎虞一也。智非ㇾ愚也。向摯之處二

や、智の愈すことを加ふるにあらざるなり。その周に處るや。典の善を加ふるにあらざるなり。その本なるものは、分を定むるの謂なり。齊、その本を有すればなり。その本なるものは、分を定むるの謂なり。齊、章子をして將たらしめて韓・魏と與に荊を攻む。荊は唐蔑をして將たらしめてこれを應つ。軍相當る。六月にして戰はず。齊、周最をして章子を趣し、急に戰はしむ。その辭甚だ剌る。章子、周最に對へて曰く、「これを殺し、これを 死れしめ、その家を殘ふは、王能くこれを臣に得ん、以て戰ふべからずして戰ひ、以て戰ふべくして戰はざらしむるは、王これを臣に得る能はず」と。荊人と汧水を夾みて軍す。章子、人をして水の絕るべきものを覩しむ。荊人これを射、水得て近づくべからず。水旁に匿るものあり、齊の候者に告げて曰く、「水の淺深は知り易し。荊人の盛守するところは、盡くその淺きものなり。簡守するところは、みなその深きものなり」と。候者匿る者を載せて與に章子を見る。章子甚だ喜ぶ。因りて卒を練りて、以て夜荊人の盛守するところを奄ひ、果して唐蔑を殺せり。

乎。商。與非レ惡也。無二其本一也。其處二於秦一也。智非レ加レ益也。其處二於周一也。與非レ加レ善也。有二其本一也。其本也者。定レ分之謂也。齊令二章子將一而攻レ荊。荊令二唐蔑將一而應レ之。軍相當。六月而不レ戰。齊令下周最趣二章子一急戰上。其辭甚刻。章子對二周最一曰。殺レ之免レ之。麾二其家一。王智得二此

章子は將の分を知ると謂ふべし。韓の昭釐侯出でて弋す。靭偏り緩む。昭釐侯、車上に居り、その僕に謂ふ、「靭偏り緩まずや」と。その僕曰く、「然り」と。舍に至る。昭釐侯鳥を射る。その右、その一靭を撰りてこれを適しうす。昭釐侯已に射る。駕して歸らんとして車に上り、選間ありて曰く、「鄉者靭偏り緩めり。今適しきは何ぞや」と。その右後より對へて曰く、「今者臣これを適しうせり」と。昭釐侯至り車令を詰む。おの〳〵舍に避けたり。故に擅に妄意の道を爲すは、當ると雖も、賢主は由ひざるなり。今こゝに人あり。擅に行を矯めば則ち國家を免れしめ、輕重を利すれば則ち衡石の若く、方圓を爲せば則ち規矩の若くす。これ則ち工なり、巧なりと。而も法るに足らず。法なるものは、衆の同ずるところなり。賢不肖の共に力むる所以なり。謀の用ふべからざるに出で、事の同ずべからざるに出づるは、これ先王の舍つるところたるなり。

(一)悍は、囚也、驁也。肆は、郭也。簡は、倨也、おごたる也。(二)六つのものは、みな民の用をなす所以のものゆえ、しかいへる也 ● 同異更に相成すをいへる也 ● 治亂云々とは、職人は、よく治め、亂人は、よく亂すは、これによると也 ● 儀は、法也、即ち、射るものが、毫毛の差を能察して、堵關の大を親ざるが故に、能く中つと也。また論くものは、毫髮を睹て人說を爲し、これを衆に儀むが故に、その形を失はざる。故に說し易しといへる也。本を審しうするとは、射れば必ず能く中て、論けば必ず人に說るをいへる也 ● 本は、身也。審は、正也。即ち、身の正しからざりして治めんと欲するは、堯舜すらなは能はず。況んや凡人をや。(三)近は小に喩へ、遠は大に喩ふ。亂をなす君は、小を先にし大を後にすと也。本は身を謂ひ、末は國を謂ふ也 ● 未だ身の治りて國の亂るゝを聞かず。故にまた然りといへる也 ● 虞公は、璧馬の賂を貪りて、その言に從はず。遂に晉のために誅されしが故に、亡びといへる也。また乘の穆公は、その譽を用ひて西戎を霸併せしが故に、覇害となれりと也。向強は、殷の紂王の太史令也。紂王がその言に從はずして周に奔り、朝年にして紂王は滅び、周の武王は、その謀を用ひて天下に王たりと也 ● その本云々とは、戒諭の書の、身治ちずして、自ら誅亡を取りをいへる也 (四)漸は、深也 (五)期は、要也 (六)倏は、疾也、忽也。(七)弋は、射也 (八)適は、等といふに同じ (九)詰は、調也、せむる也。(一〇)由は、用也 (一一)原文「其」は「共」の誤 (一二)舍つるとところは、すてて爲さざるところの意

於臣。不レ可レ以戰二而戰一。可二以戰一而不レ戰。王不レ能レ得二此於臣一。與二荊人一夾二汨水一而軍。章子令三人視二水可レ絕者一。荊人射レ之。水不レ可レ得近一。有下鄙二水旁一者上。告二齊候一者一曰。水淺深易レ知。荊人所二盛守一盡其淺者也。所二簡守一皆其深者也。候者載二弩者一與見二章子一。章子甚喜。因練レ卒以夜奄二荊人之所一。盛守一果殺二唐蔑一。章子可レ謂レ知二時分一矣。韓昭釐侯出弋。靭偏緩。昭釐侯居二車上一。謂二其僕一。靭不二偏緩一乎。其僕曰。然。至レ舍。昭釐侯射レ鳥。其右從レ後對曰。鄉者靭偏緩。今適何也。其右從レ後對曰。

今者臣適之。昭陰侯至詰二車令一。各健レ舍。故擅爲二妄意之道一。雖レ當賢主不レ由也。今有レ人二於此一。擅嬗レ行。則免二國家一。利二輕重一。則若二衡石一爲二方圓一。則若二規矩一。此則工矣巧矣。而不レ足レ法。法也者衆之所レ同也。賢不肖之所二以共一力一也。謀出二乎不一レ可レ用。事出二乎不一レ可レ同。此爲二先王之所一レ合也。

六曰。上驕下卑。卑則不レ得二以小觀一レ上。驕則恣。恣則輕二小物一。輕小物一則上無レ道レ知レ下。下無レ道レ知レ上。上下不二相知一。則上非レ下。下怨レ上矣。人臣之情。不レ能レ愛レ所レ怨。人主之情。不レ能レ愛レ所レ非。此上下大相二失道一也。故賢主謹二小物一。以論二好惡一。巨防容レ蟻。而漂レ邑殺レ人。突泆二一煙一。而焚レ宮燒レ積。時失二一令一。而軍破身死。主過二一言一。而國殘名辱。爲二後世笑一。衛獻公戒二孫林父寧殖食一。鴻集二于囿一。鷹人以告。公如レ囿射レ鴻。二子待レ君日晏。公不二來至一。來不レ釋二皮冠一而見二

愼小

六に曰く、上は尊く下は卑し。卑ければ則ち小を以て上を觀るを得ず。尊ければ則ち恣なり。恣なれば則ち小物を輕んず。小物を輕んずれば、則ち上、下を知るに道なく、下、上を知るに道なし。上下相知らずば、則ち上は下を非り、下は上を怨む。人臣の情、怨むところに爲す能はず、人主の情、非るところを愛する能はず。これ上下大に道を相失へるなり。故に賢主は、小物を謹みて以て好惡を論ず。巨防は、蟻を容れて、邑を漂はし人を殺し、突は、一煙を洩して、宮を焚き積を燒き、將は、一令を失りて、軍破れ身死し、主は、一言を過りて、國殘はれ名辱められ、後世の笑と爲る。衛の獻公、孫林父・寧殖食を

戒む。鴻、囿に集る。虞人以て告ぐ。公、囿に如きて鴻を射る。二子、君を待ちて日晏る。公來至せず。來りて皮冠を釋かずして二子を見る。二子說ばず、獻公を逐ひて、公子黯を立てたり。衛の莊公立ち、石圃を逐はんと欲し、臺に登りて以て望み、戎州を見てこれを問ひて曰く、「これ何すれぞものぞ」と。侍者曰く、「戎州なり」と。莊公曰く、「われは姬姓なり。戎人安ぞ敢へて國に居らん」と。これが宅を奪ひ、その州を殘はしむ。晉人たまく衛を攻む。戎州の人、因りて石圃と與に莊公を殺し、公子起を立てたり。これ小物審まざるなり。人の情、山に壅かずして垤に壅く。齊の桓公位に卽き、三年三言にして天下賢稱し、羣臣みな說べり。「食を肉にするの獸を去れ。粟を食ふの鳥を去れ。罝を絲にするの網を去れ」と。吳起、西河を治め、その信を民に孚にせんと欲す。夜日、表を南門の外に置きて、曰く、「明日、人の能く南門の外表を僨すものあらば、仕へて長大夫たらしめん」と。明日、日晏る。表を僨すものあ

二子。二子不レ
說。遂二獻公一立三
公子黯一。衛莊
公立。欲レ逐二石
圃一。登レ臺以望。
見二戎州一而問レ
之曰。是何爲
者也。侍者曰。
戎州也。莊公
曰。我姬姓也。
戎人安敢居レ
國。使下寺二之
宅一。
殘中其州上。晉人
遂攻レ衛。戎州
人因與二石圃一
殺二莊公一。立二公
子起一。此小物
不レ壽也。人之
情。不レ豐二於
埳一。而豐二於
坏一。

る莫し。民相謂つて曰く、「これ必ず信ならず」と。一人あり曰く、「試に往きて表を償さん。賞を得ざるのみ、何ぞ傷まん」と。往きて表を償し、來てり吳起に謂ぐ。吳起自ら見んとして出で、これを長大夫に仕へしめたり。夜日、またまた表を立て、また邑中に令すること前の如し。邑人、門を守りて表を爭ふ。表、植を加へ、賞する所を得ず。これより後、民は吳起の賞罰を信ぜり。賞罰民に信ぜらるれば、何事をしてか成らざらん。豈ひとり兵のみならんや。

一 上は、君也 二 小物は、小事也 三 これが爲に、力を竭し、節を盡す能はざる也 四 このみにくみを憤む也 五 亘は、大也。防は、堤也。即ち、堤防に蟻の穴るりて、それより水の入りて、終には國邑を汲し、人を害する也。 六 埳は、窞子也 七 禽獸を畜ふに、大なるを庶といひ、小なるを圃といふ 八 戎人は、圃をつかさどる官也。 九 莊公は、襄公の子劇展也。石圃は、衛の卿石碏の子也。 一〇 公子起は、衛の莊公の子莊公の弟也 一一 埳は、窞也 一二 吳起は、衛の人なり。魏の武侯に仕へて、西河の守となりし也。諡は、明也 一三 これ三言也 一四 たふす也。長大夫は、上大夫也 一五 償ならざるは、その賞あるを信ぜざる也 一六 償は、報也。立也。表は、柱也。償は、報也。

桓公即レ位。三
年三言。而天
下稱レ實。軍臣
皆說。去二肉食
之歎。去二食粟
之鳥。去二蘇レ置之網。吳起治二四
河。欲レ驗二其信於民。夜日置二表於南門之外。令二於
邑中一曰。明日有下人能償二南門之外表一者上。仕長大夫。明日日晏矣。莫レ有二償レ表者一。民相謂曰。此
必不レ信。有二一人一曰。試往償レ表。不レ得レ賞而已。何傷。往償レ表。來謁二吳起一。吳起自見而出。仕二之長
大夫一。夜日又復立レ表。又令二於邑中一如レ前。邑人守レ門爭レ表。表加レ植。不レ得レ所レ賞。自レ是之後。民信二
吳起之賞罰一。賞信二乎民一。何事而不レ成。豈獨兵乎。

一 桓公は、即位也。 二 三言は、先也 三 諸の如しと雖、前令と同じと也 四 邑人が、賞を貪り爭ひ往きて、表をたふさんとせしに、表は深く植ちて、償す能はざれば、故にその賞をする所得ざりし也 五 吳起賞罰民を欺かず、故に民これを信ぜし也

巻第二十六

士容論第六

士容論

一に曰く、士は偏せず、黨せず。柔にして而く堅、虚にして而く實なり。その狀、朖然として儇せず。その一を失ふが若し。小物に傲りて、志は大に屬し、勇なきに似て、未だ恐るべからず。狼執固横、敢へてして辱害すべからず。患に臨み難に渉り、而も義に處りて越たず。南面、寡を稱して、以て侈大せず、今日民に君たり。而して海外を服せんと欲す。節物甚だ高くして、細利顧らず、耳目俗を遺てて、與に世を定むべし。富貴就かずして、貧賤竭らず。德行理を脅びて、巧衞を用ふるを羞づ。寬裕譆らずして、中心甚だ厲く、動かすに物を以てし難くして、必ず妄りに折れず。これ國士の容なり。齊に善く狗を相する

大。今日君民。而欲海外。節物甚高。而細利弗顧。耳目俗。而可與定世。富貴弗就。而貧賤弗竭。行義理。而羞用巧衞。寬裕不譆。而中心甚厲。動以物。而必不妄折。此國士之容也。齊有善相狗者。其鄰假以買取鼠之狗。期年乃得之。曰。是良狗也。其鄰齊之數

ものあり。その鄰、假うて以て鼠を取るの狗を買ふ。期年にして、乃ち之を得たり。曰く、「これ良狗なり」と。その鄰、之を善ふこと數年、而も鼠を取らず。以て相者に告ぐ。相者曰く、「これ良狗なり。その志は、牆壁家廐に在り、鼠に在らず。その鼠を取るを欲せば、則ちこれを桎せよ」と。その鄰、その後足を桎せり。狗乃ち鼠を取れり。それ騏驥の氣、鴻鵠の志、人心に識すものあるは、誠なり。人も亦然り。誠これ有らば、則ち、神、人に應ぜん。言は豈に以て之を識にするに足らんや。これを不言の言と謂ふなり。客に田駢を見るものあり。被服法に中り、進退度に中り、趨翔閑雅、辭令遜敬なり。田駢これを聽き、畢りてこれを辭る。客出づ。田駢これを送るに目を以てす。弟子、田駢に謂つて曰く、「客は士か」と、田駢曰く、「士にあらざるに殆し」と。今者客の弁敏するところは、士の術施するところなり。士の弁敏するところは、客の術施するところなり。客は士にあらざるに殆きなり。故に火一隅を燭せば、則ち室偏して光なし。骨節蚤く成れば、

年。而不レ取レ鼠。以告二相者一。相者曰。此良狗也。其志在二鵰鶚豪豕一。鹿不レ在レ鼠。欲二其取レ鼠也一。則経レ之。其郷径二其後足一。狗乃取レ鼠。夫驥驁之氣。縣鑑之志。有下驗二乎人心一者上誠也。人亦然。誠有レ之。則神應二乎人一矣。盲豈足二以驗レ之哉。此謂二不盲之盲一也。客有下見二田駢一者上。被レ服中レ法。過退中レ度。雄翔閑雅。辞令遜敏。田駢聽レ之。挙而辞レ之。客出。田駢送レ之以レ目。弟子謂二田駢一曰。客士歟。田駢曰。殆二乎非レ士也一。今者客所二以貴一士。士所二以貴一客。所二以術一也。士所二以術一也。客殆二乎非レ士也一。故火燭二一隅一。則室虚無レ光。骨節蚤成。空窾笑歴。身必不レ長。衆無レ謀レ方。乞讐二視見一。多レ故

窓。窾笑歴にして、身必ず長ぜず。衆、方を謀る無く、乞ひて視見を讐み、故を多くして良からずば、志必ず公ならず。功を立つる能はず、得るを好み予ふるを悪めば、國大なりと雖も王たらず。禍災日に至る。故に君子の容は、純乎としてそれ鍾山の玉の若く、桔乎としてそれ陵上の木の若く、淳淳乎として慎み謹みて化を畏れ、肯へて自ら足れりとせず。乾乾乎として取舎悦ばず、心甚だ素樸なり。唐尚の敵年史と爲る。その故人、唐尚を謂ひてこれを願ふ。以て唐尚に謂ふ。唐尚曰く、「われ史たるを得ざるにあらざるなり。魏の鄢鄲を圍むに及び、唐尚、而て爲さざるなり」と。その故人信ぜざるなり。その故人乃ちその史惠王に説きてこれが圍を解かしめ、以て伯陽を與へらる。その故人乃ちその史たるを羞じしを信ぜり。居ること間ありて、その故人、その兄の爲に請ふ。唐尚曰く、「衛君死せり、われ汝の兄を將めて、以てこれに代へん」と。その故人反興再拝してこれを信ぜり。それ信ずべくして信ぜず、信ずべからずして信ずるは、これ愚者の患なり。人情を知り、自ら遺るゝ能はず。これを以て君と爲る、天下を有すと雖も何ぞ益せん。故に敗るゝは愚より大なるは莫く、愚の患は、必ず自ら用ふるにあり。自ら用ふれば、則ち戇隋の人、從ひてこれを賀す。國を有して此の若くば、有するなきに若かず。古の賢に與ふる、これより生ず。その子孫を悪むにあらざるなり。徼めてその名を矜るにあらざるなり。その實に反るなり。

● 而は、能也 ● 服鑑は、群大のさまをいふ。儀せざるは、すばやくこせ〳〵せざる也、儀は倪儗也 ● 一は道也 ● 徼は輕也、輕んずる也。大は大に功を成すをいふ。未だ然るべからざるを以て也 ● 鑑は貪獣なり。設執は掩執するところ陥きをいふ。國柄は固くとりて離しき也、即ちかくの如き士は、賜むべからず、また害すべからずと也 ● 端は失也 ● 廟面は君の位也。寡は君の謙稱也。即ちかくの如き士はこれを廟面の君位に即かしむともまた義に聴りて、衆妙貴大を以て身を滅すことあらずと也 ● 商外は四海の外にて、外國也。これを服せんと欲するは、徳化の貴大なるをいふ ● 即働は事也、即ち事を行ふこと甚だ高くして、細小の利はこれを待望せずと也 ● 耳目は譽聴也、即ち名を定むべしと也 ● 竭は去也。富貴を軽んじ貧賤に甘んずと也 ● 道理を尊重して行ひ、巧

不レ良。志必不レ公。不レ能レ立レ功。好レ得悪レ予。国雖レ大不レ爲レ王。國災日至。故君子之容。純乎其若二鎮山之玉一。桔乎其若二陵上之木一。淳淳乎慎謹長レ化。而不二肯自足一。乾乾乎取舎不レ悦。而心蓄積樸。唐尭曰。吾非レ不レ得レ爲レ史也。蓋而不レ

爲也。其故人不レ信也。及三魏圍二邯鄲一。郭一唐尭曰。記二憲王一而解二之圍一。以與二伯陽一。其故人乃信二其蓋レ爲レ史也。居有レ間。其故人爲二其兄一請。唐尭曰。衛君死。吾將二汝一。夫可レ信而不レ信。不レ可レ信而信。此愚者之患也。知二人情一。不レ能二自遣一。以レ此爲レ君。雖レ有二天下一何益。故敗莫レ大二於愚一。愚之患在二必自用一。自用則惑陋之人。從而賀レ之。有レ國若レ此。不レ若レ無レ有。古之與レ賢。從レ此生矣。非レ惡二其子孫一也。非三徴而矜二其名一也。反二其實一也。

務大

二に曰く、嘗て試に上志を觀るに、三王の佐、その名榮えざるものなく、その實安からざるものなし。功の大なるが故なり。俗主の佐の、その名實を欲するや、三王の佐と同じ。その名辱められざるものなく、その實危からざるものなし。功なきが故なり。みなその身の、其國に貴ばれざるを患へざるなり。而も、その主の天下に貴ばれざるを患ふるなり。辱められ、安きを欲して逾〻危き所以なり。孔子曰く、「燕爵爭ひて善く一

鵲を以て自ら榮爵するを儆づと也。（一）その心中寛大にして、人を容り救つことなく、至りて高遠なりと也。動かすに云々は、物の爲に動かず、義にこれより、また義のあるところは、みだりに屈折せずと也。（二）容は法といふに同じ。（三）儀は儀といふに同じ、即ち善く胸を相するものに謂ひて鼠を取る物を爲ひし也。（四）程はあしがせ也、足につくるを程といふ。（五）道を以て化するをいふ。（六）田野は野の人、通鑑二十五篇をつくる。（七）靜は遠也。（八）目を以て遠りてこれを觀し也。（九）衛は古へ城に遶りて用ひし也。（一〇）公は正也。（一一）立は成也。（一二）鎮は美也。鎮山の玉、鎮くに寶玉を以てせしに、三日三夜色澤變ずまりきと、また瞳上の木は揺にして、且つ大なり、みな天性なり。君子の天性は純徳なるが故に、これを以てたとへし也。化は教也。即ち常に長れてこれを學と、育へて自ちその智を以て足れりとせずと也。乾乾乎は、進みて倦まざるさま也。取舎悦ばずは常に敬慎なるをいふ。蓄積は精深專一なる也。（一三）史は國史也。（一四）故人は唐尭の舊知也、即ち唐尭が天文術度に明智し、特徴の應に容なるの故を以て、用ひて史となさんことを圖ひし也。（一五）その史たるを辭ずると也。（一六）憲王は魏の文侯の孫武侯の子にて孟子に梁の惠王とあるは、これなり。伯陽云々は伯陽の邑を以てこれに與せし也。（一七）唐尭にその兄を仕へしめんことを謂ひしいふ、衛君は卒べからざるなり。聞も倩て卑べしとなす、故に倩ずべからずして、倩ずといへる也。（一八）自ちを也。（一九）信すべくは唐尭のその兄を以て衛君に代へんと欲するをの貪欲の情を遺亡する能はざれば、必ず危亡せんと也。故に天下を有すと雖も、何ぞ益せんといへる也。（二〇）古人のその位を賢に讓へしは、その子不肖なるが故に傳ふる能はざりしなりと也。（二一）豐は衆也、詩は大也。（二二）國を

二曰。嘗試觀二於上志一。三王之佐。其名無二不レ榮者一。其實無二不レ安者一。功大故也。俗主之佐。其欲二名實一也。與二三王之佐一同。其名無二不レ辱者一。其

實無二不レ危者一。無レ功故也。皆患二其身不レ貴一。於二其國一也。而不レ患二其主之不レ貴一於二天下一也。此所二以欲レ榮而逾辱一也。欲レ安而逾危一也。孔子曰。燕爵爭善處二於一屋之下一。母子相哺也。區焉相樂也。自以爲レ安矣。竈突決。上棟焚。燕爵顏色不レ變。是何也。不レ知二禍之將レ及レ之也。不二亦愚一乎。爲二人臣一而免二於燕爵之智一者寡矣。夫爲二人臣一者。遭二其爵祿富貴一。父子兄弟相與比二周於一國一。區區焉相樂也。而以危二其社稷一。其爲二竈突一近矣。而終不レ知也。其與二燕爵之智一不レ異。故曰。天下大亂。無レ有レ安レ國。一國盡亂。無レ有レ安レ家。一家盡亂。無レ有レ安レ身。此之謂也。故細

屋の下に處り、母子相哺むや、區區焉として相樂むなり。自ら以て安しと爲すなり。竈突決し、上棟焚ゆ。燕爵顏色變ぜず、これ何ぞや、禍の將にこれに及ばんとするを知らざるなり、また愚ならずや」と。人臣と爲りて、燕爵の智より免るゝもの寡し。それ人臣たるもの、その爵祿富貴を進め、父子兄弟相與に一國に比周し、區區焉として相樂むなり。而も以てその社稷を危くす、その竈突たるや近し、而も終に知らざるなり。それ燕爵の智と異ならず。故に曰く、「天下大に亂るれば、國を安んずるあるなく、一國盡く亂るれば、家を安んずるあるなく、一家盡く亂るれば、身を安んずるあるなし」とは、これをこれ謂ふなり。故に細の安きは必ず大に待ち、大の安きは必ず小に待つ。細大賤貴交〻賛を相爲し、然して後みなその樂ふところを得。薄疑、衞の嗣君に說くに王術を以てす。嗣君これに應へて曰く、「有するところのものは、千乘なり、願はくは、以て教を受けん」と。薄疑對へて曰く、「烏鵲は千鈞を奉けたり、また況

んや一斤をや。杜赫以て天下を安んぜんとし、周の昭文君に說く。昭文君、杜赫に謂つて曰く、「願はくは周を安んずる所以を學ばん」と。杜赫對へて曰く、「臣の言ふところのもの不可ならば、可ならば、則ち周はおのづから安し」と。これ所謂安んぜざるを以て安んずるものなり。鄭君、被瞻に問ひて曰く、「聞く、先生の義は、君に死せず、君を亡さずと。信にこれあるか」と。被瞻對へて曰く、「これ有り。それ言聽かれず、道行はれずんば則ち固より君に事へざるなり。もし言聽かれ、道行はれば、また何ぞ死亡せんや」と。故に被瞻の死亡せざるは、その死亡するものより賢れるなり。むかし有莘、海外を服せんと欲して成らず、既に以て帝を成すに足る。禹、帝を欲して成らず、既に以て通達に王たるに足る。五伯、湯武に繼がんと欲して成らず。既に以て諸侯の長たるに足る。孔墨、大道を世に行はんと欲して成らず、既に

以て顯榮を成すに足る。これ大義の成らざる、既に成るあるのみ。故に事の大を務む。

● 上志は古記載也。舉は顯也。賞は郤と云ふに同じ　● 功は大功也　● 遂は從也　● 歸は依也、歸々慕は忠を得る貌也　● 顯は小也、卽ち相ひ救ひ相ひたすくるをいへる也　● 交は更也、貿は助也、柔は順也　● 關雲は關の平侯の子也、漢その誠を配して雲と曰へる也　● 衝雲は關は古の强力雲也。千鈞は三萬斤也。關雲の衆にして王衛をなすは、鳥獲の力の如くは以て敎を受けんと也　● 鳥獲は古の强力雲也。千鈞は三萬斤也。關雲の衆にして王衛をなすは、鳥獲の力の如て、一斤を擧ぐるに勞しく容易なるにたとへし也　● 杜赫は周の人、杜伯の後也、周の昭文君は東周の君也　● 昭文君の時に當り、人仁義を行ふを安んぜず、而して仁義行はれず、然れども仁義は必ず安んずるの本なるが故に、安んぜざるを以て安んずるものといへる也　● 關雲は關公也。被髮は關の文公に率へしが故に、關公位に即き髮が行ひしところの義の備不を問ひし也　● 賢臣の言に從へば、死亡せずと也　● 君をして無道ならしめば、臣正す能はず、乃ち死亡のみ、被髮の言聽かれ道行はるれば死せず亡せず、故に死亡するものより賢るといへる也

足三以爲二諸侯長一矣。孔子欲レ行二大道於世一而不レ成。既足三以成二顯榮一矣。是大義之不レ成。既有レ成已。故務二事大一。

三曰。古先聖王之所三以導二其民一者。先務二於農一。民農非三徒爲二地利一也。貴二其志一也。民農則樸。樸則易レ用。易レ用則邊境安。主位尊。民農則重。重則少二私義一。公義一則公法立。力專レ一。

上農

三に曰く、古先聖王の、その民を導く所以のもの、まづ農に務む。民の農なるは、たゞに地利を爲すのみにあらざるなり。その志を貴ぶなり。民、農なれば則ち樸、樸なれば則ち用ひ易く、用ひ易ければ則ち邊境安く、主位尊し。民、農なれば則ち重く、重ければ則ち私義少く、私義少ければ則ち公法立ち、力一に專なり。民農なれば則ちその產復す、その產復すれば則ち徙るを重んず。徙るを重んずれば則ちその處に死して、二慮なし。民、本を舍てて末を事とすれば、則ち令からず、令からずんば則ち以て守るべからず、以て戰むべからず。民、本を舍てて末を事とすれば、則ちその產約なり。その產約なれば、則ち遷徙を輕ん

民農則其產復。其產復。則重ㇾ徙。重ㇾ徙則死ニ其處ニ。而無ニ二慮ニ。民舍ㇾ本而事ㇾ末。則不ㇾ可ニ以守ニ。不ㇾ可ニ以戰ニ。民舍ㇾ本而事ㇾ末。則其產約。其產約則輕ニ遷徙ニ。輕ニ遷徙ニ。則國家有ㇾ患。皆有ニ離心ニ。無ニ有ニ居心ニ。民舍ㇾ本而事ㇾ末。則好ㇾ智。好ㇾ智則多ㇾ詐。多ㇾ詐則巧ニ法令ニ。以ㇾ是爲ㇾ非。以ㇾ非爲ㇾ是。后稷曰。所ニ以善ニ耕者ㇾ。以爲ㇾ本ㇾ教也。是故天子親率ニ諸侯ニ。耕ニ帝籍田ニ。大夫士皆有ニ功業ニ。是故當ニ時之務ニ。農不ㇾ見ニ于國ニ。以教ニ民墾ニ地也。后妃率ニ九嬪ニ。蠶ニ於公桑ニ。是以春秋冬夏。皆有ニ麻枲絲繭之功ニ。以力ニ婦教ニ也。是故丈夫不ㇾ織而衣。婦人不ㇾ耕而食。男

ず。遷徙を輕んずれば、則ち國家に患あり。みな遠志ありて居心あるなし。民、本を舍てて末を事とすれば、則ち智を好む。智を好めば則ち詐おほし、詐多ければ則ち法令に巧なり。是を以て非と爲し、非を以て是と爲す。后稷曰く、「耕織を務むる所以のものは、以て教を本とするが爲なり」と。この故に天子は、親ら諸侯を率ゐ、帝の籍田を耕し、大夫士みな功業あり。この故に、時の務に當りては、農は國に見られず、以て民に地の產を尊ぶを教ふるなり。后妃は九嬪を率ゐ、郊に蠶し、公田に桑す。これを以て、春秋冬夏、みな麻枲絲繭の功あり。以て婦教を力むるなり。この故に丈夫は織らずして衣、婦人は耕さずして食ひ、男女功を貿へて以て長生す。これ聖人の制なり。故に時を敬み日を愛み、老にあらざれば休せず、疾にあらざれば息はず、死にあらざれば舍てず。上田夫は九人を食ひ、下田夫は五人を食ふ。以て奉すべく以て損すべからず。一人これを治めて十人これを食む。六畜みなその中に在り。これ大に地に任ずるの道なり。故に時の務めに當りては、土功を興さず、師徒を作さず。庶人は冠弁せず。妻を娶り、女を嫁し、享祀するに、酒醴して衆を聚めず。農は上聞せず。敢へて肆に私籍せず。害を時に爲せばなり。農は卿を出さず。女は外に嫁せず。以て農を安んずるなり。野禁にあらずば、農は卿を出さず。女は外に嫁せず。以て農を安んずるなり。野禁に五あり。地未だ辟易せずんば、廬を操らず、蓑を出てず。齒年未だ長ぜずんば、敢へて園圃を爲めず。力を量りて足らずんば、敢へて地を渠して耕さず、農は敢へて行かず。賈は敢へて異事を爲さず。害を時に爲せばなり。然して後に四時の禁を制す。山は敢へて材を伐り木を下さず。澤人は敢へて傖を灰にせず。緜網罝罟、擧、敢へて門より出さず。眾罟敢へて淵に入れず、澤、舟鷁にあらずんば、敢へて名に緣らず、害をその時に爲せばなり。もし民、田を力めずんば、墨は乃ち家に畜はれ、國家治め難く、三疑乃ち極る。これを本に背き則に反すと謂ふ。その國を失ㇾ。おほよそ民の、七尺より以上なるは、これを三官に屬せしむ。農は粟

を攻め、工は器を攻む。時事共せざる、これを大凶と謂ふ。これを奪ふに土功を以てする、これを積して憂を絕たずと謂ふ。たゞ必ずその枇を喪ひ、これを奪ふに水事を以てする、これを鑿して以て樂を繼ぐを喪ふと謂ふ。四鄰盧に來る、これを奪ふに兵事を以てする、これを禍を賦くと謂ふ。胥歲に因り、鉦女を乘はず、數〻民の時を奪へば、大饑乃ち來る。野に寢死あり。或は談じ或は歌ふ。且は則ち香あり。その本眞を知る莫し。

● 今は猶也　● 歌は歌也　● 盧は盧舍　● 枇は枇杷也、方言に枇杷を以て柴を編めざる者をいふ　● 此一句の錯簡かを疑ふ　● 賦は猶也　● 胥は相也　● 因は猶といふに同じ　● 乘は猶といふに同じ　● 三晉地農工商也　● 農民が晉營の時、營舍の務にもたり、國都に見られずと也　● 質は猶也、かふる也　● 制は法也　● 鄰民婦をめとる家は三日竈を廢はず、女を娶する家は、三日竈を絕たずとあり。　● 莫は無也、則は要也、外に嫁せずは異姓の女は國邑を出でずして、婦する者　● 鉦は猶といふに同じ　● 舟或は、舟を主る官也　● 或は治也　● 眞は靜也

外嫁ㇾ以安ㇾ農也。野無ㇾ有ㇾ五。地未ㇾ辟易ㇾ不ㇾ操ㇾ廉。不ㇾ出ㇾ貲。當ㇾ年未ㇾ長。不三敢爲二固圄一。量ㇾ力不ㇾ足。不二敢踰ㇾ地而歸一。農不二敢行一。賈不三敢爲二異事一。爲二害於時一也。然後制二四時之禁一。山不二敢伐ㇾ材下ㇾ木。澤人不二敢灰一。罾。網罝。罟。不三敢入二於淵一。澤非二舟虞一。不二敢檝ㇾ名。爲二害其時一也。若民不ㇾ力ㇾ田。墾乃家。壻。國家雖ㇾ治。三疑上。關二諸三官一。農攻ㇾ粟。工攻ㇾ器。賈攻ㇾ貨。時事不ㇾ共。是謂二大凶一。寧之以二土功一。是謂二積不ㇾ絕ㇾ憂。唯必喪二其枇一。寧ㇾ之以二水事一。是謂三喪二以繼ㇾ樂。四鄰來ㇾ虛。寧之以二兵事一。是謂ㇾ厲ㇾ鳴。因二胥歲一不ㇾ娶二婦。鉦女一。數寧二民時一。大饑乃來。野有二餓莩一。或談或歌。且則有ㇾ香。喪ㇾ粟甚多。皆知二其末一。莫ㇾ知二其本眞一。

任地

四に曰く、后稷曰く、「子は能く埆を以て突と爲すか。子は能くその惡を蘴して、これに揖するに險を以てするか。子は能くわが士をして、靖んじて浴土を嘒せしむるか。子は能く蓋を保ち、地を安んじて處らしむるか。子は能く子の野をして、盡く冷風たらしむるか。子は能く蓼をして、數節にして莖堅からしむるか。子は能く穗をして、大にして堅

四曰。后稷曰。子能以ㇾ窒爲ㇾ突乎。子能蘴二其惡一而揖ㇾ之以ㇾ險乎。子能使二晉士靖面則二浴士一乎。子能使二保ㇾ蓋安ㇾ

地而處乎。子能使二荏爽肝一乎。涅乎。子能使二蓼之野盡爲一洽黑一乎。子能使二蘖數節而堅堅一乎。子能使二穗大而堅均一乎。子能使二粟圓而薄糠一乎。子能使二米多沃而食レ之甕一乎。無レ之若何。凡耕之大方。力者欲レ柔。柔者欲レ力。息者欲レ勞。勞者欲レ息。緩者欲レ急。急者欲レ緩。緩

さ均しからしむるか。子は能く粟をして、圓にして薄糠ならしむるか。子は能く米をして多沃にしてこれを食ふ彊からしむるか。これ無くんば若何」と。およそ耕の大方は、力あるものは柔を欲し、柔なるものは力を欲し、息へるものは勢を欲し、勢せるものは息を欲し、緩せたるものは肥えんを欲し、肥えたるものは棘せんことを欲し、急なるものは緩ならんことを欲し、緩なるものは急ならんことを欲し、燥かんことを欲し、燥けるものは溼はんことを欲す。上田は畝を棄て、下田は畛を棄て、五耕五耨必ず審かにし、以てその深殖の度を盡す。陰土必ず得。大草生ぜず。また螟蜮なし。今茲の美禾は、來茲の美麥。これ六尺の組を以て、畝を成す所以なり。その博さ八寸、畛を成す所以なり。耨の柄は尺、これその度なり。その耨は六寸、稼を間する所以なり。地は肥えしむべく、また棘せしむべし。人の肥ゆる必ず澤を以てす。苗をして堅くして地をして隙あらしむ。人耨るには必ず旱を以てし、地をして肥えて、土をして

者欲レ急。急者欲レ緩。緩者欲レ緣。緣者欲レ薄。薄者欲レ厚。厚者欲レ緣。緣

澤。使二苗堅而地瞭一。人耨必以レ早。使二地肥而土緩一。草謾二大月一。冬至後五旬七日。菖始生。菖者。百草之先生者也。於レ是始耕。孟夏之昔。殺二三葉一。能獲二大麥一。日至苦菜死而資生。而樹二麻與一レ菽。此告二民地實盡死一。凡草生。藏日中出。陳首生而麥無レ葉。而從レ事於蓄藏一。此告二民究一

邈ふ、稼(二八)不を種ゑて稼を爲さず、重禾を種ゑて重と爲さず。これを以て粟少くして功を失ふ。

一 稼は莖空也、籽下をいふ。突はつきいづる也 二 陰は濕潤といふに同じ、晨原也 三 瞭は明の古字 四 沛は遞び生ずる也 五 浴風は和風にて、穀を成す所以のもの 六 菖は蒲黄也、やせもとろふる也。急張堅剛土の謂也。故に緩を欲する也。緩とは沙壌鬆土をいふ也。故に草之先生者也。於是始耕。孟夏之昔。殺二三葉一。能獲二大麥一。日至苦菜死而資生。而樹二麻與一レ菽。此告二民地實盡死一。凡草生。藏日中出。陳首生而麥無レ葉。而從レ事於蓄藏一。此告二民究一

也。五時見レ生而樹レ生。見レ死而藏レ死。天下レ時。地生レ財。不二與レ民謀一。有レ年壅レ土。無レ年壅レ土。無レ失二民時一。無レ使三之治一。下知二貧富一。利器皆時至而作。湯レ時而止。是以老弱之力可二盡起一。其用レ日中。其功可レ使レ倍。不レ知レ事者。時未レ至而遝レ之。時既往而慕レ之。當レ時而薄レ之。使二其民而都一之。民既都。乃以二良時一暮。此從レ事之下也。操レ事則苦。不レ知二高下一。民乃逸。處二磽埆一。禾二不レ爲レ穫。種二重禾一不レ爲レ重。是以衆少而失レ功。

時を降し地は發情を出すは、自然の道也。故に民と謀らずと曰へるなり 二 年壮穀也。穀は土を穀る也。穀あれば土を穀りて、その功に報ゆる也。穀なければ土を穀りてその神に報ゆる也 三 利用の器はその時ありて、これを逆ふ也 四 苦は晩霜早殺也、一名葶藶 五 墓は思也 六 薄は輕也、時を重んじざるをいへる也、都は重也、重は早種晩穀也 七 その時に當らざるが故に、粟少きなり。これを貪ひて氣力少きが故に、歩くして功を失ふと曰へるなり

辯土

五に曰く、およそ耕の道は、必ず厚それく靭す。爲むるそれたゝ厚くして緻なる者に及ぶ。莊の堅きものはこれを耕して澤ならしめ、それ靭して之を後にす。上田は則ちその處

五曰。凡耕之道。必始二於壚一。爲二其寡澤而後枯一。必厚其靭。爲二其寡澤而後枯一。必厚其

而及二陰雨一耕レ之。莊之蹻者耕レ之澤。其納而後レ之。上田則核二其處一。下田則耘二其處一。汗一無下與二三盜一任上地。夫四序參二發大則小歉一。爲二青魚肥一。苗若直蟲一。地窳レ之也。既種而無レ行。鉏而不レ長。則苗相窳也。弗レ除則蕪。除レ之則虛。則草窳レ之也。故去二此三盜者一。而後參可レ多也。所謂今之耕也。

を被ひ、下田は則ちその汗を盡す。三盜に與へて地を任ずるなし。それ四序大則小歉を參發し、青魚の肥を爲す。苗、直蟲の若きは、地これを窳むなり。既に種ゑて行なく、耕して長ぜずんば、則ち苗の相窳むなり。除かずんば則ち蕪れ、これを除けば則ち虛なるは、則ち草これを窳むなり。故にこの三盜のものを去りて、而して後に粟多かるべきなり。所謂今の耕すや、營みて獲るなきもの、その蟲きものは時に先んじ、晩きものは時に及ばず、寒暑節ならず、稼は乃ち蕃實多し。その晦を爲すや、高くして危ければ、則ち澤奪はれ、陂すれば則ち埒し、風を見ては則ち僵れ、高培なれば則ち拔け、寒ければ則ち雕み、熱ければ則ち傛く、時を一にして五六死す、故に來を爲す能はず、俱に生じて俱に死せず、虛稼まづ死し、衆盜乃ち窳み、これを望めば餘あるに似て、これに就けば則ち虛し。農夫その田の易まれるを知りて、その稼の疏にして適せざるを知らざるなり。その田の際なるを知りて、その稼、地に居るの虛なるを知らざるなり。除かずんば則ち蕪れ、これを除け

曾而無レ獲者。其蚤者先レ時。晩者不レ及レ時。寒暑不レ節。穀乃多二舊實一。其爲レ晦也高而危。則澤奪。陂則埒。見レ風則僵。高培則拔。寒則雕。熱則脩。一レ時而五六死。故不レ能レ爲レ來。不二俱生而俱死一。虛窳先死。衆盜乃窳。望レ之似レ有レ餘。就レ之則虛。農夫知二其田之易一也。不レ知二其窳之疏而

ば則ち虛し。これ事の傷るゝなり。故に晦は廣く以て平かならんとを欲し、唧は小にして以て深からんとを欲す。下は陰を得、上は陽を得、然して後穀生ず。稼は塵に生じて堅に殖せんとを欲するものは、その種を愼み、數ならしむる勿れ、また疏ならしむる勿れ。その土を施すに於て、足らざらしむるなく、また餘あらしむるなかれ。熟の穫あるや、必ずその培に務む。その耨するや植う。植ゑしもの、その生ずるや、必ず先なり。その土を施すや均にす。均なるもの、その生ずるや、必ず堅し。是を以て晦は廣くして以て平かなれば、則ち本を喪はず。莖の地に生ずるもの五、これを分つに地を以てす。莖生ずる行あり。故に遬く長ず。弱相害せず。故に遬く大なり。行を衡にして必ず得、行を縱にして必ず術し、その行を正しうして、その風を通ず。心を中央に夬し、帥ゐて泠風を爲す。苗はその弱なるや、孤を欲し、その長ずるや、相與に居らんことを欲し、その熟するや相扶けんことを欲す。この故に三以て族を爲せば、乃ち粟多し。

不ㇾ適也。知二其田之際一也。不ㇾ知二其稼居ㇾ地之虛一也。不ㇾ除則蕪。除ㇾ之則虛。此事之傷也。故晦欲二廣以平一。剛欲二小以深一。下得ㇾ陰。上得ㇾ陽。然後咸生。稼欲下生二於塵一而殖於堅上者。愼二其種一。勿ㇾ使ㇾ數。亦無ㇾ使ㇾ疏。於二其施ㇾ土。無ㇾ使ㇾ不ㇾ足。亦無ㇾ使ㇾ有ㇾ餘。熟有ㇾ養也。必務二其培一。其養也植。植者其

およそ禾の患は、倶に生じて倶に死せず。これを以て先づ生ずるものは美米にして、後に生ずるものは粃を爲す。この故にその稼するや、その兄を長じてその弟を去り、肥に樹ゑて、疏を扶けしむるなく、墝に樹ゑて、專生を欲せずして族居せしむ。肥にして疏を扶くれば則ち粃多く、墝にして專居すれば則ち死多し。稼を知らざるもの、その稼するや、その兄を去りて、その弟を養ひ、その粟を收めずして、その粃を收む。上下安からずんば、則ち禾に多く死す。土を厚くすれば、則ち孳して通ぜず、土を薄くすれば、則ち蚤枯して發せず、墟埴は色を冥くし、剛土は種を柔にし、耕して殺瞑を免れしめ、農事をして得しむ。

一 墟は墟墟の地をいふ 二 土に塩あるをいふ（ある也）耕は音義詳かならず。厚は深也 三 絵雲義詳かならず、評雲義詳かならず、四 蔓れは蘢草の生ずる也。虚なりは鬆脆を助かすをいふ 五 時は莫の古字、假は仆也。培は田間也。壟は實らざる也。情は長也 六 爽は、大に成る也 七 虚は、脆の實ならざるをいふ 八 易は、治也 九 蔵は、希也 一〇 陰は蔭也。陽は日也。咸は皆也 一一 殖は長也 一二 土は墟也。絵は多といふに同じ 一三 扶は證を腹上也 一四 先は進といふに同じ 一五 壟は好也 一六 本は親也 一七 行は列也 一八 蚤は疾也 一九 夫は決也。瞑は塞也。即ち苗を中央に先し治風によりてうごかし、これを

生也必先ㇾ其施ㇾ土也均。均者其生也必堅。是以晦廣以平。則不ㇾ喪ㇾ本。壟生二於地一者五。分ㇾ之以ㇾ地。壟生有ㇾ行。故遨長。弱不二相害一。故遨大。衡ㇾ行必得。縱ㇾ行必術。正二其行一。通二其風一。夬二心中央一。帥爲二洽風一。苗其弱也欲ㇾ孤。其長也欲二相與居一。其熟也欲二相扶一。是故三以爲ㇾ族乃多ㇾ粟。凡禾之患。不二俱生而俱死一。是以先生者美米。後生者爲ㇾ粃。使ㇾ扶ㇾ疏。樹ㇾ墝不ㇾ欲二專生一而族居。肥而扶ㇾ疏則多ㇾ粃。墝而專居則多ㇾ死。不ㇾ知ㇾ稼者。其兄二而養二其弟一。不ㇾ收二其粟一。而敬二其粃一。上下不ㇾ安則禾多死。厚ㇾ土則孳不ㇾ通。薄ㇾ土則蚤枯而不ㇾ發。墟埴冥ㇾ色。剛土柔ㇾ種。免二耕殺匿一。使二農事得一。

長ぜしむるをいふ 一一 弱は小也。即ち苗の始めて生じ、小なる時はその孤特を欲す。疏歌湖中すれば、則ち茂好也。相與に云々は、相依りてたふれざるを欲するをいふ。相扶け云々とは、相扶持して傾折するを欲せざるをいふ 一二 族は叢也 一三 粃は成らざる粟、しひな 一四 大を養ひ小を養す也。慕は開也 一五 肥にして云々は、墟墳ければ自ら通する能はず、故に疾死多しと也

審時

六曰。凡農之道。厚ㇾ之爲ㇾ寶。斬ㇾ木不ㇾ時。不ㇾ

六に曰く、およそ農の道は、これを厚うするを寶と爲す。木を斬りて時ならず、折からずんば必ず穗す。稼就りて穫ずんば、必ず天菑に遇ふ。それ稼は、これ

折必穗。穫就而不ㇾ穫。必遇二天菑一。夫稼爲ㇾ之者人也。生ㇾ之者地也。養ㇾ之者天也。是以人稼之容ㇾ歸。足。歸之容ㇾ歸。據之容ㇾ手。此之謂二耕道一。是以得二時之禾一。長穗長穗。大本而莖殺。疏穊而穗大。其粟圓而薄糠。其米多ㇾ沃而食ㇾ之彊。如此者不ㇾ風。先ㇾ時者莖葉帶ㇾ芒。以二短衡一。穗鉅

を爲むるものは人なり。これを生ぜしむるものは地なり、これを養ふものは天なり。これを以て人、これを稼するに足を容れ、これを歸るに歸を容れ、これに據るに手を容る。これこれを耕道と謂ふ。これを以て時の禾を得。長稠長穗、大本にして莖殺ぐ。疏穊にして穗大なり。その粟圓にして薄糠なり。その米は沃多くして、これを食へば彊し。此の如きものは風ちず。時に先だつものは、莖葉芒を帶ぶるに短衡を以てし、穗は鉅にして芳馨はれ、稻米にして香からず、時に後るゝものは、莖葉芒を帶びて末衡に、穗閎して青く莠つ。粃多くして滿らず、時を得るの黍は、芒莖にして下に徹め、穗芒にして以て長く、摶米にして薄糠、これを舂くこと易くして、これを食ふに、噯かずして香し。此の如きものは、飴せず。時に先だつものは、大本にして莖堅く、短穗にして厚糠、小米鉗して香からず。時を得るの稻は、大本にして莖葆し、長稠疏穊、穗は馬尾の如く、大粒にして芒なく、摶

而芳寧。稆米而不ㇾ膏。後ㇾ時者。莖葉帶ㇾ芒而末衡。穗閎而青莠。多ㇾ粃而不ㇾ滿。得ㇾ時之黍。芒莖而微ㇾ下。穗芒以長。摶米而薄糠。舂之易而食ㇾ之不ㇾ噯而香。如ㇾ此者不ㇾ飴。先ㇾ時者。大本而莖殺。而不ㇾ遂。葉葉短穗。後ㇾ時者。小本而麻長。短穗而厚糠。小米鉗而不ㇾ香。得ㇾ時之稻。

米にして薄糠、これを舂くこと易くして、これを食ひて香し。此の如きものは飴せず。時に先だつものは、本大にして莖葉格對し、短稠短穗、多粃厚糠、薄米にして芒多し。時に後るゝものは、纖莖にして滋からず。厚糠にして粃多く、庳辟米にして恃むを得ず。定りて熟し、天を卬ぎて死す。時を得るの麻は、必ず已以て長く、疏節にして色陽に、小本にして莖堅く、厚皐以て均しく、後れて熟するは菜多く、日夜分れて復た生ず。此の如きものは蟲せず。時を得るの菽は、長莖にして短足、その莢二七以て族を爲し、多枝數節にして、葉を競ひ、實蕃し、大菽は則ち圓く、小菽は則ち搏くして芳を以てし、これを重と稱す。これを食すれば、息するに香を以てす。此の如きものは蟲せず。時に先だつものは、必ず長くして蔓を以てし、浮葉疏節、小莢にして實らず。時に後るゝものは、短莖疏節、本虛にして實らず、時を得るの麥は、稠長くして頸黑く、二七以て行を爲して、薄糕を服し、而して赤色なり。これを重と稱す。これを